表紙

まえがき

　お買い上げいただきありがとうございます。
本書は、レジャーダイビング用ダイブコンピューターをご使用いただくためのガイドブックです。本書は潜水指導団体の講習を受けCカードを取得した方が、ダイブコンピューターの正しい使用方法を習得する上でお役に立つものと考えております。本書を良くお読みになり、内容を十分理解された上で実際にご使用下さいますようお願い致します。また、ダイビング前にこの説明書を見られるよう、お出かけの際はいつもお持ちいただくことをお勧めします。
本取扱説明書は紛失なされぬよう大切に保管してください。紛失された際は、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店におたずねください。
ダイブコンピューターに関する不断の研究・改良の結果、この取扱説明書の内容の中にお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容につきましては、下記までご遠慮なくお問合せください。

株式会社　ビーイズム
東京都中央区日本橋富沢町１６－８　TOOKビル３F　〒１０３－０００６
電話（０３）５６４０－８１２６　　FAX（０３）５６４０－８１３１
Mail：　info@bism.co.jp
URL：http//www.bism.co.jp

本書で使われているマークについて

危険　守らないと重大な怪我や死亡事故につながる危険性が極めて高い事柄です。

警告　守らないと重大な怪我や死亡事故につながる可能性がある事柄です。

注意　守らないと物損事故が起きる可能性がある事柄です。

【お知らせ】知っていると便利な操作や解説です。

必ずお読みください

警告
●本製品をレジャーダイビング以外の目的で使用しないで下さい。
●本製品を使用する際は、この取扱説明書に指示されている安全に関する注意事項をすべて守って下さい。

警告
●ダイビングコンピューターに異常があったら使用しないで下さい。
●異常が見られた場合は、お買い上げ店もしくは弊社商品販売店にご相談ください。正常でないダイブコンピューターの使用は人身事故につながる恐れがあります。

警告
本製品を使う場合も、バックアップツールとして他の機器(水深計、ダイバーズウォッチ等)と併用してください。

警告
必ず、105～114ページの注意事項をお読みになった上、注意事項を守ってご使用ください。

注意
エアブローなどで強い空圧を吹き付けないでください。センサー故障の原因となります。

注意
アルコール、ガソリン等の溶剤類、化粧品等のスプレー液やクリーナー液、接着剤及び塗料などが付着したり、アルカリ、芳香族炭化水素、ハロゲン化炭化水素等で変質します。
これらにより防水性能の低下、破損することがありますので十分注意してください。

【お知らせ】
本製品は電池消耗を軽減するため、出荷時はスリープモードにセットされています。
ご使用前に左下(A)ボタンと右上(S)ボタンを同時に3～4秒間押すことによって
スリープモードを解除してご使用ください。
一度スリープモードを解除すると再びスリープモードにセットすることはできません。

【お知らせ】
電池交換時以外、裏蓋をむやみにあけないで下さい。メーカー保証を受けられなくなります。

目次

本書の構成について

本書は以下の2部構成になっています。

はじめて使う方のために

クイックリファレンス　＞＞＞　13ページ～

・・・基本的な機能、操作方法を簡単に説明します。

使いなれた方のために

コンプリートリファレンス　＞＞＞　21ページ～

・・・高度な機能、操作方法を詳しく説明します。

◆まえがき・・・

目次

▽コンプリートリファレンス　～使いこなす～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
◆時計モード・・ 22
□機能と特徴・・ 23
□時計機能の使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
■時計表示・・ 23
■メイン時計の変更・選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
■国内時間の修正・設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
■海外時間の修正・設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
□カウントダウンタイマーの使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
□クロノグラフの使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
□デイリーアラームの使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
◆ダイブモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
□機能と特徴・・ 33
■ダイブコンピューター動作モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
■バーグラフによる表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
■深度表示・・ 34
■日時表示・・ 35
■温度表示・・ 35
■表示記号・・ 36
□水面モード・・ 37
■ダイブモードの切り替え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
■潜水前計画モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
■飛行機搭乗待機時間モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
■脱飽和モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
■ログモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
■ヒストリーモード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
□設定モード(ノーマル・ゲージモード)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
■Ｆグループ設定　(ナイトロックス設定)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
■Ａグループ設定　(アラーム音設定)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
■Ｕグループ設定　(その他の機能設定)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

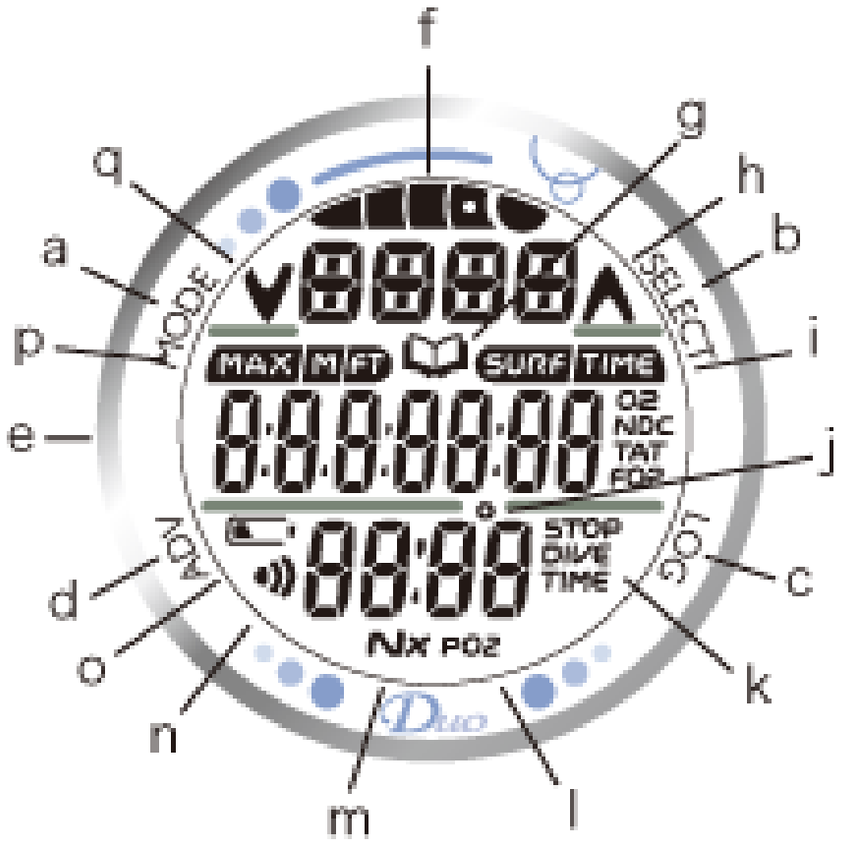
目次

□ノーマルダイブモード・・・

目次

▽付録・・・

各部のなまえと主な機能・特徴

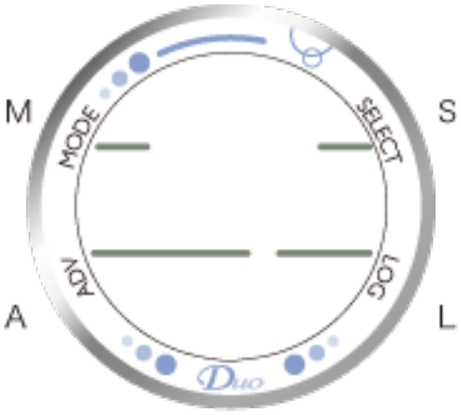


a. MODE（モード）ボタン　　Mボタン
b. SELECT（セレクト）ボタン　Sボタン
c. LOG（ログ）ボタン　　Lボタン
d. ADV（アドバンス）ボタン　Aボタン
e. LED　警告灯
f. バーグラフ
g. ログモードマーク
h. 浮上マーク
i. SURF－水面休息時間
　O2－酸素限界時間
　NDC－無減圧潜水時間
　TAT－合計浮上時間
　FO2－酸素比率設定値
j. 温度記号(°)
k. STOP－必要停止時間
　DIVE－潜水経過時間
l. PO2－体内酸素分圧
m. ナイトロックス
n. アラーム設定マーク
o. 低バッテリーマーク
p. 深度・最大深度
q. 潜降マーク

各部のなまえと主な機能・特徴

□　精度
　　時間精度　　：　平均日差±1秒
　　水深精度　　：　±1%(Full Scale)
　　温度精度　　：　±2℃
□　ログデータ
　　ノーマル及びゲージダイブモード　：　合計で24本分
　　フリーダイブモード　　：　1本(最新ログのみ)
□　計測
　　水深計測　　：　計測範囲　0～100m　(1m単位)
　　潜水時間計測　：　0～9時間59分　(1分単位)
　　高度計測　　：　計測範囲　0～4,270m　(海抜)
　　：　計測間隔　時刻モード時　30分　サーフェスモード時　15分
　　温度計測　　：　計測範囲　-9～+60℃　(1℃単位)
□　作動温度範囲　：　陸上-6～60℃　　水中-2～35℃
□　防水性能　　：　100m
□　電池寿命　　：　約3年　(時計のみの場合)
　　但し出荷時のスリープモードのままの場合は約7年
　　使用状況や保管状態によって電池寿命は大きく変わる事があります。
□　電池交換目安　：　年間50ダイブで約2年
　　年間300ダイブで約1年
　　(1ダイブは約1時間以内として)
□　電池交換　　：　ユーザー交換可能

各部のなまえと主な機能・特徴



（図1）ボタンの
名称と位置

本製品には4つの操作ボタンがあります。
・左上　－　M（モード）ボタン
・右上　－　S（セレクト）ボタン
・右下　－　L（ログ）ボタン
・左下　－　A（アドバンス）ボタン
本書ではそれぞれMボタン、Sボタン、Lボタン、Aボタンと称し解説しています。

時計としての機能

（図2）メイン時計

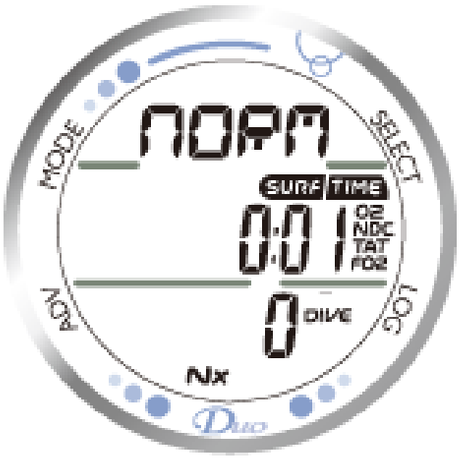
本製品には5つの時計操作モードがあります。
・国内時間
・海外時間　　"∞"表示
・カウントダウンタイマー　"TIMR"表示
・クロノグラフ　　"CHRO"表示
・デイリーアラーム　　"ALRM"表示

国内時間は通常居住地、海外時間は渡航先など、時差のある地域用の現地時間を設定できます。
すべての機能が作動するためのベースとなる時間（メイン時計）を国内時間と海外時間のどちらかに切り替えることができます。

各部のなまえと主な機能・特徴

ダイブコンピューターとしての機能

本製品には3つのダイブコンピューター操作モードがあります。
・ノーマルダイビング　"NORM"表示（図3）
　空気とナイトロックスダイビング用
・ゲージダイビング　"GAUG"表示（図4）
　計測用(窒素-酸素の計算は行われません)
・フリーダイビング　"FREE"表示（図5）
　フリーダイビング用



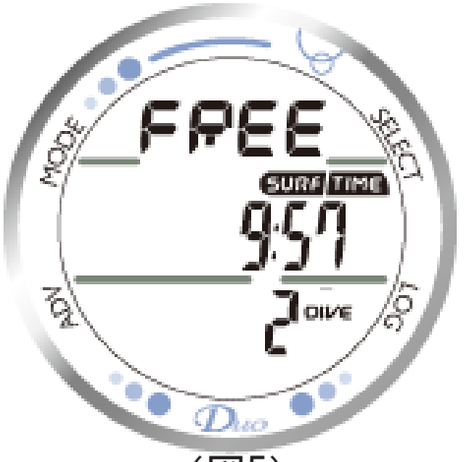
（図3）

ノーマルモードでは、プラン(潜水計画)、飛行機搭乗待機時間、残留窒素排出時間などを表示する事ができます。

ゲージモードでダイビングが行われた場合、ダイビング後24時間はゲージモードのままロックされます。

（図4）

どのモードが起動していたとしても1.5メートルに5秒間潜降すると、自動的に選択したダイブモードに切り替わります。
(接水起動設定がON(初期設定)の場合)
(59ページ)

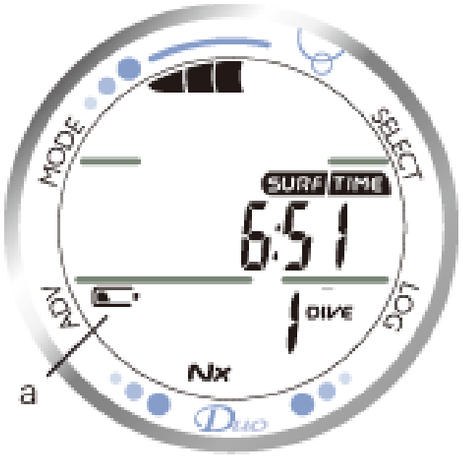


（図5）

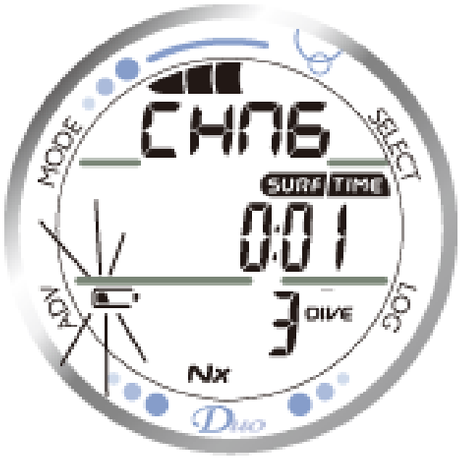
警告

接水起動設定がOFFの場合は反復潜水の1本目の前に水面モード(ノーマル・ゲージ又はフリー)になっている必要があります。時計モードでダイビングを開始しても、接水起動設定がONでない場合はダイブモードになりません。

各部のなまえと主な機能・特徴



（図6）
低バッテリー注意



（図7）
低バッテリー警告

■電源

電源は3ボルトのCR2430リチウム電池を使用します。ダイブコンピューターとして用いた場合、電池交換の目安は年間50ダイブで2年。年間300ダイブで約1 年です。

・電圧が注意レベル(2.75ボルト)まで下がると、電池アイコンが表示されて電池残量が減ったことをお知らせします。
この時点で電池交換してください。　(図6a)

・電圧が警告レベル(2.50ボルト)まで下がると、電池アイコンが点滅し、画面上部に”CHNG>BATT”表示がスクロールします。(図7)
動作モードは自動的にメイン時計モードに戻ります。
その後バッテリーが完全になくなるまで、時計モードでのみ作動します。

・低バッテリー注意・警告はダイブモード中は表示されません。

【お知らせ】
電池交換すると、ログデータは消去されますのでログブック等に控えておいてください。

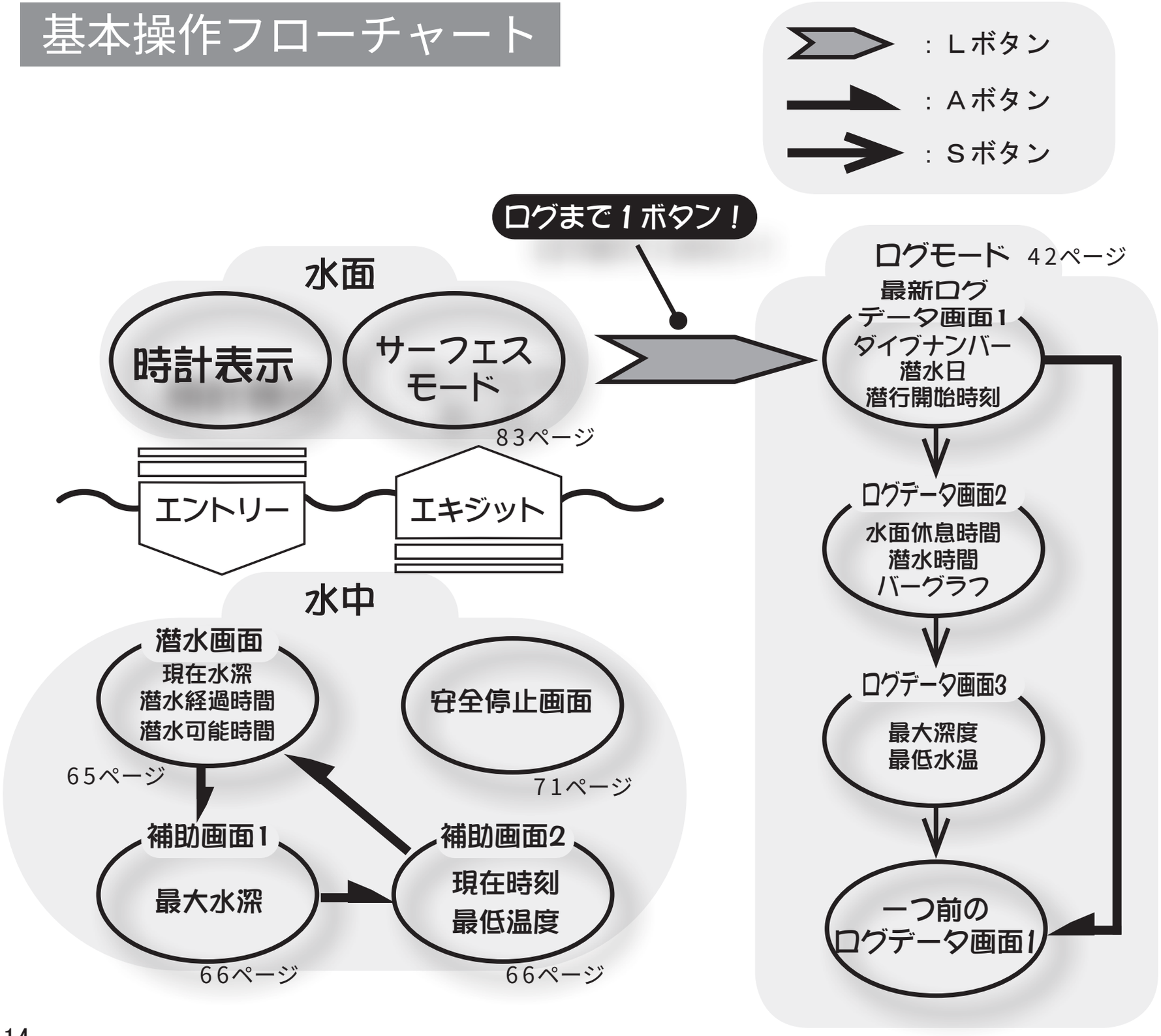
■バックライト

バックライトはLボタンを長押しすると点灯します。
0、5、10秒の持続時間の設定ができます。(61ページ)
0秒に設定した場合、Lボタンを押し続けると一定間隔でバックライトが点滅します。

【お知らせ】
バックライトの使いすぎは電池消耗の原因になります。
また、バックライトは低バッテリー状態では作動しません。

クイックリファレンス
～Ｄｕｏを使ってみる～

基本操作フローチャート



クイックリファレンス　～使ってみる～

準　備

時刻を合わせる

現在時刻を確認し、ずれている場合は25ページの解説に沿って時刻を修正します。

（図8）

点検・設定確認

盤面内部に曇りや水滴がないか、ガラス面や外部に破損している箇所がないか点検します。
46,59ページの解説に沿って、接水起動設定がONになっていることを確認します。

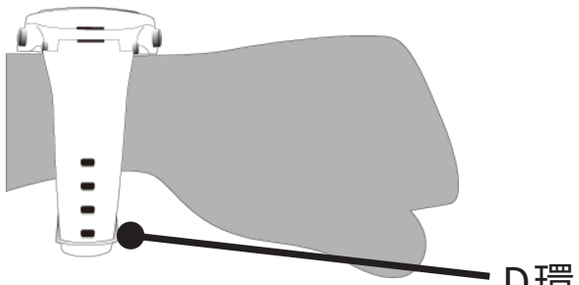
（図9）

クイックリファレンス　～使ってみる～

装　着

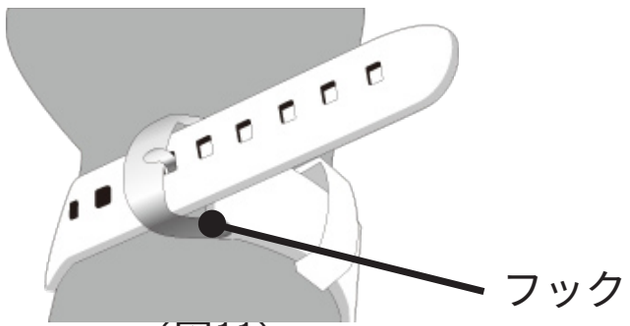
⚠注意

●つけはずしの際、不意に落とすことが考えられます。破損しないように高さのないところで、軟らかいものの上でつけはずしをしてください。
●正しく装着しないと落とすなどして破損・紛失をまねく恐れがあります。
●ダイビングスーツの種類によっては水圧により生地厚が収縮します。スーツの上に装着する場合は、手首回りの長さが変化するためダイビング中に止め位置をかえる必要があります。



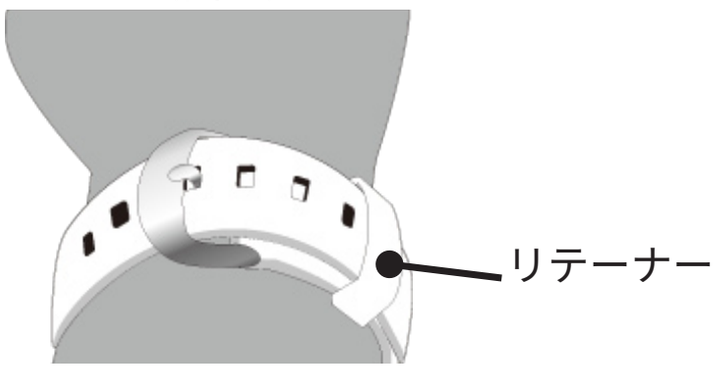
（図10）

左手首に本体をのせた状態で、ベルトの先端をD環に通します。



（図11）

適度な位置の止め穴にフックをかけます。



（図12）

リテーナーにベルト先端を通します。

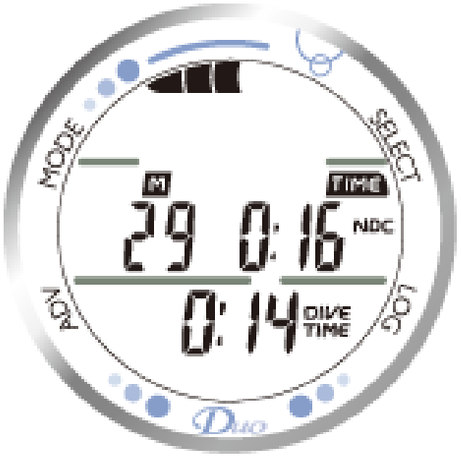
はずす際は逆の手順になります。

クイックリファレンス　～使ってみる～

ダイビング

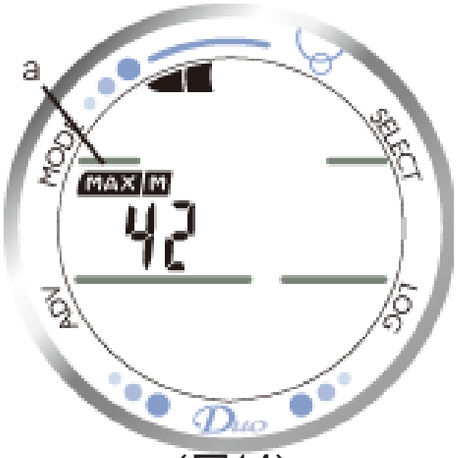
ダイブモード

水深1.5m以深に5秒間潜水すると自動的にダイブモードに切り替わります。（ボタン操作なし）　(図13)
潜水中の表示画面(無減圧潜水画面)では
a. 現在水深
b. 無減圧潜水可能時間
c. 潜水経過時間
d. バーグラフ(体内窒素蓄積量)
が表示されます。



(図13)

潜水中にAボタンを押すと補助画面1に切り替わります。(図14)
補助画面1ではそのダイビングでの最大水深が表示されます。

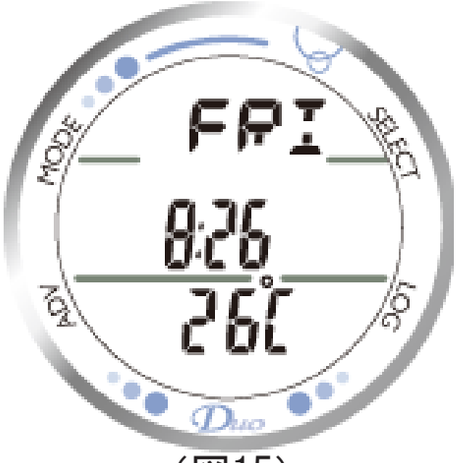


(図14)

補助画面1を表示中にAボタンを押すと補助画面2に切り替わります。(図15)

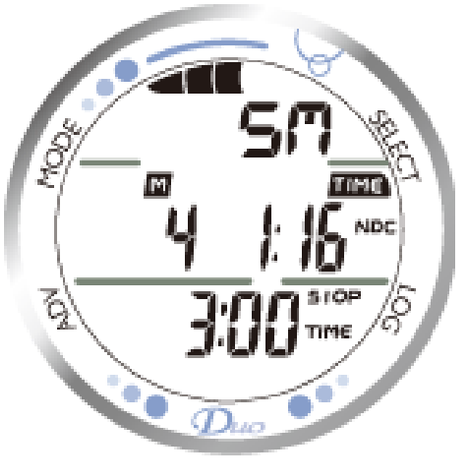
補助画面2では曜日、現在時刻、温度が表示されます。

もう一度Aボタンを押すと無減圧潜水画面に戻ります。



(図15)

安全停止



（図16）

ダイビングの終わりに水深5mまで浮上すると3分間の安全停止カウントダウンが始まります。（図16）
　※安全停止の深度と時間は選択することができます。（60ページ）
無減圧安全停止画面では
a. 設定安全停止深度
b. 安全停止時間カウントダウン
が表示されます。

浮上後

サーフェスモード

（図17）

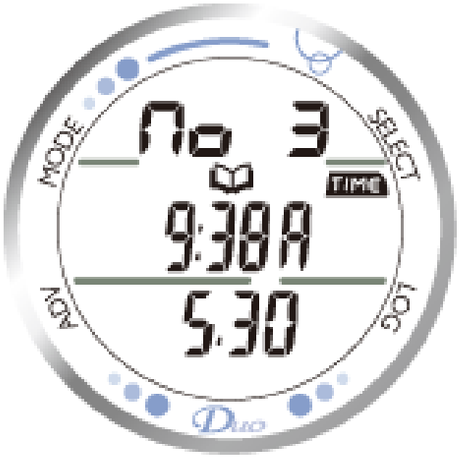
水深0.6mまで浮上するとサーフェスモードに切り替わり、水面休息時間の計測をはじめます。（図17）
10分以内に再び潜行すると、ダイビングが継続しているものとして計算を続けます。

クイックリファレンス　～使ってみる～

ログ　～ログまで１ボタン～

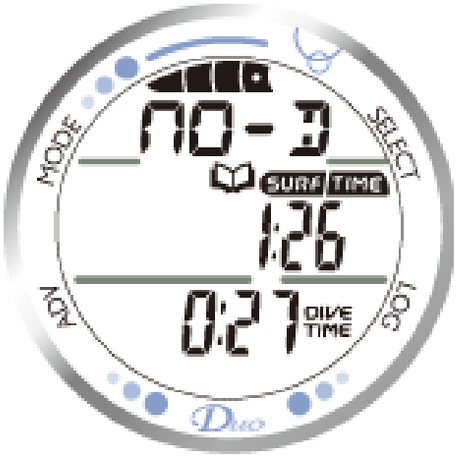
ログの見方

浮上後、Lボタンを押すと最新のログデータ画面1に切り替わります。　(図18)
ログデータ画面1では
a. ダイブナンバー
b. 潜水日
c. 潜行開始時刻
が表示されます。
Sボタンを押すとログデータ画面2へ切り替わります。



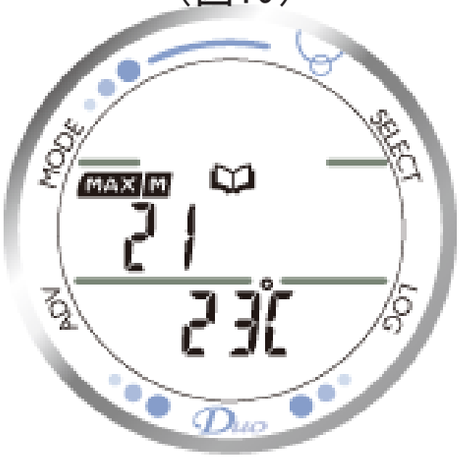
(図18)

ログデータ画面2(図19)では
a. バーグラフ(体内窒素蓄積量)
b. 水面休息時間
c. 潜水時間
が表示されます。
Sボタンを押すとログデータ画面3へ切り替わります。



(図19)

ログデータ画面3(図20)では
a. 最大深度
b. 最低水温
が表示されます。
Sボタンを押すとひとつ前のログデータ画面1へ切り替わります。



(図20)

クイックリファレンス　～使ってみる～

お手入れ

洗う

ダイビング終了後は全体を真水ですすぎ洗いします。
洗剤や薬品類は使用しないでください。
汚れや水垢が付着した場合は軟らかい布でふき取るようにしてください。

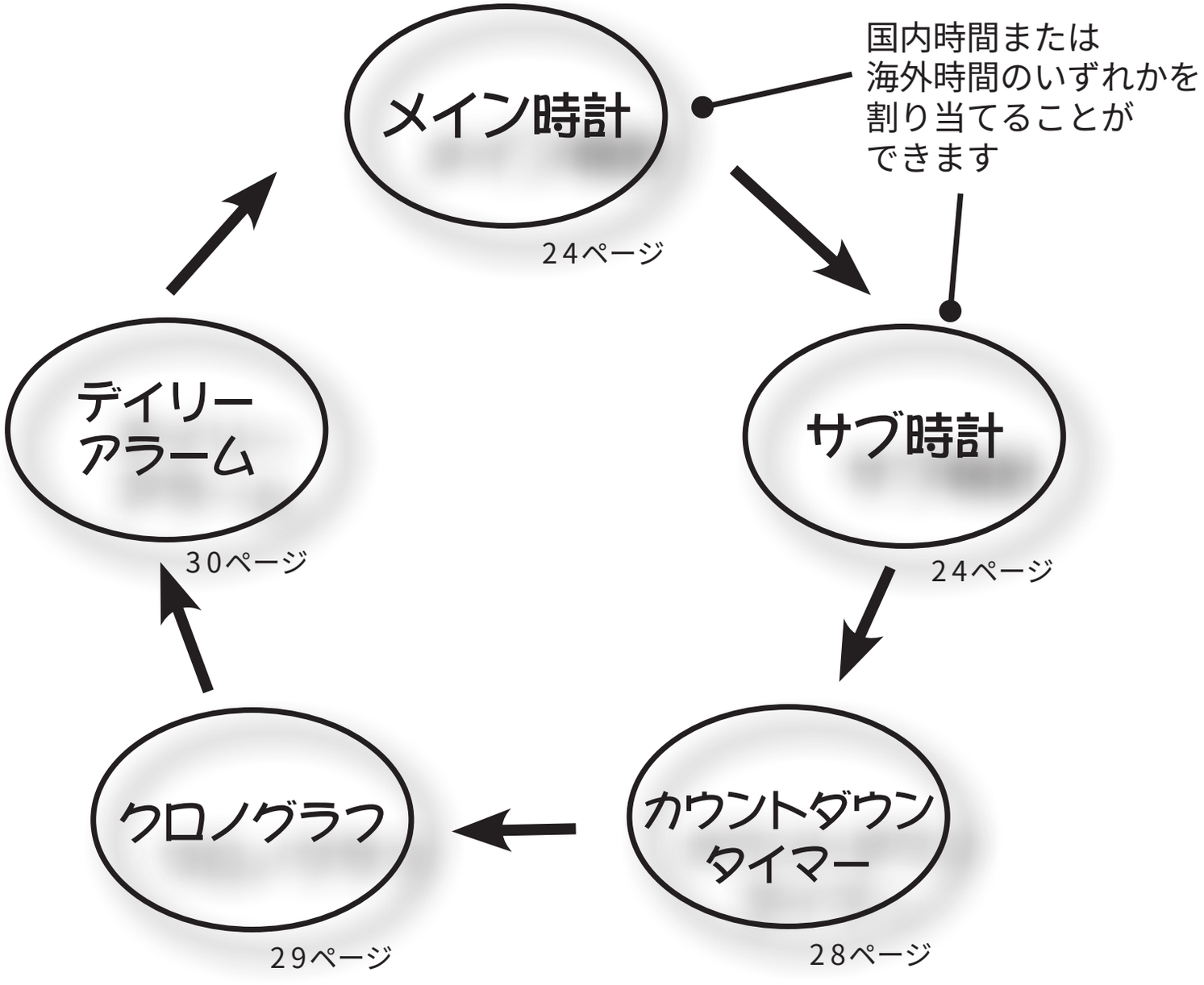
乾燥・保管

洗浄を十分に行った後は直射日光を避け、涼しく乾燥した風通しのよい日陰で乾燥させ、保管します。
高圧空気を使用して乾燥させると故障の原因となります。
ダイビング後は濡れたものと一緒に放置しないでください。

ご使用になる前に105～114ページの注意事項は必ずお読みください。

コンプリートリファレンス
～Ｄｕｏを使いこなす～

時計モード


：Mボタン
メイン時計
国内時間または
海外時間のいずれかを
割り当てることが
できます
24ページ
サブ時計
24ページ
カウントダウン
タイマー
28ページ
クロノグラフ
29ページ
デイリー
アラーム
30ページ

コンプリートリファレンス　～使いこなす～

時計モード

機能と特徴

本製品には時計モードの機能として、以下の5つの機能があります。
①国内時間　(図21)
②海外時間　(図22)
③カウントダウンタイマー
④クロノグラフ（ストップウォッチ）
⑤デイリーアラーム（目覚まし）

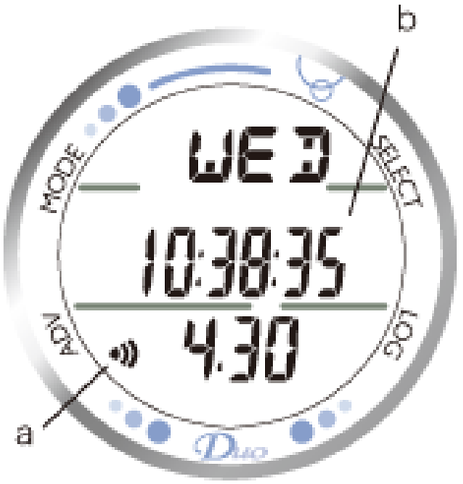
(図21)

時計機能の使い方

■時計表示
・時計表示は、上段に曜日、中段に時間（時：分：秒）、下段に月・日が表示されます。
（本体が水分を感知している場合は、曜日表示部に”WET”と表示されます）
・残留窒素がある場合は、バーグラフが表示されます。
・アラームがONになっている場合は、下段左側にアラームマークが表示されます。(図23a)
・電池残量が少なくなっている場合は、下段左側にバッテリーマークが表示されますのでバッテリーを交換してください。

(図22)

Aボタンを長押しすると、下段(日付表示部)に温度が約4秒間表示されます。



(図23)

【お知らせ】
温度は体温・太陽光など、環境に影響されますので正確な温度を示さないこともあります。

時計モード

5つの機能は、Mボタンを押すことによって順次選択できます。
以下の2つの順番で切り替わります。

・国内時間がメイン時計（＝先頭画面）の場合

国内時間→海外時間→カウントダウンタイマー→クロノグラフ→デイリーアラーム

・海外時間がメイン時計（＝先頭画面）の場合

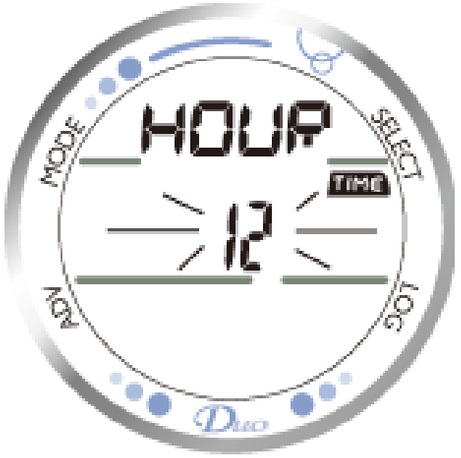
海外時間→国内時間→カウントダウンタイマー→クロノグラフ→デイリーアラーム

■メイン時計の変更・選択
・メイン時計が国内時間となっており、海外時間にメイン時計を変更したい場合
（初期設定は国内時間がメイン時計になっています）
Mボタンを押して海外時間画面を選択し、Sボタンを長押しすると、一度画面が点滅し、
変更されたことをお知らせします。

・メイン時計が海外時間となっており、国内時間にメイン時計を変更したい場合
（海外から帰国した場合など）
Mボタンを押し、国内時間画面を選択し、Sボタンを長押しすると、一度画面が点滅し、
変更されたことをお知らせします。

■国内時間の修正・設定
国内時間は、表示形式（12又は24時間表示）→時→分→年→月→日の順で設定できます。曜日は、日付を設定することで自動的に設定されます。

国内時間を修正・設定するには、メイン時計に国内時間が選択されている必要があります。海外時間が選択されている場合は設定できません。



（図24）表示選択

〇国内時間の修正・設定手順
国内時間の表示画面で、AボタンとSボタンを同時に長押しすると、上段が”HOUR”表示画面となり、”12”又は”24”の数字が点滅します。（図24）
（“12”は12時間表示、”24”は24時間表示です。12時間形式に設定されている場合は、”A”(=午前)又は”P”(=午後)表記が表示されます）

Sボタンを押して、”12”と”24”を切り替えできます。
次にAボタンを押すと時間表示が点滅し、Sボタンで時間を設定できます。　（図25）

（図25）時間設定

次にAボタンを押すと分表示が点滅し、Sボタンで分を設定できます。　（図26）

（図26）分設定

（図27）年設定

次にAボタンを押すと、年表示が点滅し、Sボタンで設定できます。
(2008～2049年まで設定できます。)　　(図27)
次にAボタンを押すと、月表示が点滅し、Sボタンで設定できます。
(図28)

次にAボタンを押すと、日表示が点滅し、Sボタンで設定できます。
(図29)

最後にAボタンを押して設定は完了します。

（図28）月設定

【お知らせ】
年は日付設定以外のモードでは表示されません。
電池交換すると、日付は2008年1月1日にリセットされます。

（図29）日設定

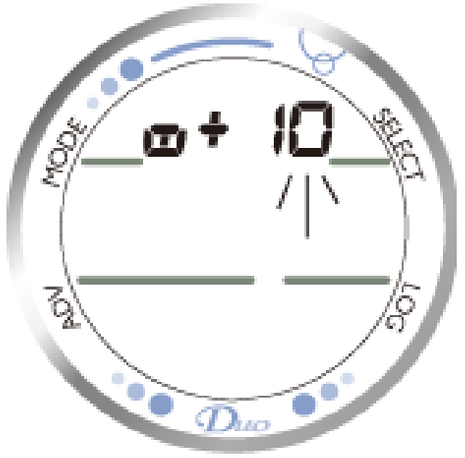
■海外時間の修正・設定

海外時間は、OFF又は時差(-23～+23時間)で設定します。
時計モードで上段曜日表示の左側に”∞”マークが点灯している状態が海外時間であることを表します。　(図30a)

（図30）海外時間

【お知らせ】
海外時間を修正・設定するには、メイン時計に国内時間が選択されている必要があります。海外時間が選択されている場合は設定できません。

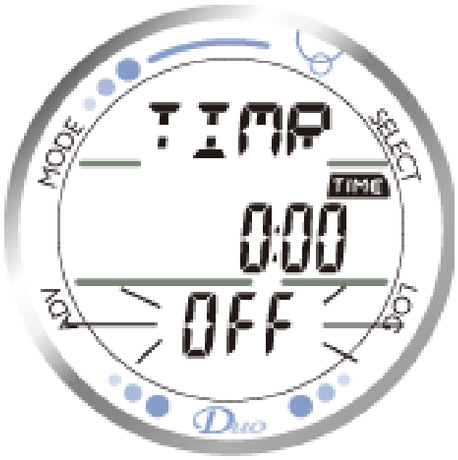
〇海外時間の修正・設定手順
海外時間の表示画面で、AボタンとSボタンを同時に長押しすると、上段が点滅した状態になります。　(図31)
Sボタンを押して修正します。
表示は、”∞OFF”　”∞+01”～”∞+23”　”∞-23”～”∞-1”の順で繰返し変わります。
“∞OFF”は、時差0で、海外時間が設定されていない状態です。
プラス時差の場合は、「∞+時差」で設定します。
マイナス時差の場合は、「∞-時差」で設定します。
Aボタンを押して設定は完了します。



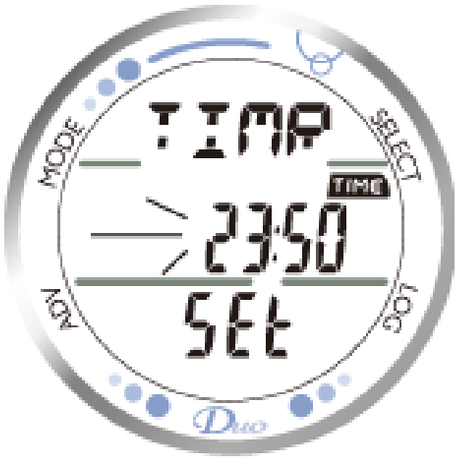
（図31）時差設定

設定が完了していても、メイン時計として選択していない場合は、各モードは国内時間で作動し、海外時間では作動していません。

2分間ボタン操作が行われなかった場合、メイン時計画面に戻ります。



（図32）



（図33）

（図34）

カウントダウンタイマーの使い方

時間をカウントダウンし、0になった時アラーム音でお知らせします。
表示単位は分までです。
23時間59分までのカウントダウンを行うことができます。

■設定及び操作手順

・メイン時計画面からMボタンを2回押して、カウントダウンタイマーの画面を選択します。　("TIMR"表示)
・カウントダウンタイマー画面は前回利用した時：分が表示され、下段に”OFF”が点滅します。　(図32)
（カウントダウン動作中は”ON”が点滅しています）
・この画面で、AボタンとSボタンを同時に長押しすると、中段の時間表示が点滅します。　(図33)
・Sボタンで時間を設定します。
・次にAボタンを押すと分の表示が点滅します。
・Sボタンで分を設定します。
・最後にAボタンを押して時間設定は完了します。
・カウントダウンはSボタンを押すとスタートします。
スタートすると中段の時間表示の”：”部分が点滅を始め、下段の”ON”が点滅します。　(図34)
・カウントダウンの時間が0に到達すると、10回のアラーム音とLED点滅でお知らせします。
・Sボタンを押すと、アラーム音を止めることができます。

【お知らせ】
2分以上のカウントダウンを行う場合、カウントダウンが2分以上経つと自動的にメイン時計画面に戻りますが、カウントダウンは継続しています。

クロノグラフの使い方

本製品はストップウォッチ機能を装備しています。
ラップタイムは9ラップまで記録でき、9ラップを記録後の追加ラップは最後のラップと入れ替わり、古いラップから順次削除されます。

■操作手順

・メイン時計画面からMボタンを3回押して、クロノグラフの画面を選択します。("CHRO"表示)
画面は”0:00:00.00”が点滅しています。　(図35)
（稼動中であれば経過時間が表示されています）

・Sボタンを押すとスタートします。
00:00:00.00～9:59:59.99(時：分：秒.1/100秒)まで、1/100秒単位でカウントします。

・最初の4秒間は1/100秒の値が表示され、その後は”.- -”と表示されます。1/100秒の値はラップを刻んで後に呼び出された時に記録して表示されます。

・Sボタンを繰り返し押すごとに、ラップ・タイムを刻みます。

・時間が9:59:59.99に到達した場合、ストップしてその数字をラップとして記録します。

・Aボタンを押すと、タイマーを止めて”LAP1”表記（点滅）とLAP1タイムを表示し、Aボタンを押すごとに、その他のラップ及び記録を表示します。　(図36)

・Aボタンを長押しするとタイマーを止めて0:00:00.00(点滅)にリセットします。

・クロノグラフが稼働中は他の画面に切り替わってもクロノグラフは動き続けています。
ただし、稼動中にダイビングを始めた場合、クロノグラフ機能は終了し、0:00:00.00にリセットされます。

(図35)

(図36)

デイリーアラームの使い方

デイリーアラーム(目覚まし)を設定しておくと、毎日設定された時刻にアラーム音でお知らせします。（LEDも点滅します）

（図37）

■設定及び操作手順

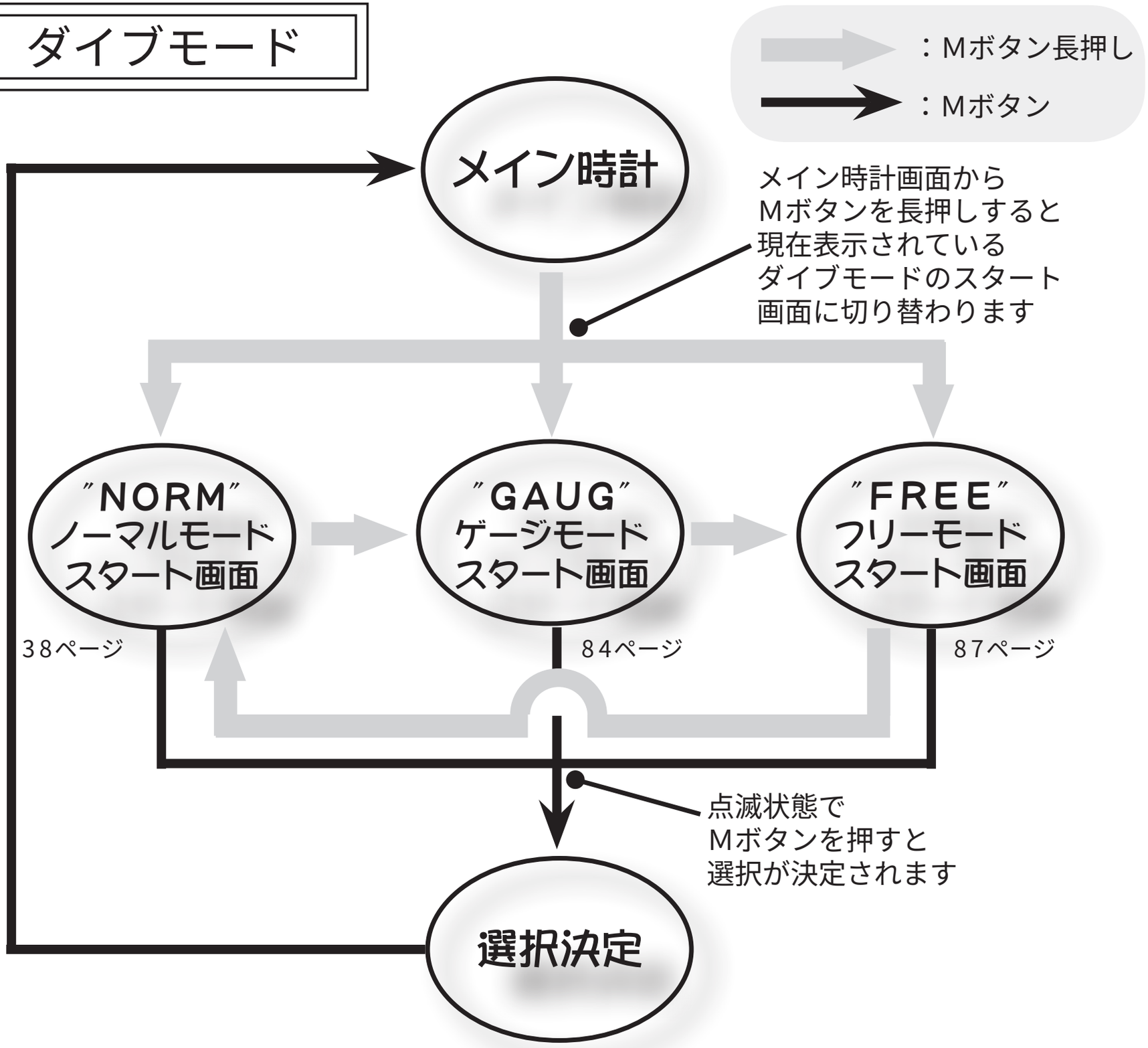
・メイン時計画面からMボタンを4回押して、アラームの画面を選択します。　（“ALRM”表示）
・この画面で、AボタンとSボタンを同時に長押しすると、中段の時間表示が点滅します。Sボタンで時間を設定します。　（図37）
・次にAボタンを押すと分の表示が点滅します。Sボタンで分を設定します。
・Aボタンを押して時間を確定します。
・次にON/OFFの切り替えを行います。”ON”、”OFF”は下段に点滅表示されています。　（図38）
・Sボタンを押すと、切り替えできます。
“ON”に設定して完了です。
・画面下段にアラームマークが表示されます。

（図38）

【お知らせ】
メイン時計画面に海外時間を選択している場合はアラームも海外時間での動作となります

memo

ダイブモード


：Mボタン長押し
：Mボタン
メイン時計
メイン時計画面から
Mボタンを長押しすると
現在表示されている
ダイブモードのスタート
画面に切り替わります
″NORM″
ノーマルモード
スタート画面
38ページ
″GAUG″
ゲージモード
スタート画面
84ページ
″FREE″
フリーモード
スタート画面
87ページ
点滅状態で
Mボタンを押すと
選択が決定されます
選択決定

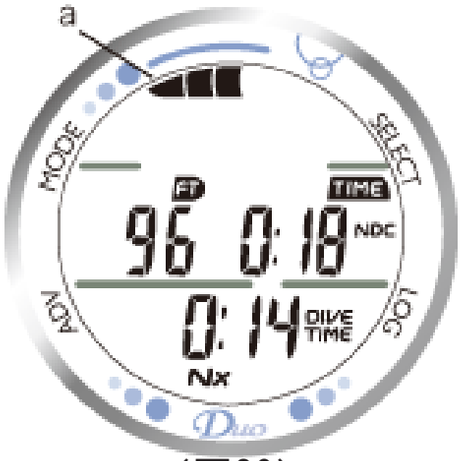
ダイブモード

機能と特徴

■ダイブコンピューター動作モード
本製品にはダイブコンピューターとして3つの動作モードが
　あります。
①ノーマルモード：空気潜水またはナイトロックス潜水用
②ゲージーモード：窒素/酸素計算をしないダイビング用
③フリーモード　：フリー・ダイビング用

■バーグラフによる表示
本製品には体内窒素量や体内酸素量をバーグラフによって表す機能があります。
空気潜水のバーグラフ(図39a)は体内窒素量を示しています。

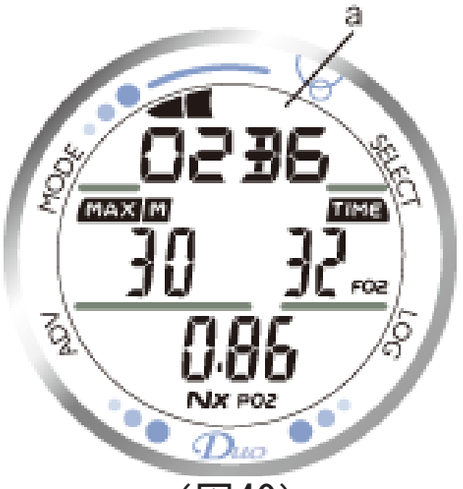
深度と潜水経過時間が増すにつれバーグラフの目盛が増え、より浅い深度に浮上するにつれて目盛は減り無減圧潜水時間が増えた事を表します。



（図39）

バーグラフは12の仮想体内組織コンパートメントを同時に監視し、そのダイビングを制するコンパートメントの値を表示します。
バーグラフには5つの目盛があり、左側の4つは無減圧状態を示し、一番右側にある5番目の目盛に達した時は減圧潜水状態を示します。

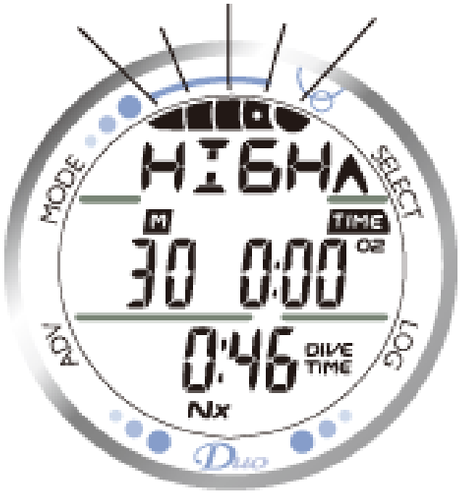
ナイトロックスモードに設定されている場合、体内酸素量を表すバーグラフを表示することができます。その際は”02BG”が表示されます。　(図40a)



（図40）

バーグラフがどちらの値を表示していても、窒素と酸素の値は同時に計算され続けています。

ダイブモード

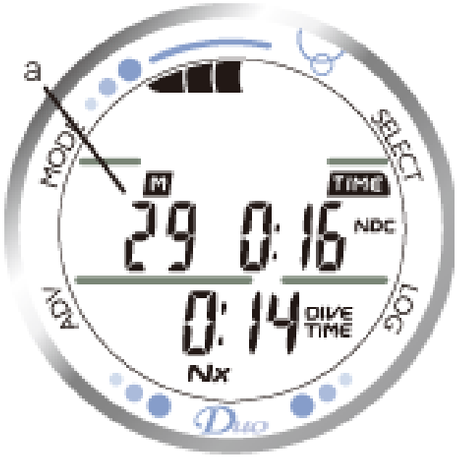


（図41）

ナイトロックスダイブ中は、別画面でバーグラフによって、単一ダイブごとの体内酸素量又は24時間以内の反復潜水で蓄積された体内酸素量のいずれかの最大値を表示します。

ナイトロックスダイブ中に体内酸素量が増えるにつれてバーグラフに目盛が追加され、24時間以内の最大体内酸素量が増えた事を表します。

24時間ごとに10ダイブまでの体内酸素量の計算を保存します。もし体内酸素量が24時間の限界値を超えてしまった場合、バーグラフの全ての目盛が点滅します。　（図41）



（図42）

バーグラフが左4つの目盛の範囲内、つまり24時間以内の直近のダイビングが終わった時点で体内酸素量に余裕がある状態でなければ、PLANモードは表示されません。

【お知らせ】
減圧症の発生に対し、バーグラフ警告音(55ページ)と、
セーフティー設定(61ページ)により、さらに安全にダイビングをする設定が可能です。

（図43）

■深度表示
ダイブ中、現在深度(図42a)と別画面で表示される最大深度(図43a)は水深0～100メートルを0.1メートル単位で表示します。

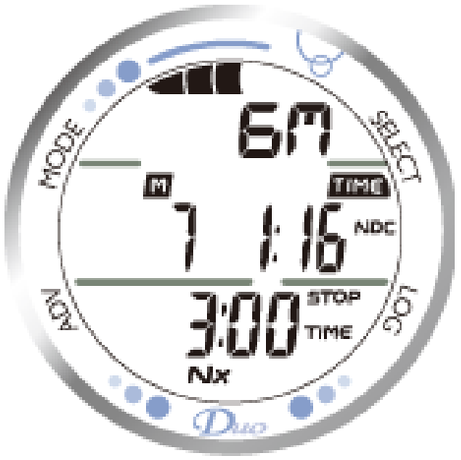
無減圧潜水の安全停止中は停止深度(図44)が表示され、減圧潜水状態では減圧停止深度が表示されます。

ダイブモード

■日時表示
現在時刻はノーマル・ゲージモードでは時間：分形式で表示されます。
フリーモードでは分：秒形式で表示されます。

時間と分(分と秒)の間の″：”は水面休息時間、潜水経過時間などの実測時間を表示している場合は1秒に1回点滅し、飛行待機時間、ダイブプランなどの計算された予測値を表示している場合は点滅しません。

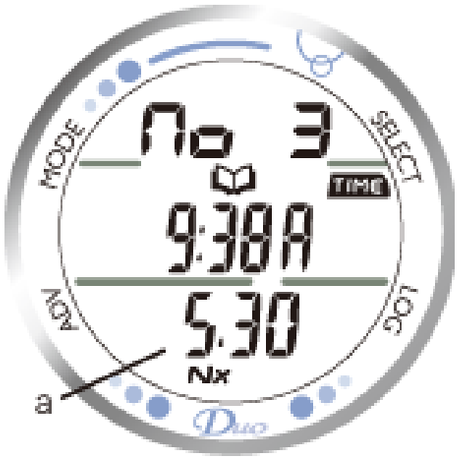
日付はログモードで表示され、″月．日”の順に表示されます。
(図45a)



(図44)

■温度表示
周囲温度は別画面で確認することができます。　(図46a)

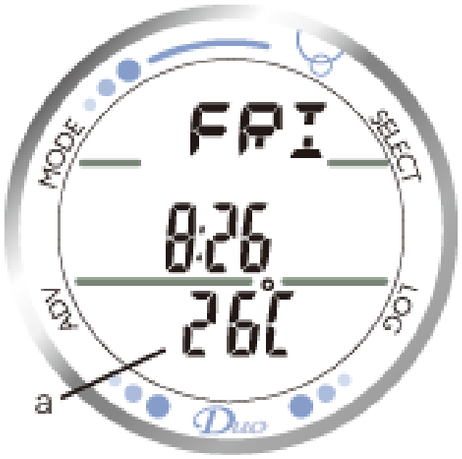
ノーマル・ゲージモードでのダイブ中に記録された最低温度が、そのダイビングのログに記録されます。



(図45)

【お知らせ】
ダイブコンピューターの誤操作を避ける為にも、表示される情報の形式・範囲・値を理解しておく事が必要です。

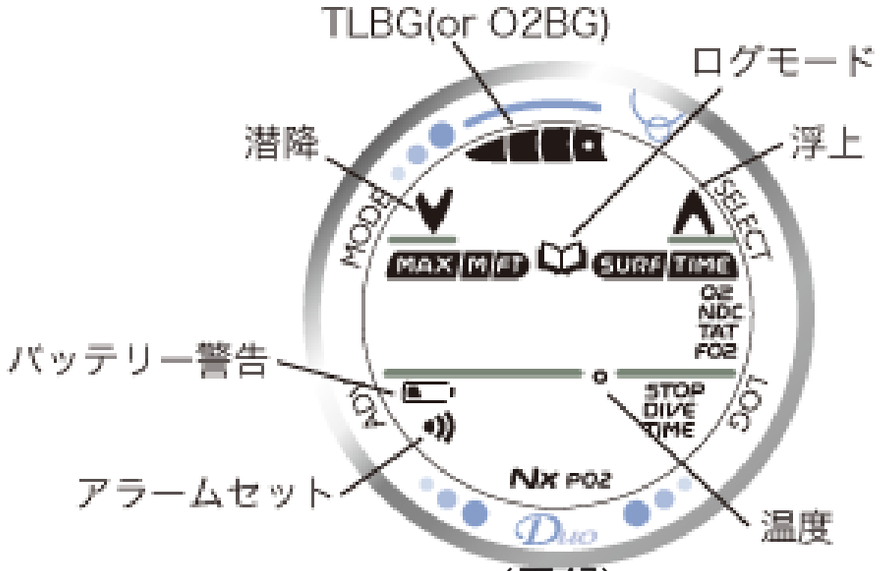
また、記号・アルファベット・数字等によるメッセージ表記も理解しておいてください。



(図46)

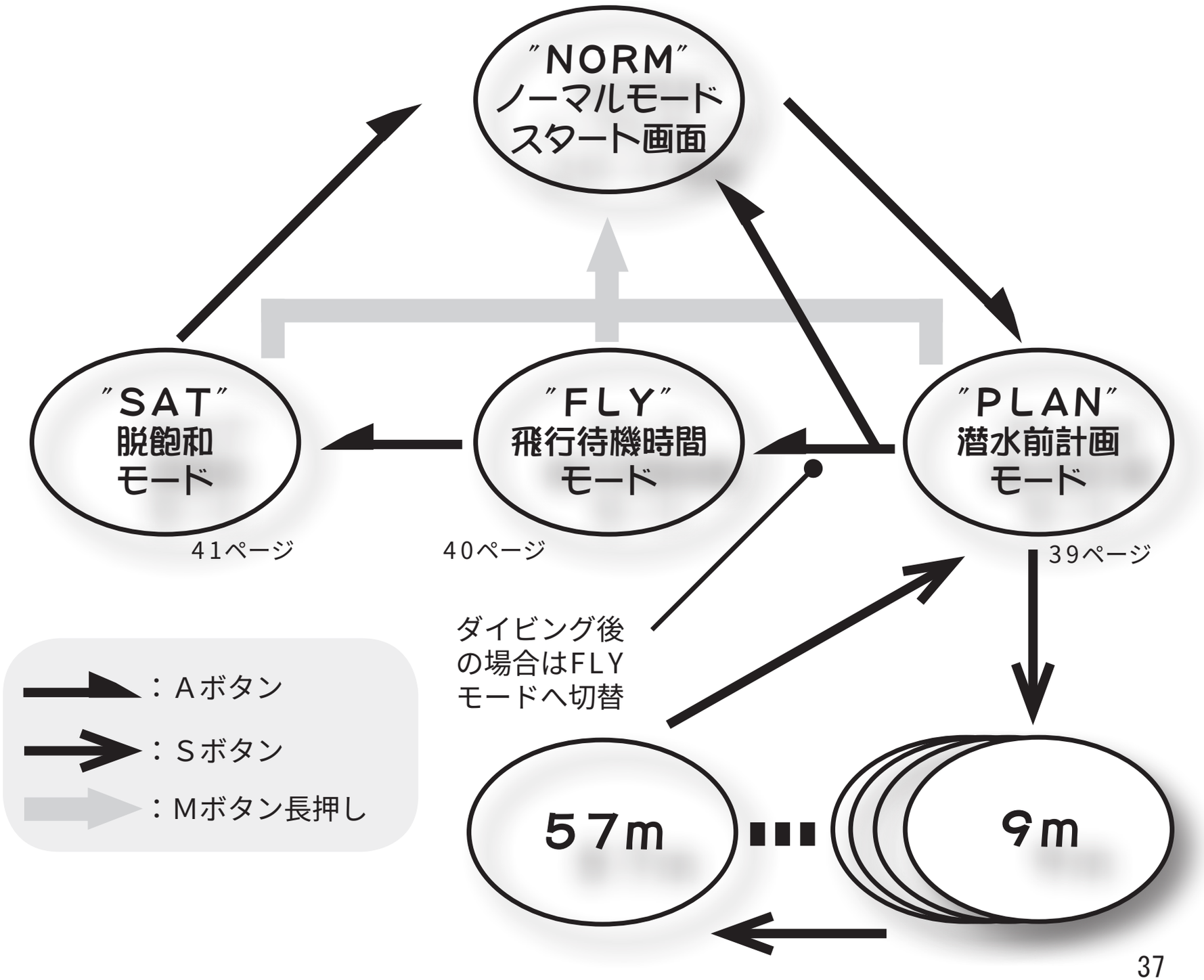
■表示記号

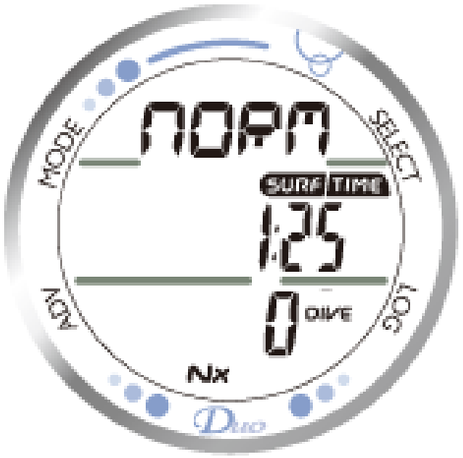
表示記号	内容
MAX	最大水深(又はPO2：酸素分圧)
M(又はFT)	深度単位(メートル又はフィート)
SURF TIME	水面休息時間 ノーマル・ゲージモードの場合は(時：分)を表示 フリーモードの場合は(時：分：秒)を表示
TIME O2	O2潜水可能時間(時：分)
TIME NDC	無減圧潜水可能時間(時：分)
TIME TAT	合計浮上時間「減圧停止プラス浮上時間(時：分)」
FO2	FO2（酸素比率）設定値
STOP TIME	減圧停止時間(時：分)又は安全停止時間(分：秒)
DIVE TIME	潜水時間 ノーマル・ゲージモードの場合は(時：分)を表示 フリーモードの場合は(時：分：秒)を表示
Nx	ナイトロックスダイビングFO2（酸素比率）の 設定が21～50%に設定されている場合に表示



（図47）

ノーマルダイブ 水面モード





(図48)

水面モード

■ダイブモードの切り替え
メイン時計画面からMボタンを長押しすると、現在選択されている
ダイブモードのスタート画面(“NORM”、”GAUG”、”FREE”)に
切り替わります。

各ダイブモードスタート画面では
・選択ダイブモード、高度ランク
・水面休息時間
・ダイブナンバー
を表示します。　(図48)

ゲージ・フリーモードのスタート画面はノーマルモードスタート画面
からMボタンを長押しするごとに切り替わります。
“GAUG”または”FREE”の表示が点滅して、それらのダイブモードが
セット可能になります。
選択したいモードの表示が点滅している間にMボタンを押して
下さい。
点滅が点灯に変わると、そのモードを選択したことを示します。

選択されたダイブモードはダイビング後2時間表示され続けます。

潜水前計画モード

■潜水前計画(PLAN)モード

無減圧又は体内酸素蓄積量の限界を超えないダイビングを計画する為に、潜水前計画をたてることをお薦めします。PLANモードでは前回ダイビングと水面休息の後の体内窒素量または体内酸素量のいずれかに基づいて、次のダイビングでの無減圧潜水時間を示すため、反復潜水をする際には特に大切です。

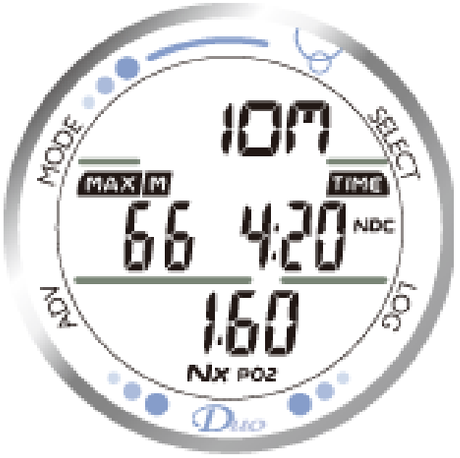
（図49）

【お知らせ】
PLANモードで計算された無減圧潜水時間は、酸素比率(FO2)の設定値に基づいています。

ノーマルモードスタート画面でAボタンを押すと、PLANモードに切り替わります。　（図49）

PLAN画面では、Sボタンを押すごとに、計画深度が3メートルずつ増し、各深度における無減圧潜水時間を表示していきます。

深度は9～57メートルの範囲で、反復潜水を考慮した理論上の無減圧潜水時間を許容する最大深度まで増えていきます。　（図50）



（図50）

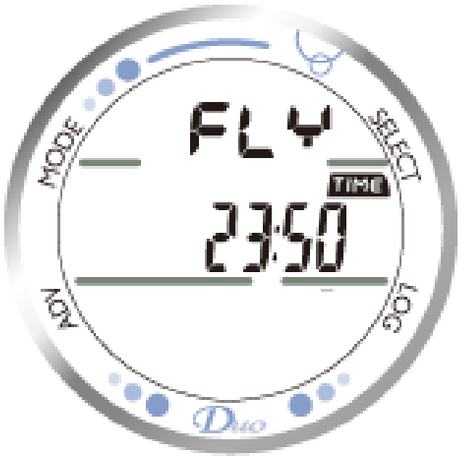
【お知らせ】
セーフティ設定がONに設定されている場合、無減圧潜水時間は実際より915メートル高い高度での時間を表示します。
（無減圧潜水時間が短く計算されます）

【お知らせ】
ゲージモード及び違反警告の出たダイビングの後はPLANモードは表示できません。

ダイビング後であればAボタンを押すと飛行機搭乗待機時間(FLY)モードに進みます。

Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

飛行機搭乗待機時間モード



(図51)

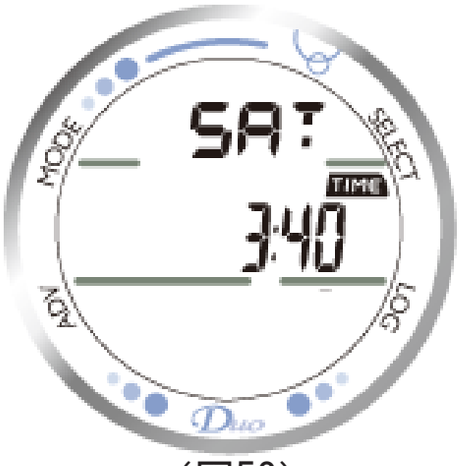
■飛行機搭乗待機時間(FLY)モード
航空機搭乗までの待機時間カウンターは、水面に浮上した10分後から23時間50分のカウントダウンを始めます。　(図51)
水面に浮上して10分経過すると、 航空機搭乗までの待機時間カウンターが背景で動きながら、メイン時計画面に戻ります。

○FLYモードへの切り替え
・まず時計画面からMボタンを長押しし、ノーマルまたはゲージモードスタート画面へ切り替えます。
・ノーマルモードスタート画面でAボタンを2回押すと、FLYモードに切り替わります。
・ゲージモードスタート画面表示中はAボタンを1回押すと、FLYモードに切り替わります。
・フリーモードダイブ後は、ノーマルモードスタート画面を表示させてから切り替えます。

→Aボタンを押すと、脱飽和(DESAT)モードに進みます。
→Mボタンを長押し、または2分間ボタン操作がない場合はノーマルまたはゲージモードスタート画面に戻ります。

脱飽和モード

■脱飽和(DESAT)モード
脱飽和までの待機時間カウンターは、セーフティ設定を考慮した
海水面での細胞組織の脱飽和に必要な時間を計算して表示します。
画面には"SAT"と表示されます。
水面に浮上した10分後から最大23時間50分のタイマーカウントダウン
を始めます。　(図52)



(図52)

脱飽和モードは、最終ダイブから24時間表示可能です。
24時間以上の脱飽和時間は「23:- -」と表示されます。

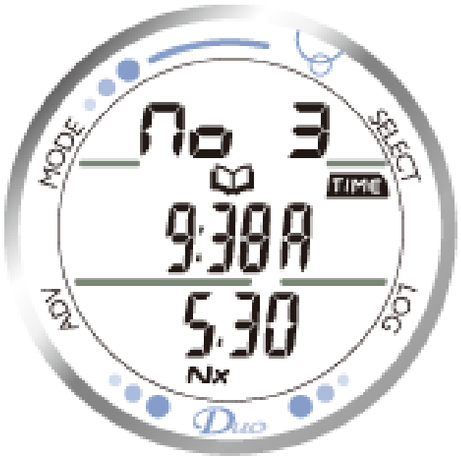
水面に浮上して10分経過すると、脱飽和までの待機時間カウンターが
背景で動きながら、メイン時計画面に戻ります。

○DESATモードへの切り替え
・まずノーマルモードスタート画面を表示します。
・ノーマルモードスタート画面でAボタンを3回押すと、脱飽和
(DESAT)モードに切り替わります。

→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合は
ノーマルモードスタート画面に戻ります。

【お知らせ】
ゲージモード及び違反警告の出たダイビングの後はPLANモードは
表示できません。

ログモード



（図53）ﾛｸﾞﾃﾞｰﾀ画面1

■ログモード
ログモードでは最新の24本分のログデータを新しいものから表示します。
24ダイブを超えると、最も新しいダイビングのデータがログに追加され、最も古いデータが削除されます。
ダイブナンバーは新たに反復潜水するごとに「1」から始まって1～24までのダイブナンバーが付きます。
最後のダイビング終了後24時間経過すると、次の反復潜水の1本目のダイブナンバーは「1」となります。

【お知らせ】
水面ではどの画面表示状態からでもLボタンを押すとログモードに切り替わります。

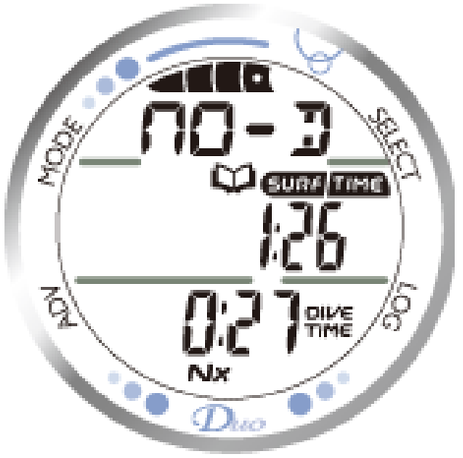
ログモードに入ると、最新のログデータ画面1が表示されます。
(図53)

○ログデータ画面1では
・ダイブナンバー
・潜水開始時刻
・潜水日(月.日)
が表示されます。

→Aボタンを押すと一つ前のログデータ画面1を表示します。
→Sボタンを押し続けるとそれ以前のログデータ画面1に次々切り替わっていき、ボタンを放したところでとまります。
→Sボタンを押すと、そのダイビングのログデータ画面2を表示します。
→Mボタンを長押しするか、2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。

ログモード

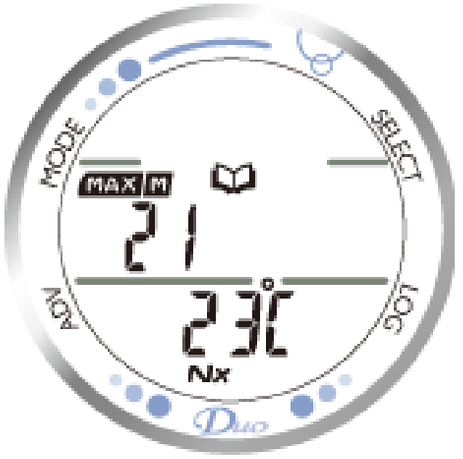
○ログデータ画面2では
・ダイビングの種類　（ノーマル"NO-D"、ゲージ"GAUG"、
違反潜水"VIOL"、減圧潜水"DECO"）
・バーグラフ(最大目盛が点滅)
・潜水前水面休息時間
・潜水時間
が表示されます。　(図54)



(図54) ﾛｸﾞﾃﾞｰﾀ画面2

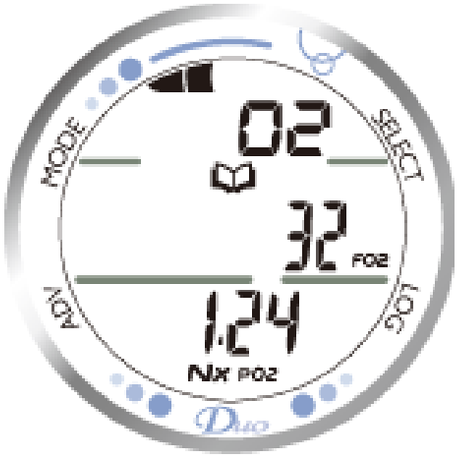
→Sボタンを押すと、そのダイビングのログデータ画面3を表示します。
→Mボタンを長押しするか、2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。

○ログデータ画面3では
・到達最大水深
・最低記録温度
が表示されます。　(図55)



(図55) ﾛｸﾞﾃﾞｰﾀ画面3

→Sボタンを押すと、そのダイビングのログデータ画面4を表示します。(ただしAir設定ダイビングの場合は一つ前のダイビングのログデータ画面1に進みます。)
→Mボタンを長押しするか、2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。



（図56）ﾛｸﾞﾃﾞｰﾀ画面4

ログデータ画面4はナイトロックス設定をしたダイビングの場合のみ表示されます。

○ログデータ画面4では
・02(酸素)バーグラフ
・酸素比率(FO2)設定値(%)
・最大到達酸素分圧(PO2)(ATA)
が表示されます。　(図56)

→Sボタンを押すと、一つ前のダイビングのログデータ画面1に進みます。
→Mボタンを長押しするか、2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。

ヒストリーモード

■ヒストリーモード
ヒストリーモードは9999本までのダイビング本数、9999時間までの潜水時間、到達最大水深、経験最低水温の累積情報を表示します。
バッテリーをはずしても、蓄積された履歴データは維持されます。
メイン時計画面でLボタンを2回押すと、ヒストリーモードに切り替わります。

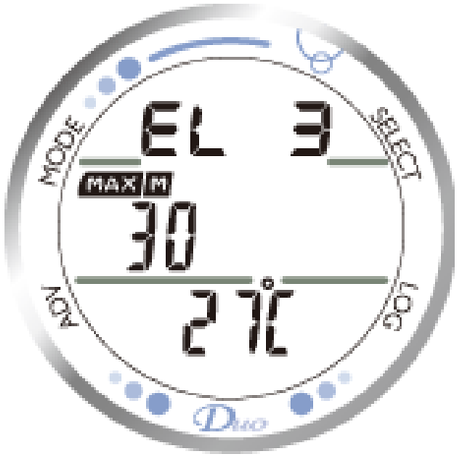
○ヒストリー画面1では
・潜水経過時間の合計時間(1～9999)
・9999までの合計ダイブ本数
が表示されます。　(図57)

→Sボタンを押すと、ヒストリー画面2を表示します。
→Lボタンを押す、Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。

（図57）ﾋｽﾄﾘｰ画面1

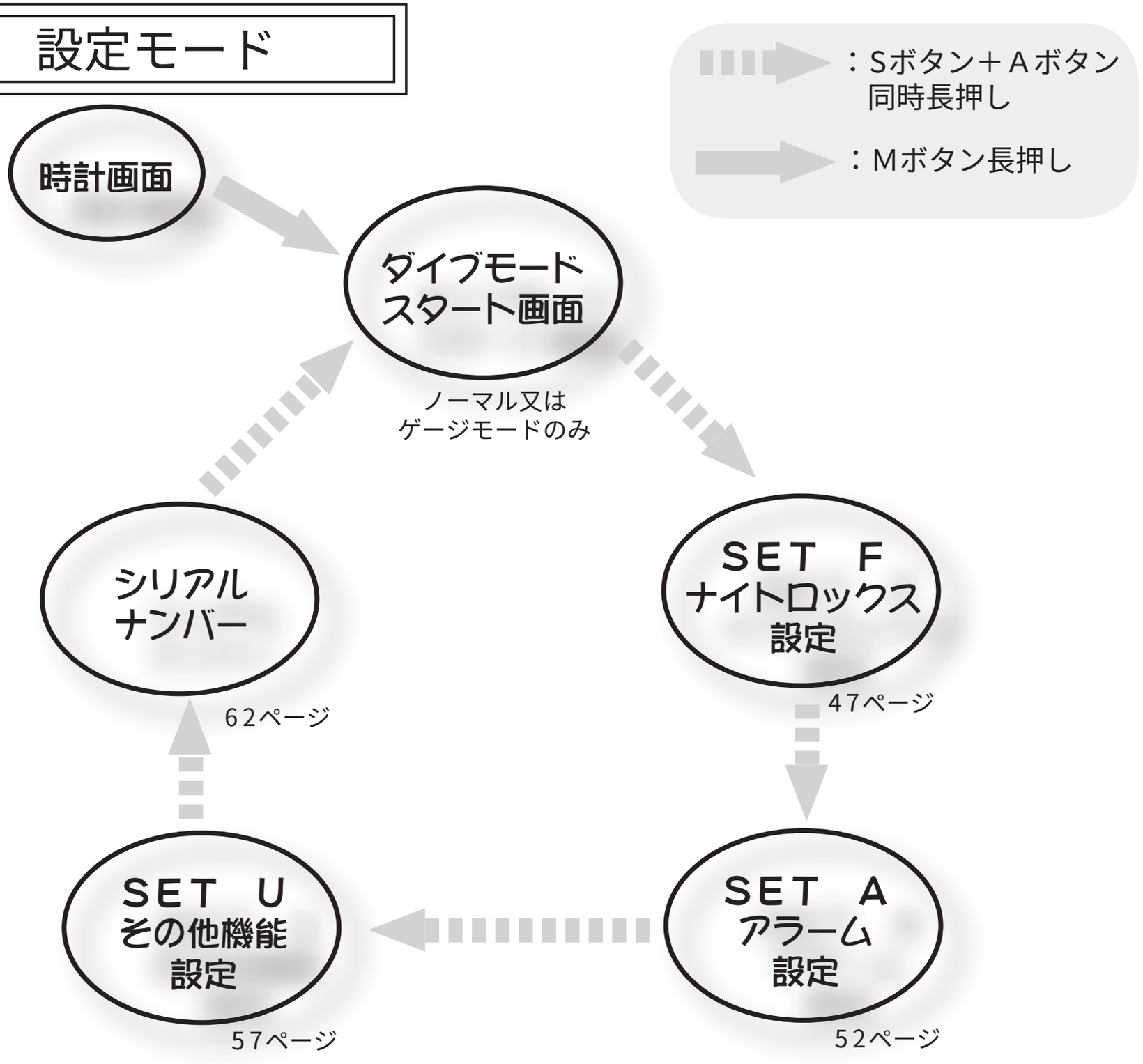
○ヒストリー画面2では
・最高高度ランク　”EL2”～”EL13”
・到達最大水深
・経験最低水温
が表示されます。　(図58)

→LボタンかSボタンを押す、Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はメイン時計画面またはダイブモードスタート画面に戻ります。



（図58）ﾋｽﾄﾘｰ画面2

設定モード


：Sボタン＋Aボタン
同時長押し
：Mボタン長押し
時計画面
ダイブモード
スタート画面
ノーマル又は
ゲージモードのみ
SET F
ナイトロックス
設定
47ページ
SET A
アラーム
設定
52ページ
SET U
その他機能
設定
57ページ
シリアル
ナンバー
62ページ

SET F　ナイトロックス設定

：Aボタン

設定モード(ノーマル・ゲージモード)

本製品の各種設定は3つのグループに分かれています。
・SET F (Fグループ：ナイトロックス設定)
・SET A (Aグループ：警告音設定)
・SET U (Uグループ：その他機能設定)

ノーマルまたはゲージモードスタート画面でAボタンとSボタンを同時に長押しするごとに、各設定グループとシリアル番号表示に切り替わります。

ダイブモードスタート画面→SET F→SET A→SET U→シリアル番号

(図59)

■Fグループ設定(酸素濃度設定Fraction of Oxygen FO2)
Fグループではナイトロックスガスの濃度設定及びFO2 50%デフォルト設定を行います。

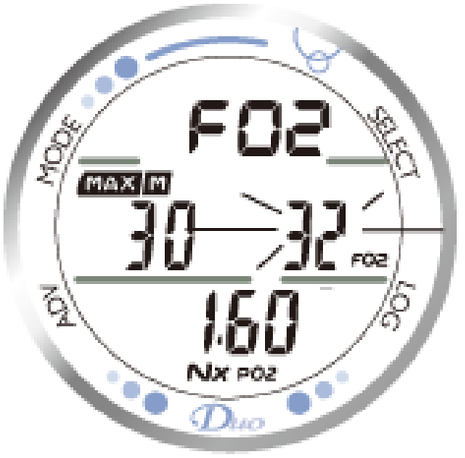
〇ナイトロックスガスの濃度比率(FO2)設定
“SET F”と表示された状態(図59)でAボタンを押すと、設定値が点滅しているFO2設定画面に切り替わります。　(図60)

(図60) FO2設定

設定値が点滅している間にSボタンを押すごとに、FO2の値がAirから1%ずつ増していきます。(21%～50%)

SET F 酸素濃度設定

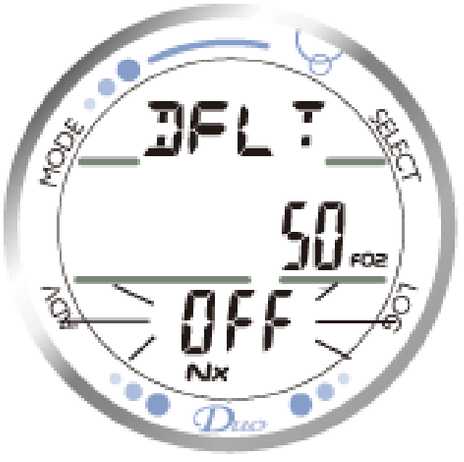
設定値が点滅している間にSボタンを押し続けると、Airから21～50%まで1%ずつ増えていきます。　(図61)
ただし、Sボタンを押し続けていても32%で一旦数値の増加はとまります。
Sボタンを再度押し続けると、32～50%の範囲で1%ずつ増えていき、”Air”(または21%)でとまります。



(図61)

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値が点滅するF02 50%デフォルト設定画面に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存し、SET F画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

○F02 50%デフォルト設定
F02 50%デフォルト設定画面では設定値(ONまたはOFF)が点滅しています。　(図62)



(図62) 50%ﾃﾞﾌｫﾙﾄ設定

→Sボタンを押すたびにOFFとONを切り替えます。
→Aボタンを押すと、設定を保存してSET F画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

〇ナイトロックスダイビング用酸素濃度比率(FO2)設定について

事前に酸素濃度（FO2）を設定することで、酸素分圧値(PO2)の警告設定限界値が決まり、そのPO2に対する最大許容深度（MOD）が表示されます。

FO2 50%デフォルトがONに設定されていて(初期設定ではON)FO2が数値で設定(Air以外)されている場合、そのダイビング後水面で10分経過すると、FO2値は50と表示されます。それ以降のダイビングでは、ダイビング前にFO2値を再度設定しない限り、FO2値は酸素計算では酸素50%　窒素計算では酸素21%（窒素79%)として計算されます。
FO2値は、前回のダイビングから24時間以内の反復潜水では毎回、FO2 50%デフォルト設定がOFFに設定されるまで、デフォルト値50%にリセットし続けます。

24時間以内にダイビングが行われない場合、FO2値はエア設定に戻ります。

FO2 50%デフォルト設定がOFFに設定されていると、FO2値は前回ダイビング(24時間以内)で設定されたFO2値を維持します。

FO2値がAirで設定された場合、FO2値21%で計算を実行します。Air設定の場合、FO2値が数値(21～50%)で設定しない限り、値はAir設定を維持します。

FO2値がエアで設定された場合、O2バーグラフは表示されません。また、PO2値及び警告はそのダイブ中には表示されません。

フリーダイブの窒素計算はFO2設定値にかかわらずAirを元に実行されます。

PO2値による最大許容深度(MOD)はFO2値がAirに設定されている場合は表示されません。

本製品は体内酸素蓄積量の経過を計算し続けているので、FO2値をさまざまに設定しても、以前Air設定で行ったダイビングの体内酸素蓄積量も、次回のナイトロックス・ダイブに加味されます。(24時間以内の反復潜水の場合)

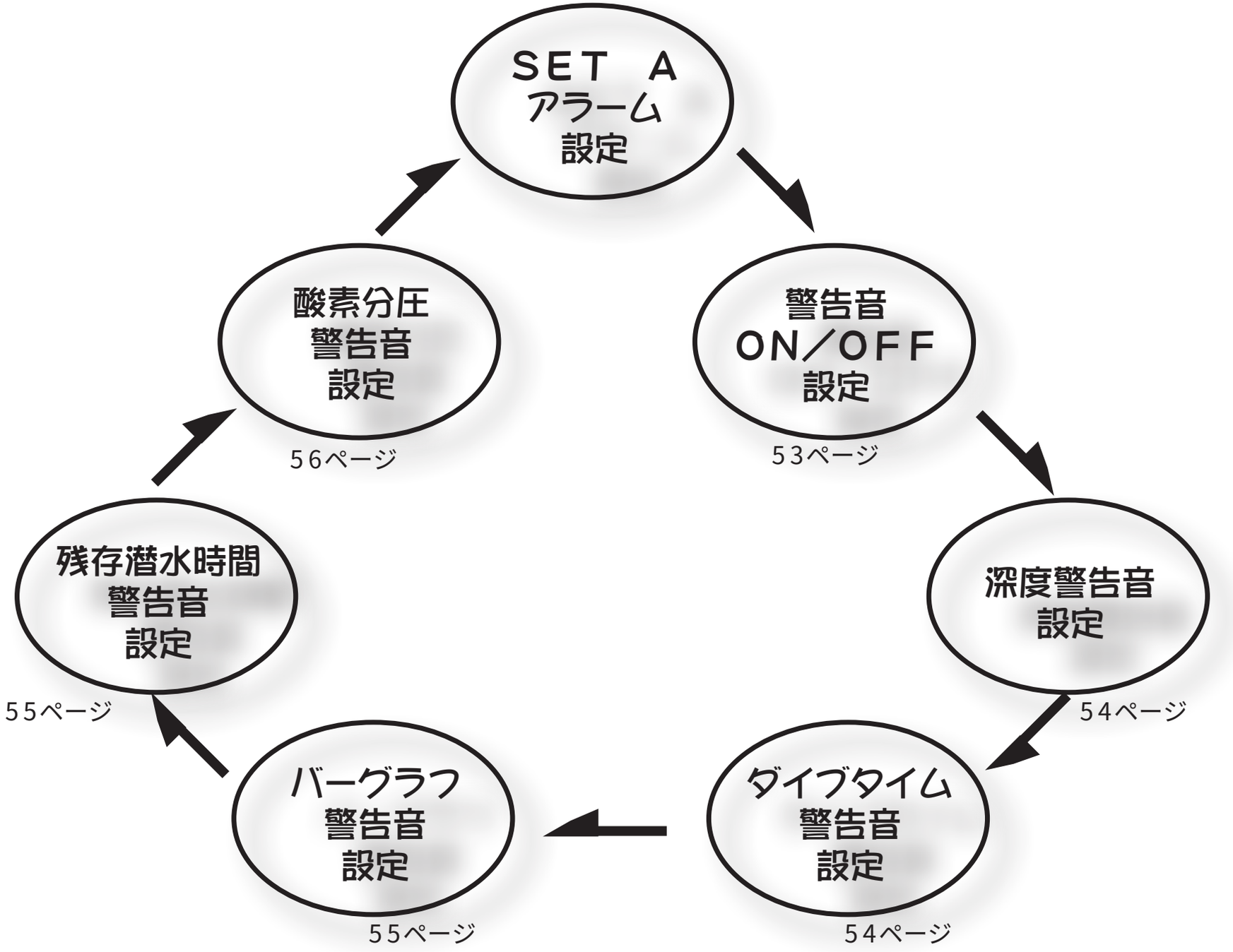
SET F 酸素濃度設定

【お知らせ】

FO2値が21～50%で設定されてダイビングが行われると、最後のダイブから24時間経過するまではAir設定が選択できなくなります。水面休息で24時間経過するまではFO2設定でAirの選択肢は表示されません。

SET A　アラーム設定

：Aボタン



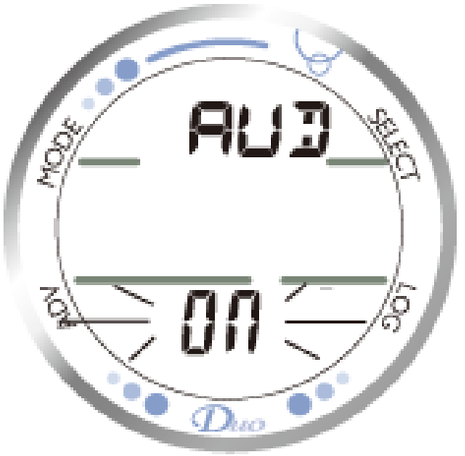
SET A アラーム設定

■Aグループ設定(アラーム音設定)
ダイブモードスタート画面からAボタンとSボタンを同時長押しを2回くりかえすと"SETA”と表示されたAグループ設定画面に切り替わります。　(図63)
Aグループでは各種警告音の設定を行います。
・警告音ON/OFF
・深度警告
・潜水経過時間警告
・体内窒素量(バーグラフ)警告
・残存潜水時間警告
・酸素分圧警告
Aグループ設定は変更されるまで設定された値が残ります。

(図63)

〇警告音設定(AUD)
警告音のON/OFFの切り替えができます。
OFFに設定すると警告音が鳴らなくなり、LEDも点滅しません。

“SETA”と表示された状態(図63)でAボタンを押すと、設定値が点滅している警告音設定画面(AUD)に切り替わります。　(図64)
Sボタンを押すたびにOFFとONが切り替わります。



(図64) 警告音設定

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した深度警告設定画面(DPTH)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

【お知らせ】
危険な状況下では、機能がOFFに設定されていても警告音が鳴り、連動する警告LEDが点滅します。

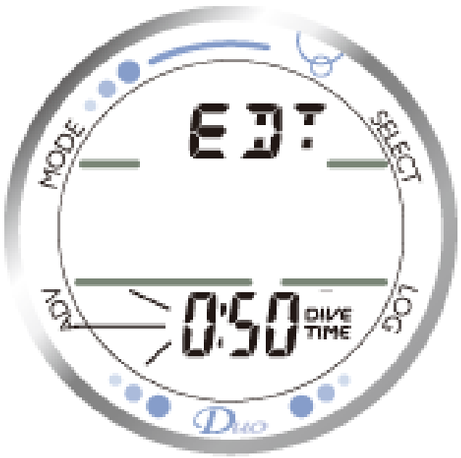
（図65）
深度警告音設定

〇深度警告音設定(DPTH)
設定した深度で警告音を鳴らすことができます。
“DPTH”と表示され、設定深度表示が点滅しています。　（図65）

Sボタンを押すと10～100メートルの設定値がボタンを1回押すごとに1メートルずつ増えていきます。

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した潜水経過時間警告音設定(EDT)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

フリーモードは別個に深度警告音設定があります。



（図66）
潜水経過時間警告音設定

〇潜水経過時間警告音設定(EDT)
設定した潜水経過時間で警告音を鳴らすことができます。
“EDT”と表示され、設定経過時間表示が点滅しています。(図66)

Sボタンを押すと、0:10～3:00(時:分)の設定値が5分ずつ増えていきます。
Sボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定値が増加します。

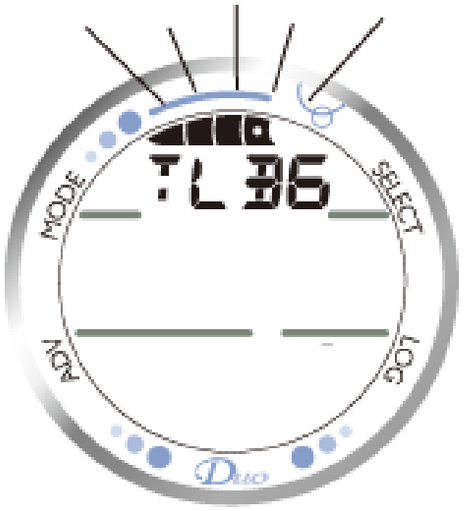
→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した体内窒素蓄積量バーグラフ警告音設定(TLBG)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

フリーモードは別個に経過時間警告音設定があります。

SET A アラーム設定

〇体内窒素蓄積量バーグラフ警告音設定(TLBG)
設定した体内窒素蓄積量で警告音を鳴らすことができます。
“TLBG”と表示され、設定バーグラフが点滅しています。　(図67)

Sボタンを押すと、5目盛のバーグラフから、ボタンを1回押すごとに1つずつ減ります。
Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した残存潜水時間警告音設定(DTR)に進みます。
AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

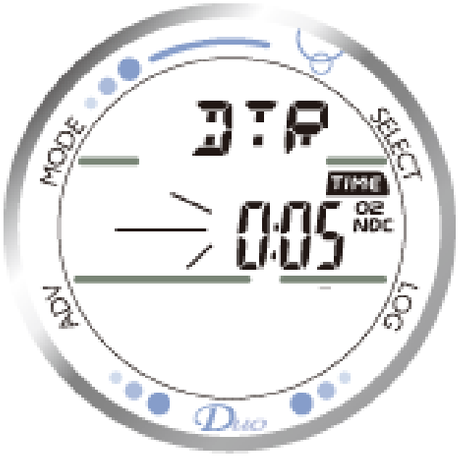


(図67)
バーグラフ警告音設定

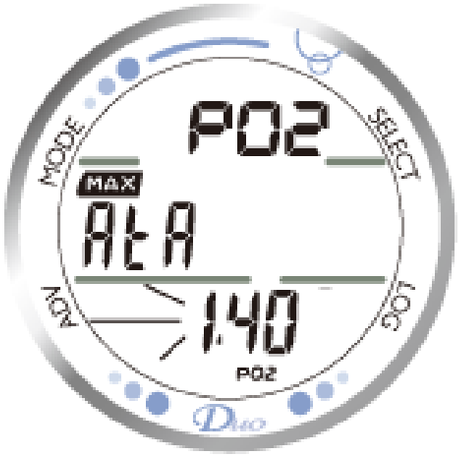
フリーモードは別個に体内窒素蓄積量警告音設定があります。

〇残存潜水時間警告音設定(DTR)
設定した残存潜水時間で警告音を鳴らすことができます。
“DTR”と表示され、設定残存潜水時間が点滅しています。　(図68)

Sボタンを押すと、0:00～0:20(時:分)の設定値が1分ずつ増えていきます。
Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した酸素分圧警告音設定(PO2)に進みます。
AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。



(図68)
残存潜水時間警告音設定



（図69）
酸素分圧警告音設定

〇酸素分圧警告音設定(P02)
設定した酸素分圧で警告音を鳴らすことができます。
“P02”と表示され、設定酸素分圧値が点滅しています。　（図69）

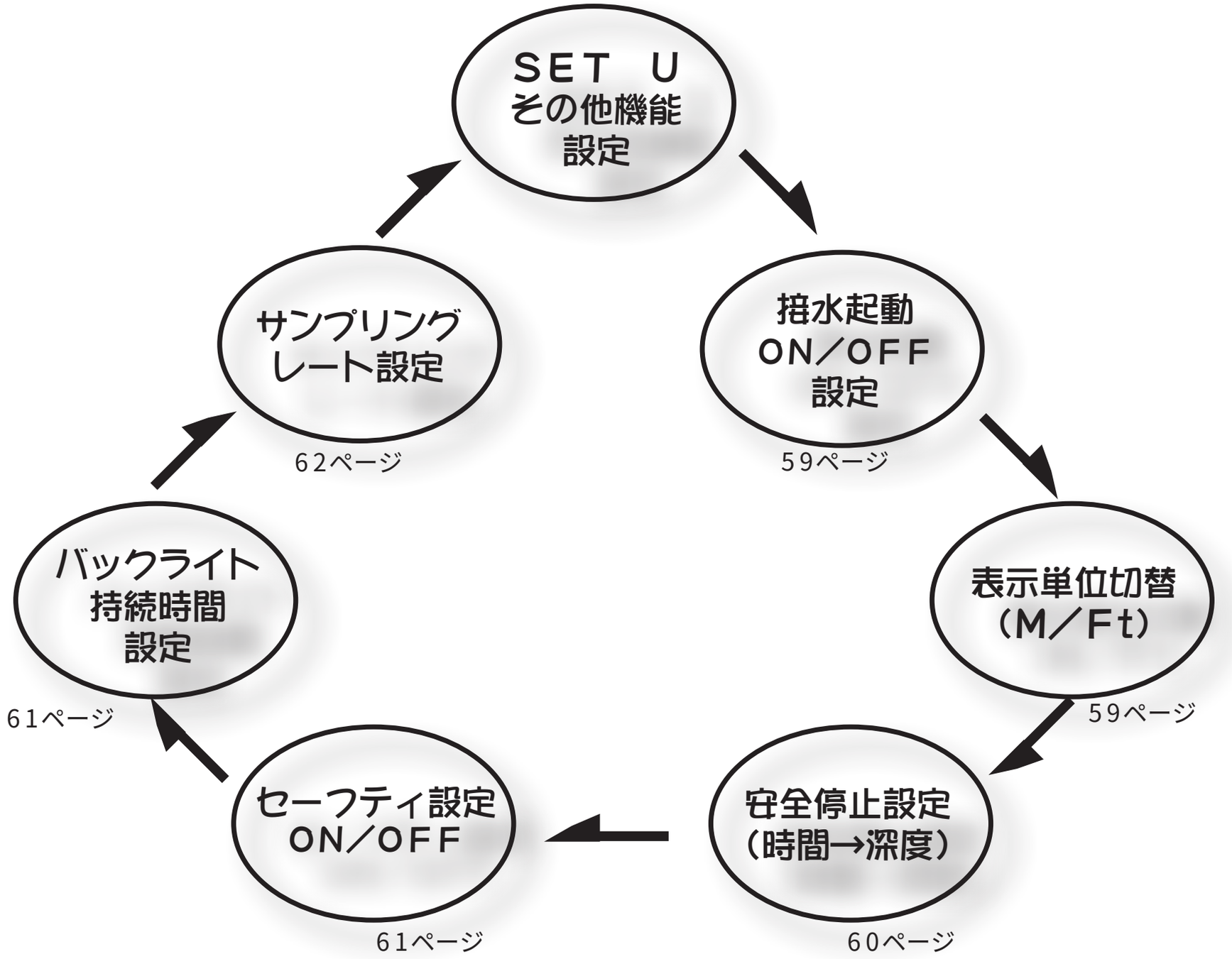
Sボタンを押すと、1.20～1.60 (ATA)の設定値が0.10(ATA)ずつ増えていきます。

→Aボタンを押すと、設定を保存してSET A画面に戻ります。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET A画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

最大限度 1.60ATAに到達する前に酸素分圧警告音が作動するように設定することをお薦めします。

SET U　その他機能設定

：Aボタン



SET U その他機能設定

（図70）

■Uグループ設定(その他の機能:ユーティリティ設定)
ダイブモードスタート画面からAボタンとSボタンを同時長押しを3回くりかえすと"SETU”と表示されたUグループ設定画面に切り替わります。　(図70)
Uグループではその他各種機能の設定を行います。
・接水起動ON/OFF
・表示単位
・安全停止(深度、時間)
・セーフティ設定ON/OFF
・バックライト点灯持続時間
・サンプリングレート

接水起動、単位、セーフティ設定、バックライト点灯持続時間はフリーモードにも適用されます。
フリーモードで作動中にこれらの設定を変更する場合は、まずノーマルモードスタート画面に切り替えてください。

フリーモードのサンプリング･レートはSET Uの設定にかかわらず1秒に固定されています。

Uグループ設定は変更されるまで設定された値が残ります。

SET U その他機能設定

〇接水起動設定(WET)
接水起動機能のON/OFFの切り替えができます。
接水起動機能をONに設定すると潜行開始の際に本製品がどのモードで機能している状態であっても自動でダイブモードに切り替わります。
接水起動機能をOFFに設定するとダイビングを開始する前にダイブモードスタート画面にしておかないと自動的にはダイブモードに切り替わりません。

（図71） 接水起動設定

“SETU”と表示された状態(図70)でAボタンを押すと、設定値が点滅している接水起動設定画面(WET)に切り替わります。　(図71)
Sボタンを押すたびにOFFとONが切り替わります。

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値の点滅した表示単位設定画面(UNIT)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

〇表示単位設定(UNIT)
表示単位はメートル式(M、°C)と英国式(FT、°F)の切り替えができます。
"UNIT"と表示され、表示単位マークが点滅しています。　(図72)

（図72） 表示単位設定

Sボタンを押すたびにメートル式と英国式が切り替わります。

→Aボタンを押すと、設定を保存して時間設定値が点滅した安全停止設定画面(SAFE)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

（図73）安全停止設定

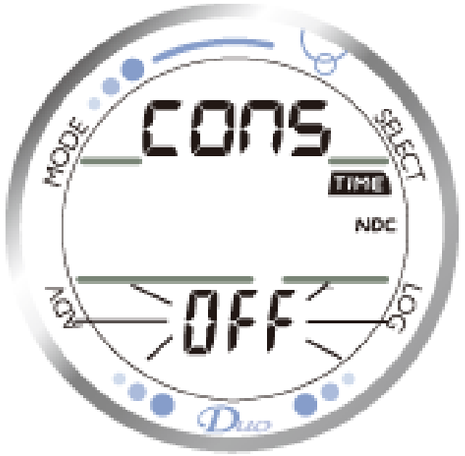
○安全停止設定(SAFE)
安全停止を行う深度と時間の設定ができます。
"SAFE"と表示され、停止時間が点滅しています。　（図73）

Sボタンを押すたびに停止時間設定値がOFF、3：00、5：00（分：秒）と進んでいきます。
Aボタンを押すと、時間設定を保存して停止深度設定に進みます。
(停止時間設定がOFF設定の場合はセーフティ設定(CONS)設定画面に進みます。)
Sボタンを押すと、停止深度設定値が3、4、5、6メートルと進んでいきます。

→Aボタンを押すと、安全停止設定を保存して設定値が点滅したセーフティ設定(CONS)設定画面に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

SET U その他機能設定

○セーフティ設定(CONS)
セーフティ設定のON/OFFの切り替えができます。
セーフティ設定をONに設定すると実際よりも915メートル高い高度の条件で潜水可能時間の計算を行います。(110ページ表参照)
より安全な潜水可能時間を表示させることができるようになります。
"CONS"と表示され、設定値が点滅しています。　(図74)

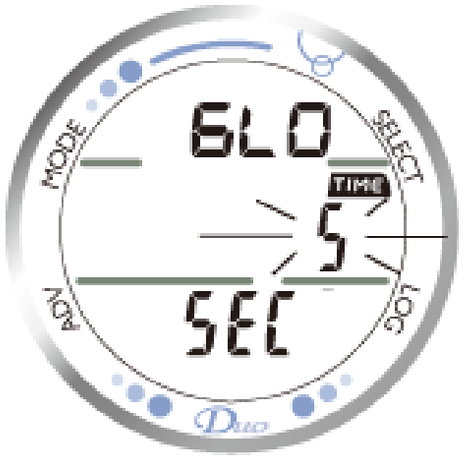


(図74)
セーフティ設定

Sボタンを押すたびにOFFとONが切り替わります。

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値が点滅したバックライト点灯持続時間設定画面(GLO)に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

○バックライト点灯持続時間設定(GLO)
バックライト点灯持続時間の設定ができます。
"GLO"と表示され、持続時間が点滅しています。　(図75)

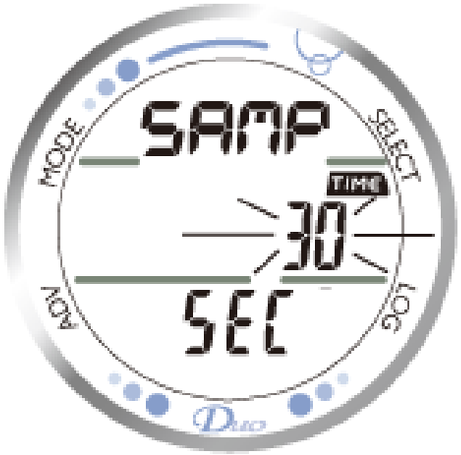


(図75)
バックライト
点灯持続時間設定

Sボタンを押すたびに設定値が0、5、10 (秒)と進んでいきます。

→Aボタンを押すと、設定を保存して設定値が点滅したサンプリング・レート(SAMP)設定画面に進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

SET U その他機能設定



（図76）
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞﾚｰﾄ設定

○サンプリング･レート設定(SAMP)
サンプリング･レートを設定することができます。
サンプリング･レートとは保持するデータ計測の頻度です。
"SAMP"と表示され、設定値が点滅しています。　(図76)

Sボタンを押すたびに設定値が2、15、30、60（秒)と進みます。

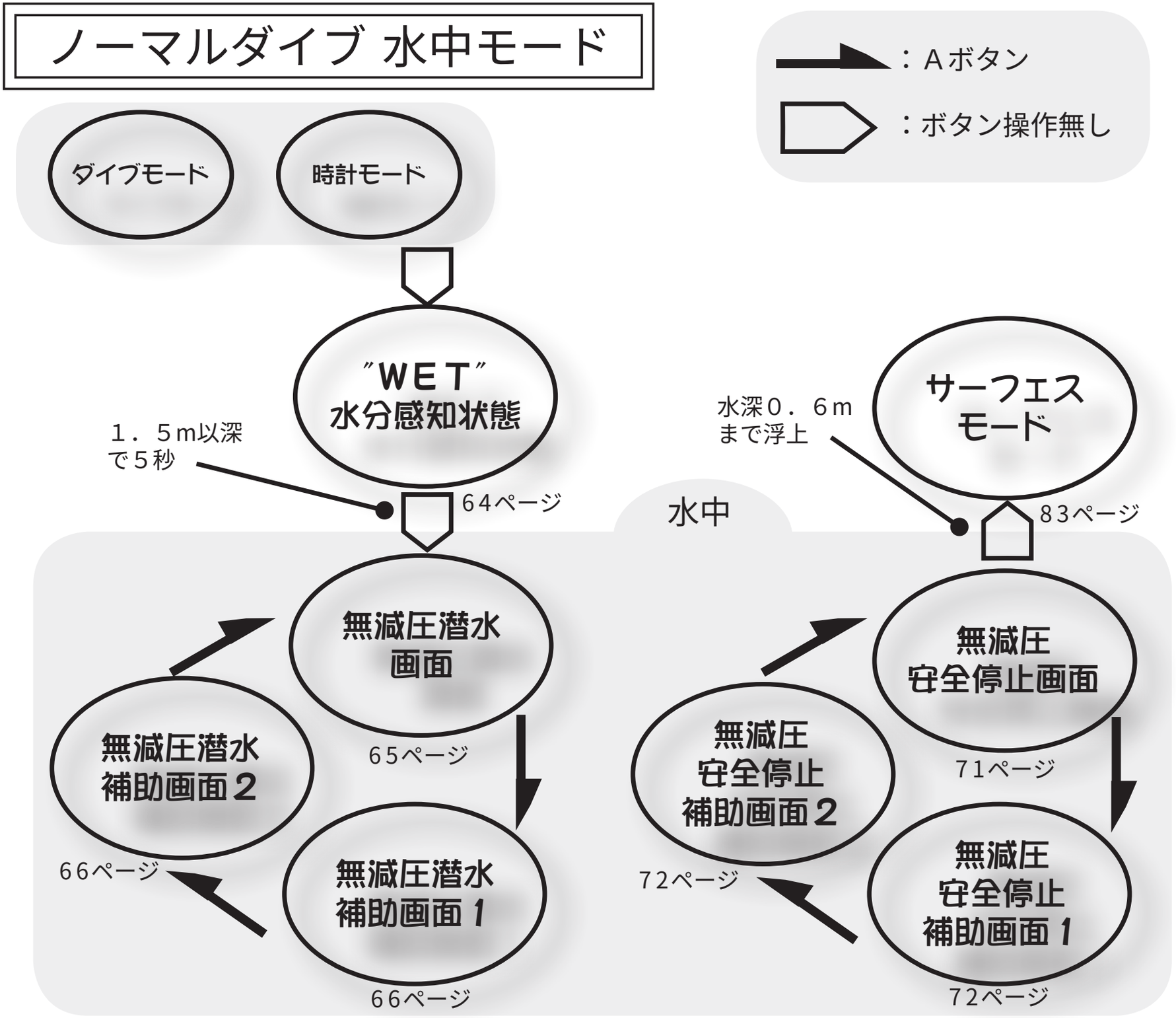
→Aボタンを押すと、設定を保存してSET U画面に戻ります。
→AボタンとSボタンを同時に長押しすると設定を保存してSET U画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

（図77）
シリアルナンバー

■シリアルナンバー
ダイブモードスタート画面からAボタンとSボタンを同時長押しを4回くりかえすと"SN”と表示されたシリアルナンバー表示画面に切り替わります。　(図77)

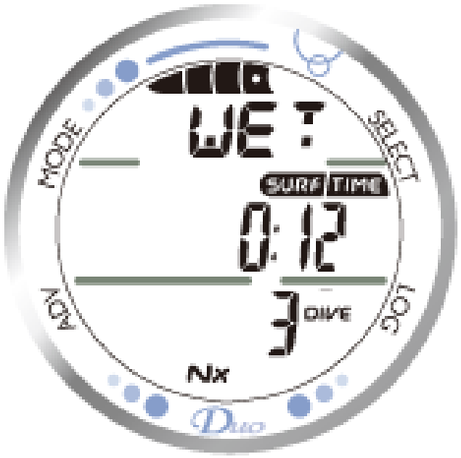
→AボタンとSボタンを同時に長押しするとダイブモードスタート画面に戻ります。
→Mボタンを長押しする、または2分間ボタン操作がない場合はダイブモードスタート画面に戻ります。

ノーマルダイブ 水中モード



ノーマルダイブモード

（図78）水分感知状態
（時計モード）



（図79）水分感知状態
（ダイブモード）

■水分感知
接水起動設定ONに設定している場合、水分感知センサーが水分を感知すると、画面に"WET"と表示されます。

時計モードの場合は"WET"表示と曜日表示が交互に表示されます。
(図78)
ダイブモードの場合は"WET"表示とダイブモード表示が順にくりかえし表示されます。
(図79)

水分感知センサーが水分を感知しなくなる(乾かす)と"WET" は表示されなくなります。

■接水起動
接水起動設定ONに設定している場合、1.5メートルの深度へ5秒間潜行すると自動的にダイブモードに切り替わります。

接水起動設定OFFに設定している場合、潜行してもダイブモードには切り替わりません。ただし、潜行時に時計モード以外の画面表示になっている場合はダイブモードに切り替わります。
また、反復潜水の場合は接水起動設定OFFに設定されていてもダイブモードに切り替わります。

ノーマルダイブモード

■ノーマル無減圧潜水
ノーマル無減圧潜水画面では
・バーグラフ
・現在深度
・潜水可能時間
・潜水経過時間
を表示します。　(図80)

→Aボタンを押すと無減圧潜水補助画面1へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧潜水画面に戻ります。

潜水中Lボタンを長押しするとバックライトが点灯します。

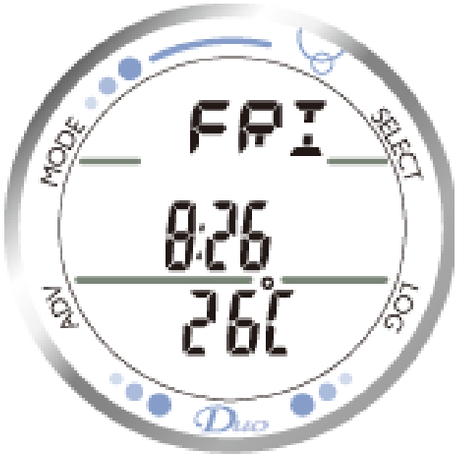
警告音が鳴った場合はSボタンを押すと消音できます。
この操作は警告音の内容を確認してから、実施ください。

(図80)
無減圧潜水画面

（図81）
無減圧潜水
補助画面1

〇無減圧潜水補助画面1
無減圧潜水補助画面1では
・最大深度
を表示します。
酸素濃度比率設定(F02)が数値で設定されている場合は
・02バーグラフ
・酸素濃度比率(F02)設定値
・酸素分圧(P02)
を表示します。　（図81）

→Aボタンを押すと無減圧潜水補助画面2へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧潜水画面に戻ります。



（図82）
無減圧潜水
補助画面2

〇無減圧潜水補助画面2
無減圧潜水補助画面2では
・現在時刻
・温度
を表示します。　（図82）

→Aボタンを押すと無減圧潜水画面へ戻ります。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧潜水画面に戻ります。

ノーマルダイブモード

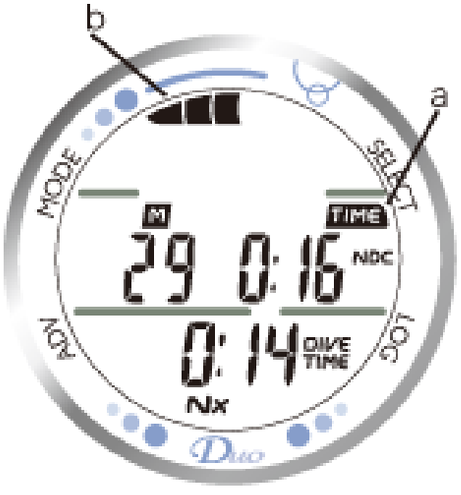
■残存潜水可能時間(DTR)
残存潜水可能時間の表示は体内窒素量で算出される無減圧潜水可能時間及び体内酸素量から算出されるO2潜水可能時間のうち短い方の時間を表示します。

○無減圧潜水可能時間(NDC)
無減圧潜水可能時間(NDC)は減圧状態に入らずに現在の深度に留まることができる時間の最大値を意味します。　(図83a)

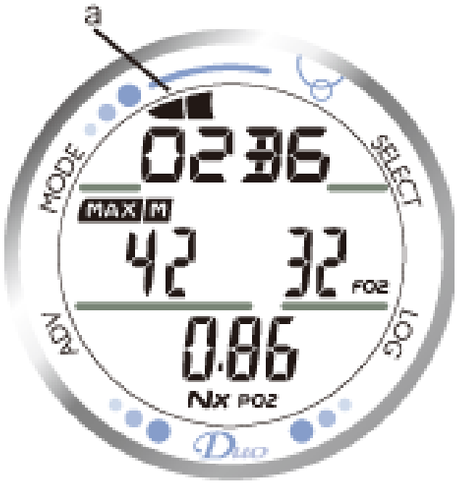
無減圧潜水可能時間は仮想組織コンパートメントで吸収される窒素の量に基づいて計算されます。これらのコンパートメントが窒素を吸収して排出するレートは数理モデル化されて、窒素レベルの最大許容値と比較します。最大値に最も近いものがその水深を代表するコンパートメントとなります。
体内窒素蓄積量はバーグラフとして表記されます(図83b)。

無減圧潜水のアルゴリズムはMerrill Spencerが開発した最大許容窒素レベルを用いたHaldaneの理論に基づいています。

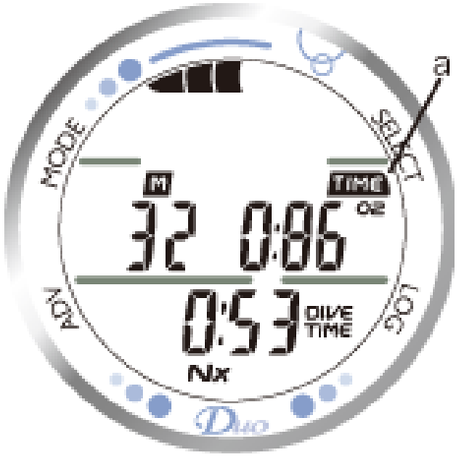
反復ダイビングの計算基準は1987年にDr. Ray RogersとDr. Michael Powellによって実施された実験に基づいています。



(図83)
無減圧潜水可能時間



（図84）
02バーグラフ



（図85）
02潜水可能時間

〇02潜水可能時間（OTR）
体内酸素蓄積量限界を超えない範囲で現在の深度に留まることができる時間の最大値を意味します。

酸素濃度比率(FO2)がナイトロックス用に設定されている場合の、ダイビング中あるいはダイビング後24時間以内の体内酸素蓄積量の状態は02バーグラフとして表示されます。　(図84a)

体内酸素蓄積量が増え続けると、02バーグラフの目盛りが増えます。
体内酸素蓄積量が限界に達するまでの時間が減るにつれ、02バーグラフの目盛が増えます。
体内酸素蓄積量が限界に達するまでの時間が無減圧潜水可能時間(NDC)より少なくなった場合、その深度での潜水可能時間は02潜水可能時間が優先されます。このとき02潜水可能時間(OTR)が残存潜水可能時間として表示されます。（図85a)

体内酸素量の算出基準は、NOAA(米国海洋大気局)のダイビングマニュアル(1991年)の酸素蓄積限界表を引用しています。

■潜水経過時間
最大で9時間59分までの潜水経過時間を表示します。
それ以上の潜水経過時間となった場合、ダイブコンピューターとしての機能を中止し、時計機能に戻ってメイン時計画面を表示します。

■浮上速度
浮上速度と、それに関連する各種警告は基準深度18メートルを境として、2種類の浮上速度の設定に基づいています。

> ⚠ 警告
> 18メートルより深い深度では、浮上速度は18メートル/分を超えてはいけません。
> 18メートルより浅い深度では、浮上速度は9メートル/分を超えてはいけません。

〇浮上速度警告
18メートルより深い深度では、浮上速度が15メートル/分を超過すると浮上速度警告画面表示となり、”SLOW>SLOW”表示がスクロールします。
18メートルより浅い深度では、浮上速度が7.5メートル/分を超過すると浮上速度警告画面表示となり、”SLOW>SLOW”表示がスクロールします。　(図86)

（図86）浮上速度警告

〇浮上速度警告音
18メートル より深い深度では、浮上速度が18メートル/分を超えると警告音が鳴ります。
18メートルより浅い深度では、浮上速度が9メートル/分を超えると警告音が鳴ります。
同時にLED警告灯が点滅し、”SLOW>SLOW”の表示が画面上部で断続的にスクロールします。警告音とLED警告灯の点滅は、浮上速度が減速されるまで継続します。
Sボタンを押すととまります。
浮上速度警告表示は浮上速度が警告速度以下まで減速されるまで止まりません。

ノーマルダイブモード

■潜水中の操作
ダイブモード中は、起動中のダイブモードごと(無減圧モード、減圧モード、ゲージモード、フリーモードなど)に表示する補助画面があります。

それぞれの補助画面は、Aボタンを押すと切り替わります。
5秒後に各ダイブモードの潜水画面に戻ります。

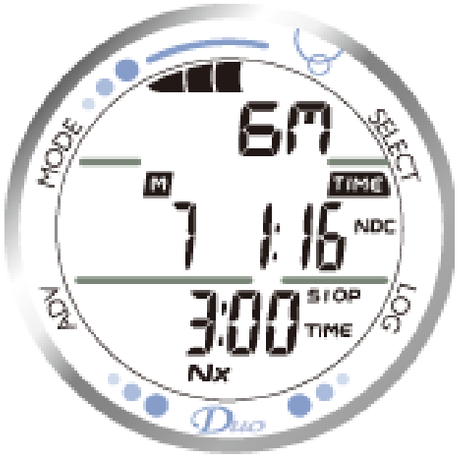
Sボタンを押すと警告音を消音します。

Lボタンを長押しすると、バックライトを作動します。
バックライトは低バッテリー状況下では作動しません。

ノーマルダイブ安全停止

■ノーマル無減圧安全停止
深度が9メートル以上の無減圧潜水で、設定した安全停止深度まで浮上すると、短い警告音が発信されて設定した安全停止時間のカウントダウンを開始します。

カウントダウン継続中に浮上するとカウントダウンは終了します。
また、無減圧安全停止が完了する前に水面に浮上しても警告は表示されません。
安全停止中に10メートル以深に再潜降するとカウントダウンはリセットされ、浮上すると再度カウントダウンが始まります。



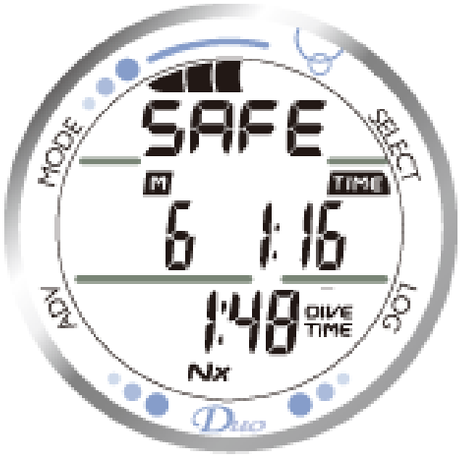
（図87）安全停止

安全停止がOFFに設定されていた場合、浮上中にこの画面は表示されません。

安全停止画面では
・バーグラフ
・現在深度
・潜水可能時間
・安全停止カウントダウン
・設定安全停止深度
を表示します。　（図87）

→Aボタンを押すと安全停止補助画面1へ進みます。

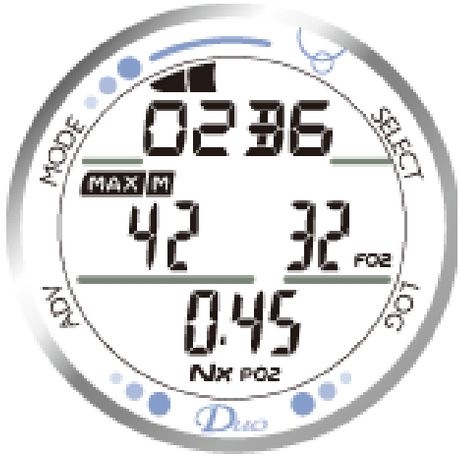
ノーマルダイブ安全停止



（図88）
安全停止補助画面1

〇無減圧安全停止補助画面1
安全停止補助画面1では
・潜水経過時間
を表示します。　（図88）

→Aボタンを押すと無減圧安全停止補助画面2へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧安全停止画面に戻ります。



（図89）
安全停止補助画面2

〇無減圧安全停止補助画面2
安全停止補助画面2では
・最大深度
を表示します。
酸素濃度比率設定(FO2)が数値で設定されている場合は
・02バーグラフ
・酸素濃度比率(FO2)設定値
・酸素分圧(PO2)
を表示します。　（図89）

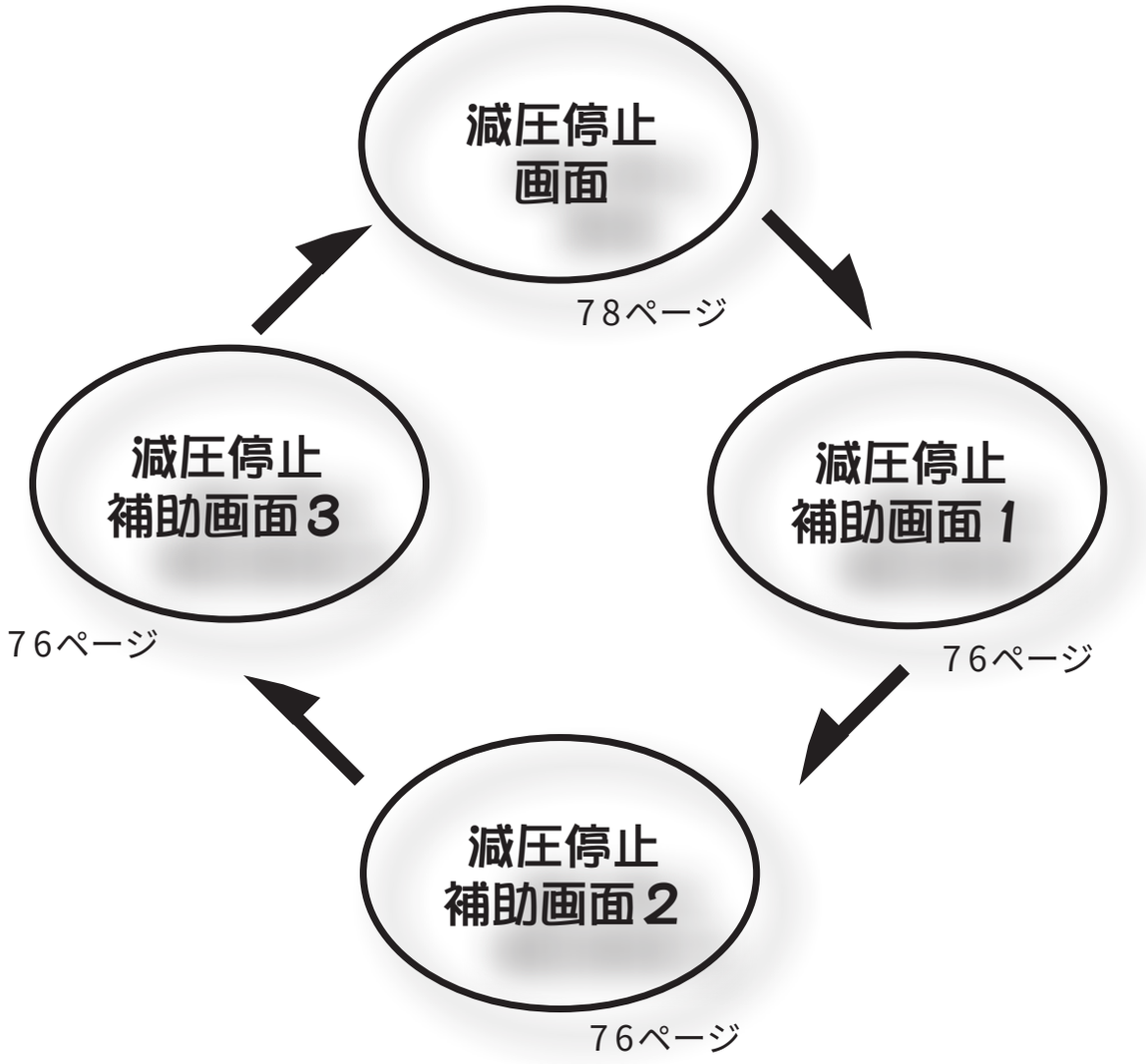
→Aボタンを押すと無減圧安全停止補助画面3へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧安全停止画面に戻ります。

〇無減圧安全停止補助画面3
無減圧安全停止補助画面3では
・現在時刻
・温度
を表示します。

→Aボタンを押すと無減圧安全停止画面へ戻ります。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧安全停止画面に戻ります。

減圧停止

：Aボタン


減圧停止
画面
78ページ
減圧停止
補助画面1
76ページ
減圧停止
補助画面2
76ページ
減圧停止
補助画面3
76ページ

ノーマルダイブ減圧停止

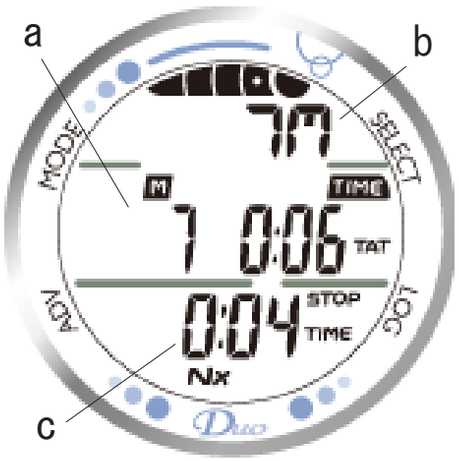
■減圧潜水モード
理論上の無減圧限界を超えると減圧潜水(DECO)モードが作動します。

（図90）減圧潜水

減圧潜水(DECO)モードに切り替わると、10秒間警報音が鳴り、LED警告灯が点滅して、”DECO>STOP”の表示が断続的にスクロールします。
警報内容を確認してから、Sボタンを押して消音してください。

消音後は、”DECO>STOP>〇〇M(減圧停止水深)”の表示が2秒間隔で2秒間ずつ表示されます。

必要停止深度よりも3メートル以上深い深度にいる場合は”∧”矢印が点滅します。　(図90)
必要停止深度以深3メートル以内に浮上すると"∧”矢印が消灯します。



(図91)

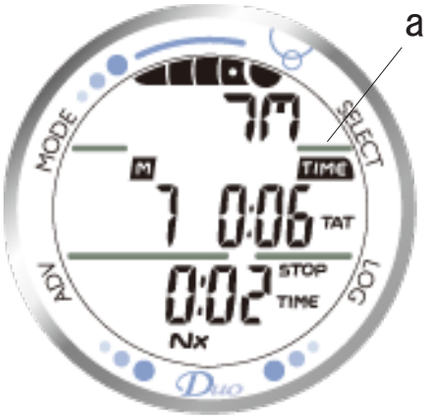
〇減圧停止のやり方
より深い深度(図91a)から停止深度(図91b)より少しだけ深い深度まで安全に浮上します。その深度で、表示された停止時間(図91c)減圧停止します。

減圧時間は減圧停止の深度によって変わります。
指定された停止深度よりも深い位置で停止すれば減圧停止時間は長くなります。
このため、次の浅い減圧停止深度が表示されるまでの間は、指定された停止深度よりわずかに深い場所で留まらなければなりません。必ずゆっくりと浮上し、指定された減圧停止深度より浅くならないよう浮上することが重要です。

ノーマルダイブ減圧停止

〇減圧停止画面
減圧停止画面では
・減圧停止深度
・現在深度
・合計浮上時間(TAT)
・必要停止時間
を表示します。　(図92)

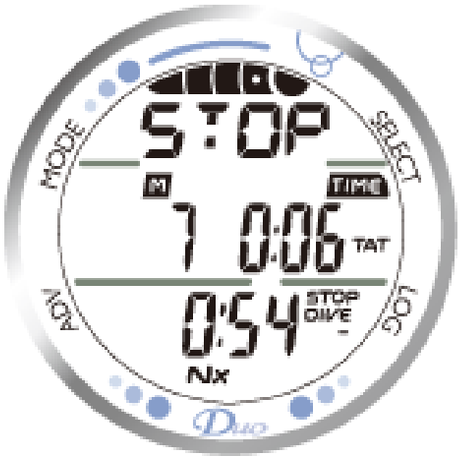
→Aボタンを押すと減圧停止補助画面1へ進みます。



（図92）減圧停止

〇合計浮上時間(TAT)
合計浮上時間(TAT)(図92a) には、全ての減圧停止時間に加えて
18メートルより深い深度では18メートル/分、
18メートル より浅い深度では9メートル/分
で計算された浮上時間を含みます。

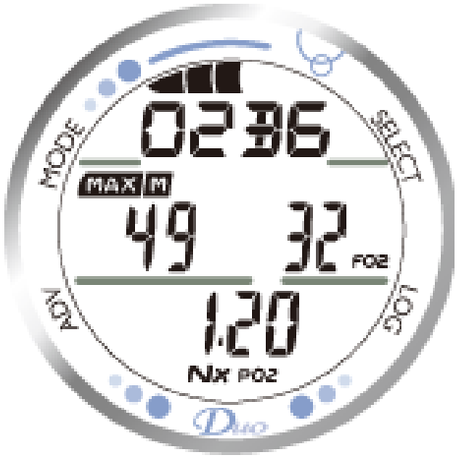
ノーマルダイブ減圧停止



（図93）補助画面1

〇減圧停止補助画面1
安全停止補助画面1では
・潜水経過時間
を表示します。　（図93）

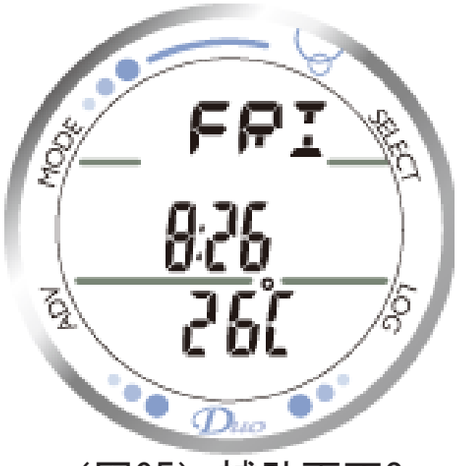
→Aボタンを押すと減圧停止補助画面2へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと減圧停止画面に戻ります。



（図94）補助画面2

〇減圧停止補助画面2
減圧停止補助画面2では
・最大深度
を表示します。
酸素濃度比率設定(FO2)が数値で設定されている場合は
・02バーグラフ
・酸素濃度比率(FO2)設定値
・酸素分圧(PO2)
を表示します。　（図94）

→Aボタンを押すと減圧停止補助画面3へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと減圧停止画面に戻ります。



（図95）補助画面3

〇減圧停止補助画面3
減圧停止補助画面3では
・現在時刻
・温度
を表示します。　（図95）

→Aボタンを押すと減圧停止画面へ戻ります。
→5秒間ボタン操作がないと減圧停止画面に戻ります。

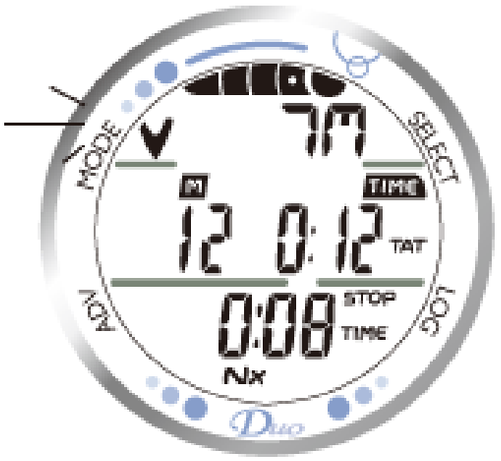
ノーマルダイブ違反・警告

■違反・警告表示

〇条件付違反モード
指定された減圧停止深度よりも浅い深度(図96)に浮上した場合、停止深度より深く潜降するまで警告音が鳴り、LED警告灯と”Ｖ”矢印が点滅します。
警告音が消音されるまで”DOWN>DOWN”表示がスクロールします。
その後”DOWN>TO>〇〇(水深)”表示がスクロールします。
5分以内に減圧停止深度よりも深く潜降すれば、減圧潜水モードを継続します。

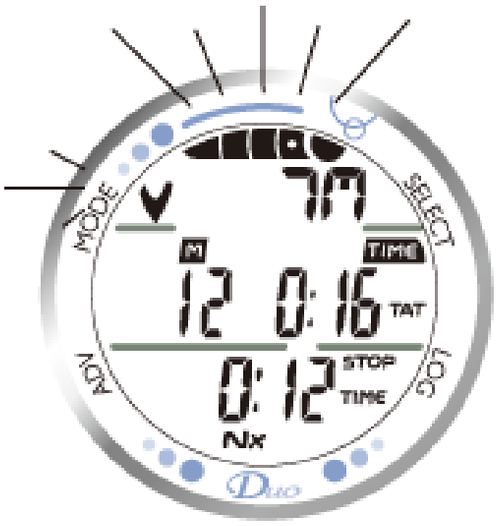
減圧停止しないで、浅い深度に浮上すると、減圧計算をしないだけでなく、1分毎に1分半のペナルティ時間が減圧停止時間と合計浮上時間(TAT)に追加されます。

追加された減圧停止時間を先に処理しないと、再び減圧計算に入ることはできません。
処理が終わると減圧計算が始まり、減圧停止深度と減圧停止時間が減っていきます。
バーグラフ表示は5つから無減圧ゾーンに後退し、無減圧潜水モードに戻ります。



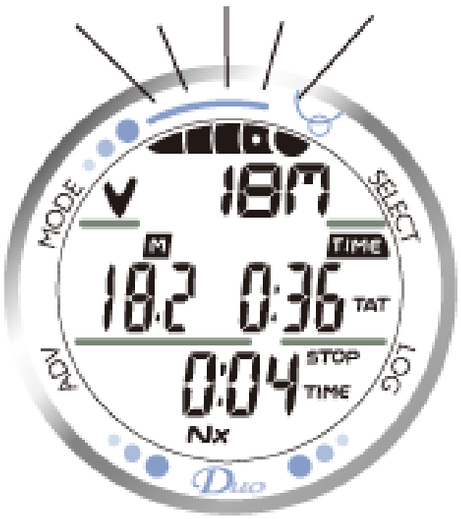
(図96)
条件付違反モード

【お知らせ】
条件付違反モードに入った場合は、警告音がOFFに設定されていても警告音が鳴り、LED警告灯が点滅します。
この場合、警告音はSボタンで消音することはできません。



（図97）
計測範囲違反モード#1

〇計測範囲違反モード#1
減圧停止深度よりも浅い深度に5分以上とどまると、必要減圧停止深度より深い深度に潜降するまでバーグラフの全目盛と”Ｖ”矢印が点滅します。　（図97）
また、”DOWN>TO>〇〇(水深)”表示がスクロールし続けます。
これは条件付違反モードの延長です。



（図98）
計測範囲違反モード#2

〇計測範囲違反モード#2
18メートルよりも深い深度での減圧停止が必要となってしまった場合の違反モードです。

本製品は18メートルよりもはるかに深い停止深度での減圧時間、減圧停止は計算も指示もできません。
18～21メートルの間の減圧停止深度が必要になった場合は、バーグラフが点滅して”DECO>STOP>18M”表示がスクロールします。　（図98）

万一この表示になった場合は、18メートルより少し深めの深度までゆっくりと安全に浮上し、バーグラフを点滅させないようにその深度付近にとどまらなくてはなりません。

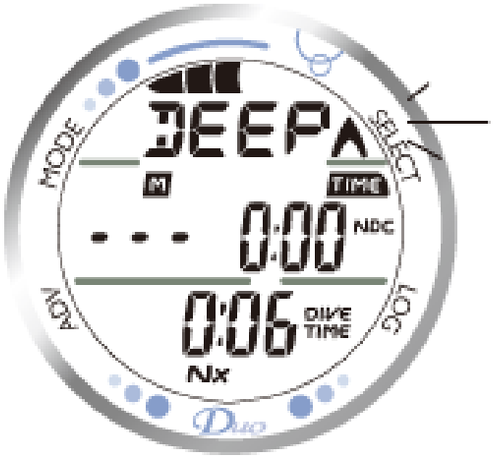
減圧停止深度の表示が15メートル等を指示した場合は、これらの停止深度まで浮上して減圧を続けることができます。

ノーマルダイブ違反・警告

〇計測範囲違反モード#3
最大潜水可能深度(MOD)の100メートルよりも深く潜降した場合、”∧”矢印が点滅し、現在深度と最大深度が”－－－”と表示され、計測範囲外に出てしまったことを示します。　(図99)

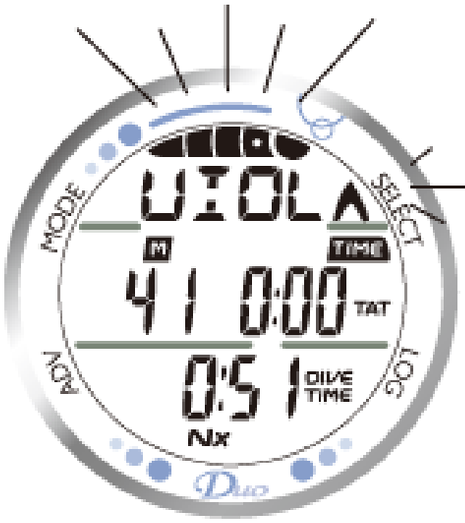
100メートルより浅い深度へ浮上するまで”TOO>DEEP”表示が、スクロールします。

100メートルより浅い深度へ浮上すると現在深度の表示は戻りますが、最大深度はそのダイビングが終わるまで”－－－”表示のままになります。また、そのダイビングのログの最大深度も”－－－”と表示されます。



(図99)
計測範囲違反モード#3

ノーマルダイブ違反・警告



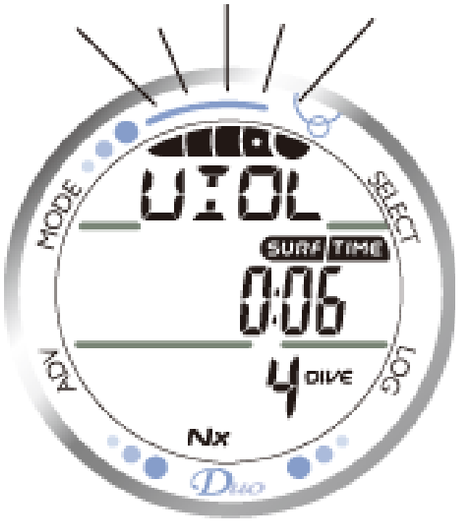
（図100）
警告違反

〇警告違反モードと違反ゲージモード
18メートルよりもはるかに深い深度での減圧停止が必要となった場合、警告違反画面に切り替わります。
これは計測範囲違反モード#2から切り替わります。

警告違反画面では　（図100）
バーグラフの全目盛と”∧”矢印が点滅します。
”UP>VIOL”表示がスクロールします。

警告違反画面に切り替わると、停止深度から浮上後の残りの潜水時間と、水面に浮上してから24時間の間、違反ゲージモードで動作します。
違反ゲージモードでは窒素及び酸素の体内蓄積量計算は機能しません。

また、計測範囲外違反が発生したダイビングから浮上すると5分後に、違反ゲージモードに切り替わります。



（図101）
違反ゲージモード
（水面）

違反ゲージモード(水面)では　（図101）
バーグラフの全目盛が点滅します。
ダイブモード表示、高度ランク、”WET”表示、"VIOL"表示がスクロールします。

違反ゲージモードは水面での機能も制約されます。

飛行機搭乗待機時間(FLY)表示の操作で表示されるカウントダウンタイマーは、飛行機搭乗待機時間ではなく、通常のダイブコンピューター機能に戻るまでの残り時間を意味します。

全ての機能が回復するまでには水面休息状態で24時間かかります。

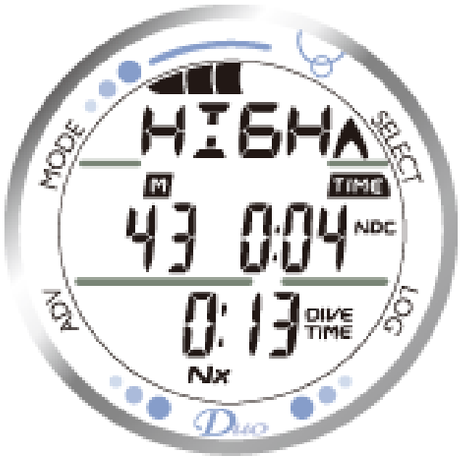
ノーマルダイブ違反・警告

〇酸素分圧警告
体内酸素分圧(PO2)がPO2警告音設定値の0.20ATA以内になると、警告音が鳴り、LED警告灯が点滅し、警告音が消音されるまで”HIGH>PO2”表示がスクロールします。
“PO2”と”∧”矢印表示が、体内酸素分圧(PO2)が減少するまで警告として固定表示されます。　(図102)
警告音を消音後は、”UP>HIGH>PO2”表示がスクロールします。

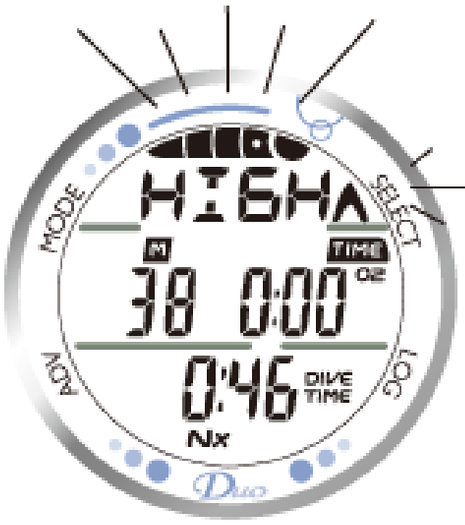
体内酸素分圧(PO2)が増え続けた場合、表示値は最大値5.00ATAまで0.01ATAずつ増加します。

体内酸素分圧(PO2)がPO2警告音設定値に達すると、再びLED警告灯が点滅し、警告音が鳴ります。
体内酸素分圧(PO2)が警告音設定値以下に減少するまで、”PO2”と”∧”矢印表示が警告として点滅します。
“UP>HIGH>PO2”表示がスクロールし続けます。

PO2の値はAボタンを押すと5秒間表示されます。



（図102）
酸素分圧警告



（図103）
体内酸素蓄積量警告

〇体内酸素蓄積量警告
02バーグラフは、現在のナイトロックス・ダイビングまたは、24時間以内の反復潜水による体内酸素蓄積量の最大値を表示します。
02バーグラフの目盛によって、どのくらい体内酸素蓄積量の限界に近付いているかを確認できます。

理論上の体内酸素蓄積量が、1回のダイビングの体内酸素蓄積量限界、または24時間以内の蓄積限界(300OTU)以上になると、02潜水可能時間が0:00になり、”02BG”が表示され、02バーグラフの全ての目盛と”∧”矢印が点滅します。　(図103)

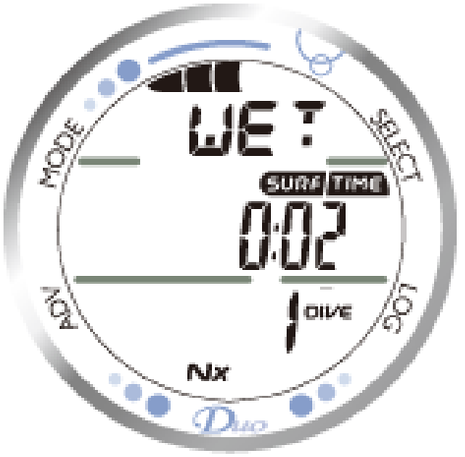
警告音が鳴り、LED警告灯が点滅し、”HIGH>02”表示がスクロールします。
Sボタンを押して警告音を止めると、体内酸素蓄積量が限界未満に減少するまで”UP>HIGH>02”表示がスクロールし続けます。

水面に浮上後は、02バーグラフが目盛4つに後退するまで機能がノーマルダイブモードにロックされます。時計モードへの切り替えはできますが、ゲージ及びフローダイブモードへの切り替えはできません。

ノーマルダイブ浮上後

■ノーマルダイビング浮上後(サーフェスモード)
水深0.6メートルまで浮上すると、サーフェスモードに切り替わり、
水面休息時間の計測を始めます。

サーフェスモード画面では
・バーグラフ
・水面休息時間
・ダイブモード表示、高度ランク、”WET”表示(濡れている場合)を
交互に表示
※ダイビング中に低バッテリー状態が生じた場合は、
水面浮上時に”CHNG>BATT”表示
・ダイブナンバー
を表示します。 (図104)



(図104)
サーフェスモード

水面浮上後10分以内に再度水深1.5メートルまで潜降すると、前回
ダイビングの継続とみなされます。この水面での時間(10分未満)は
潜水時間に含まれません。

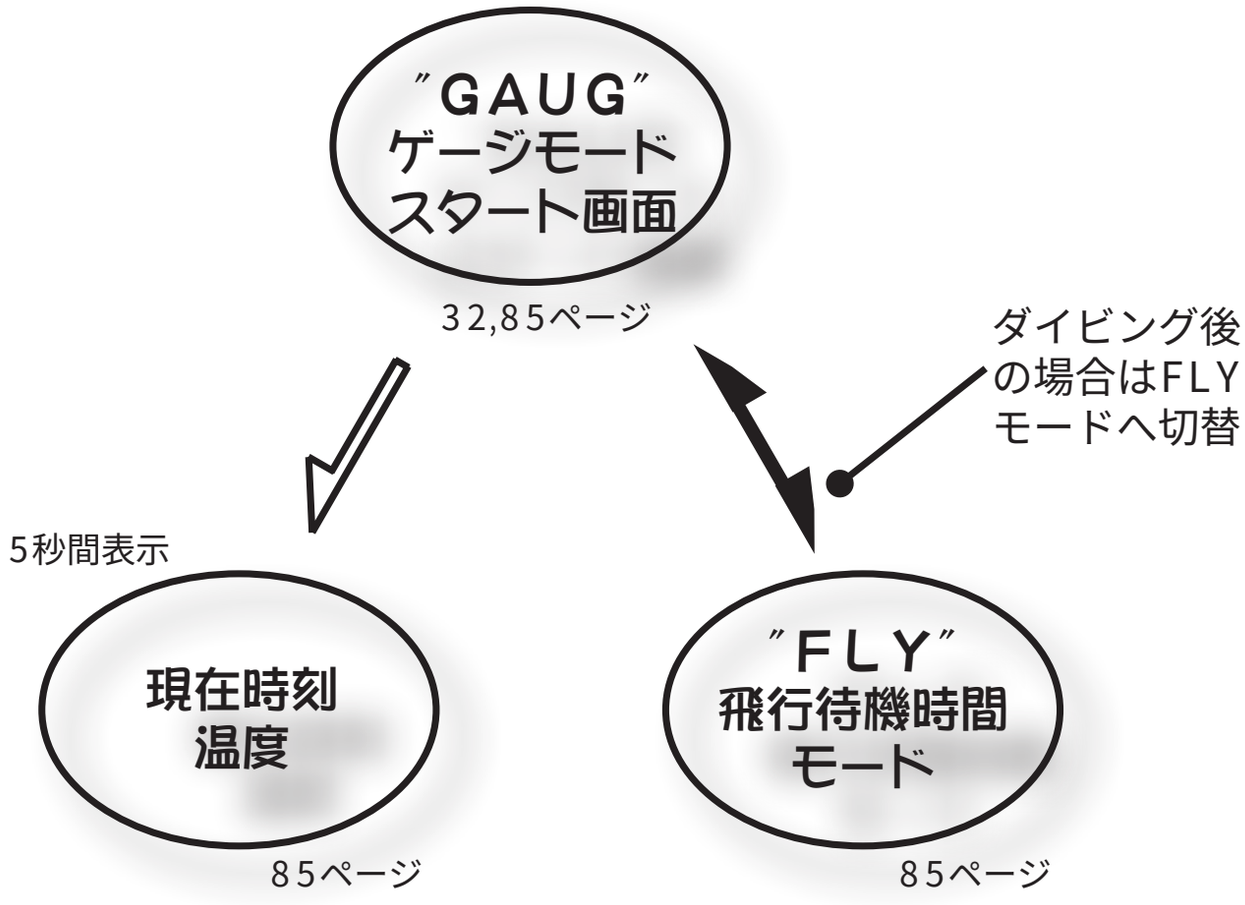
水面浮上後10分経過すると、”SURF”マークが点滅しなくなり、
その後の潜降は新たなダイビングと認識されます。
画面はメイン時計に戻ります。

水面浮上後10分経過すると潜水前計画、飛行待機時間、脱飽和などの
各モードへの切り替えが可能になります。

ゲージダイブモード

：Aボタン

：Aボタン長押し



ゲージダイブモード

■ゲージダイブモード　"GAUG"

ダイブコンピューターの動作モードとしてゲージダイブモードが選択されている場合、本製品はデジタル深度ゲージ/タイマーとして機能し、窒素及び酸素の体内蓄積量計算を行ないません。
(ダイブモードの切り替え手順は32.38ページ参照)

(図105)

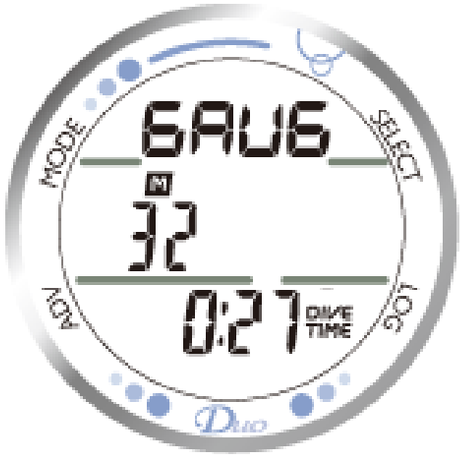
ゲージダイブモードスタート画面では
・選択ゲージモード
・水面休息時間
・ダイブナンバー
を表示します。　(図105)

→Aボタンを押すと、飛行機搭乗待機時間(FLY)モードに切り替わります。(ダイビング後の場合)
　もう一度Aボタンを押すとスタート画面に戻ります。
→Aボタンを長押しすると現在時刻、温度を5秒間表示します。

接水起動設定ONに設定している場合、1.5メートルの深度へ5秒間潜行すると自動的にダイブモードに切り替わります。
(接水起動については59ページ参照)

⚠注意
ゲージダイブモードでダイビングをすると、浮上後24時間はダイブモードがゲージモードにロックされ、ノーマル及びフリーダイブモードへの切り替えができなくなります。

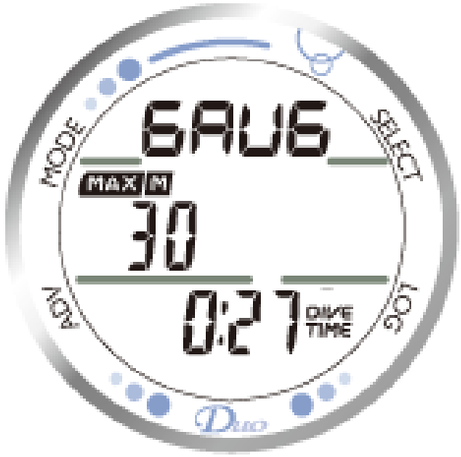
ゲージダイブモード



（図106）
ゲージ潜水画面

〇ゲージモード潜水
ゲージ潜水画面では
・現在水深
・潜水経過時間
を表示します。　（図106）

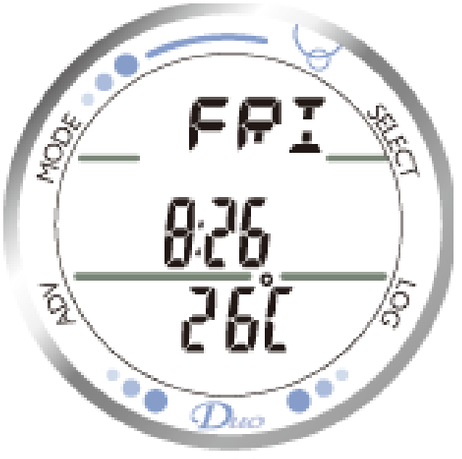
→Aボタンを押すと、ゲージ潜水補助画面1に切り替わります。



（図107）補助画面1

〇ゲージ潜水補助画面1
ゲージ潜水補助画面1では
・最大深度
を表示します。　（図107）

→Aボタンを押すとゲージ潜水補助画面2へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないと無減圧潜水画面に戻ります。

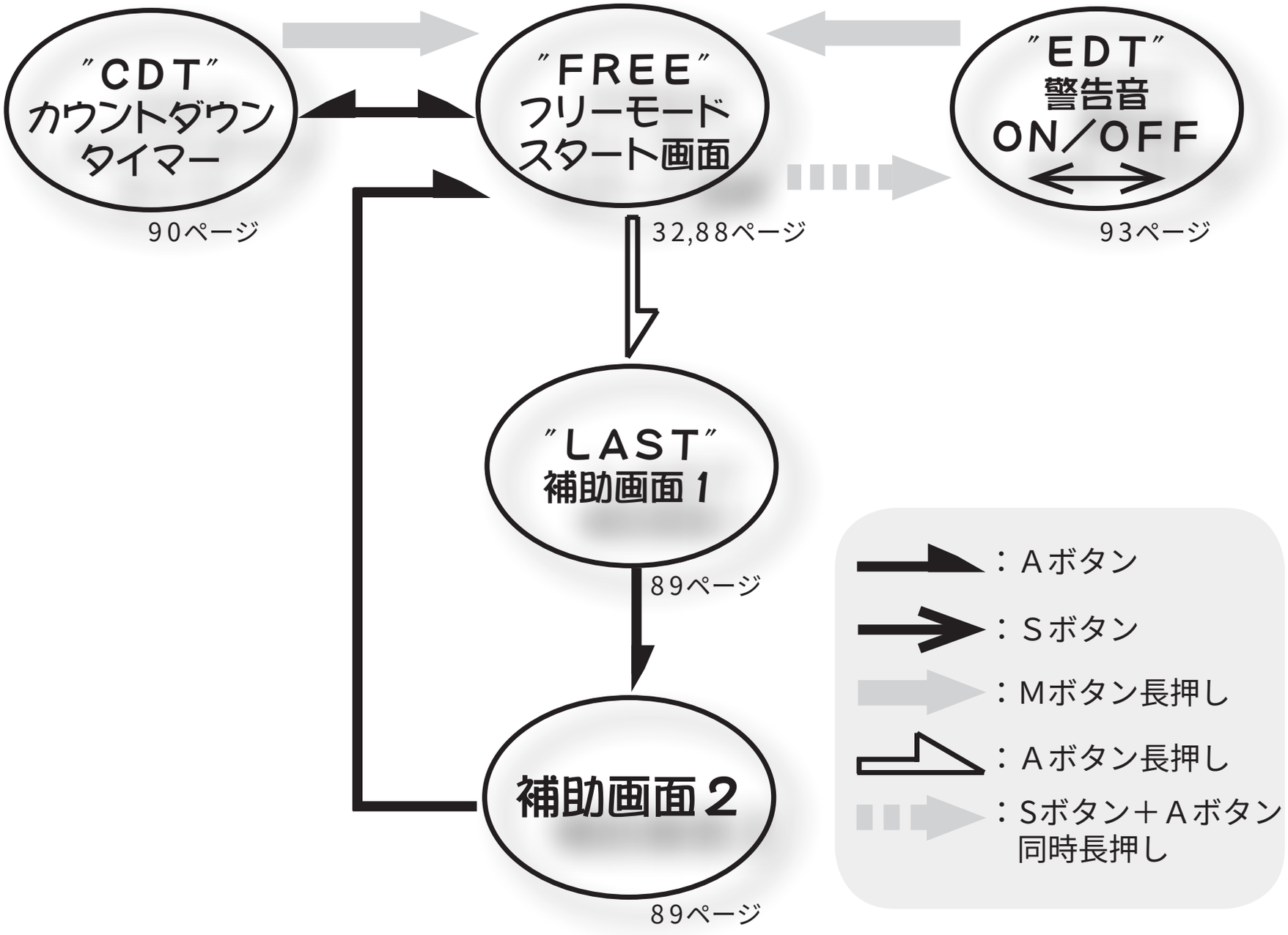


（図108）補助画面2

〇ゲージ潜水補助画面2
ゲージ潜水補助画面2では
・現在時刻
・温度
を表示します。　（図108）

→5秒間ボタン操作がないと無減圧潜水画面に戻ります。

フリーダイブモード


″CDT″
カウントダウン
タイマー
90ページ
″FREE″
フリーモード
スタート画面
32,88ページ
″EDT″
警告音
ON／OFF
93ページ
″LAST″
補助画面1
89ページ
補助画面2
89ページ
：Aボタン
：Sボタン
：Mボタン長押し
：Aボタン長押し
：Sボタン＋Aボタン
同時長押し

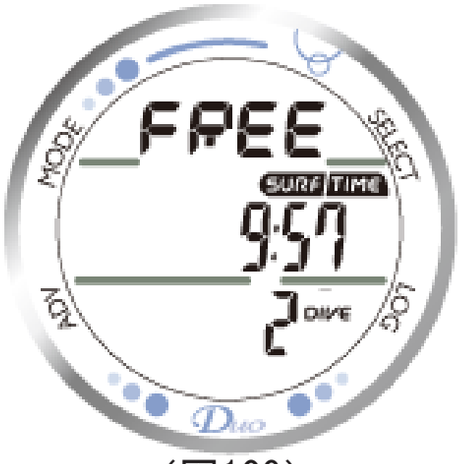
フリーダイブモード

■フリーダイブ水面モード

○フリーダイブモード　"FREE"

ダイブコンピューターの動作モードとしてフリーダイブモードが選択されている場合、本製品はデジタル深度ゲージとして機能します。
体内窒素蓄積量は酸素濃度比率(FO2)がAir設定の条件で計算し、
体内窒素蓄積量のデータはフリー及びノーマルダイブモードで
24時間の間共有されます。
(ダイブモードの切り替え手順は32.38ページ参照)

フリーダイブモードでは時間、接水起動、表示単位、セーフティ設定の各設定は、ノーマル・ゲージモードで設定された値が適用されます。



(図109)

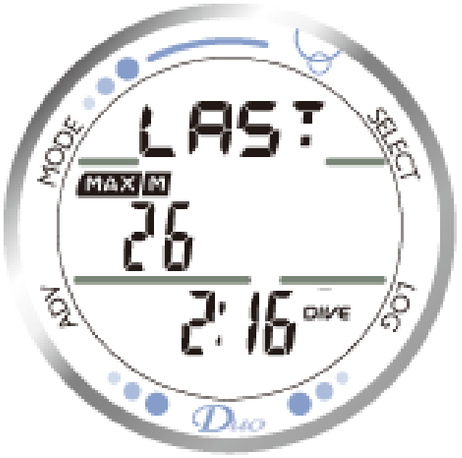
フリーダイブモードスタート画面では
・選択ゲージモード、高度ランク
・水面休息時間
・反復フリーダイビングの合計回数
を表示します。　(図109)

→Aボタンを押すと、カウントダウン・タイマー・ステータス画面(TIMR)に切り替わります。
→Aボタンを長押しするとフリー補助画面1へ進みます。
→AボタンとSボタンを同時に長押しするとフリー潜水経過時間(EDT)警告音画面へ進みます。

フリーダイブモード

〇フリーモード補助画面1　("LAST"表示)
フリーモード補助画面1では
・前回フリーダイビングの到達最大深度
・前回フリーダイビングの潜水経過時間
を表示します。　(図110)

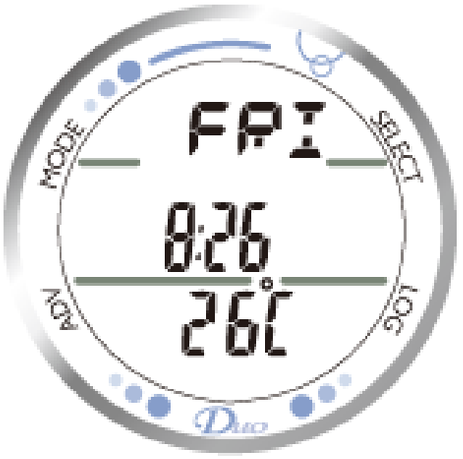
→Aボタンを押すとフリーモード補助画面2へ進みます。
→5秒間ボタン操作がないとフリーダイブモードスタート画面に
　戻ります。



(図110)
フリーモード補助画面1

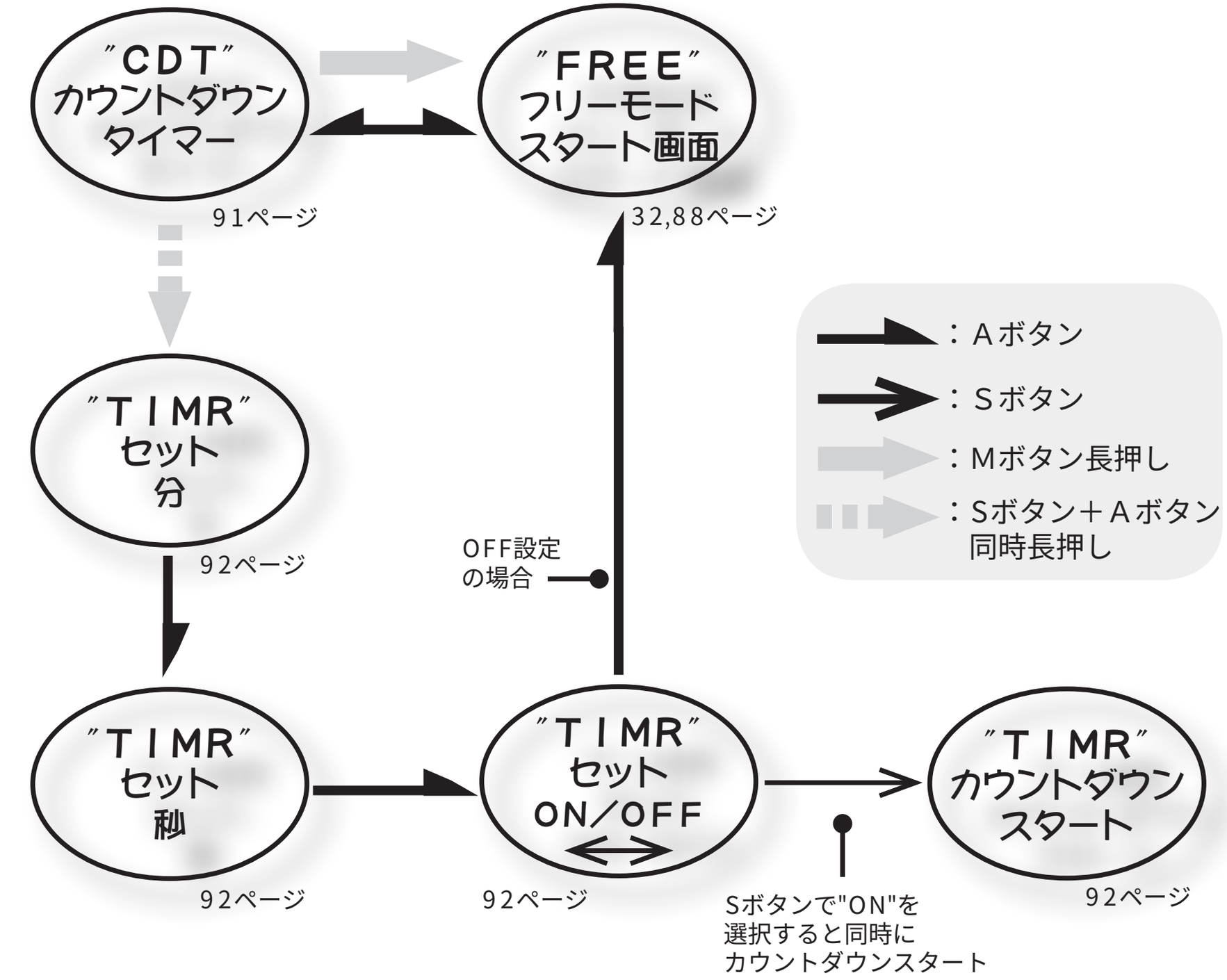
〇フリーモード補助画面2
フリーモード補助画面2では
・現在時刻
・温度
を表示します。　(図111)

→5秒間ボタン操作がないとフリーダイブモードスタート画面に
　戻ります。



(図111)
フリーモード補助画面2

フリーカウントダウンタイマー



フリーダイブモード

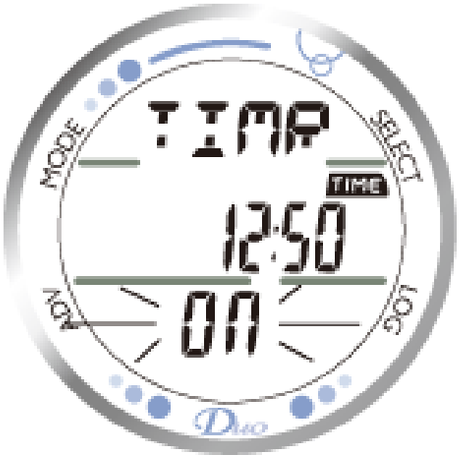
■フリーダイブモードカウントダウンタイマー(CDT)
時計モードのカウントダウンタイマーとは別にフリーダイブモード独自のカウントダウンタイマー機能があります。

フリーダイブモードスタート画面でAボタンを押すと、
カウントダウン・タイマー・ステータス画面に切り替わります。
("TIMR"表示)

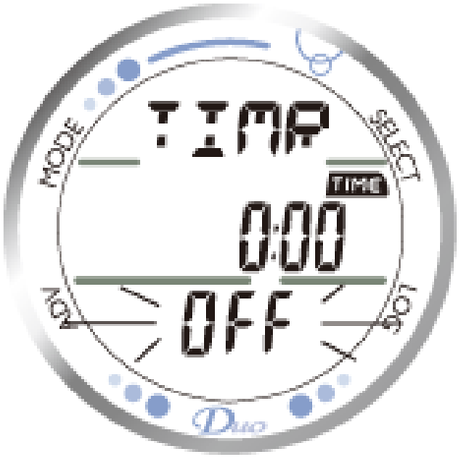
○カウントダウン・タイマーの設定
カウントダウン・タイマー・ステータス画面では
・タイマーがONでカウントが残っていない時は0:00(分：秒)
・タイマーがOFFの時は、以前に設定されたカウントダウン時間が表示されます。　(図112/113)

・Sボタンを押すと、ONとOFFを切り替えられます。
・カウントダウン時間が設定されている場合、OFFからONへ切り替えるとカウントダウン・タイマーがスタートします。

→Aボタンを押すか、Mボタンを長押しする、あるいは2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。
→タイマーがOFFでカウントダウン・タイマー・ステータス画面を表示中にAボタンとSボタンを同時に長押しすると、カウントダウン・タイマー設定画面に進みます。

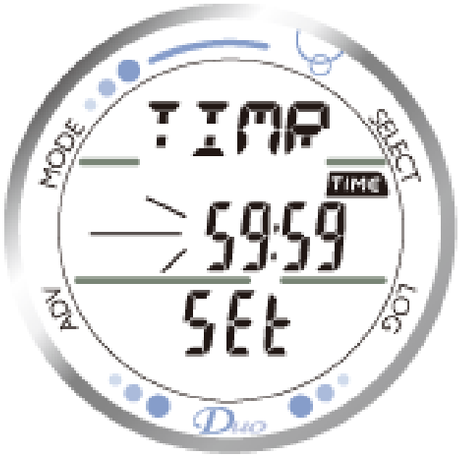


(図112)



(図113)

注意
ダイビング中はカウントダウン・タイマーのON(開始)とOFF(停止)はできますが、設定はできません。

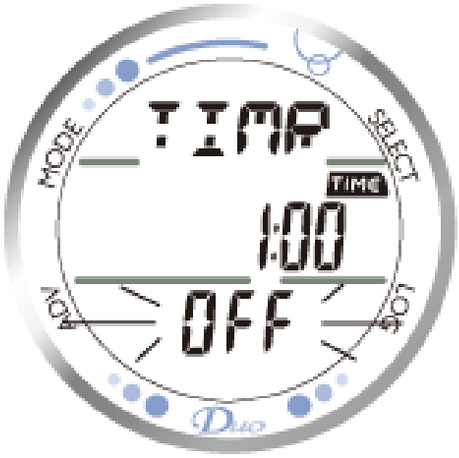


（図114）
カウントダウン
時間設定

○カウントダウン時間の設定
カウントダウン・タイマー設定画面では"Set"が表示されます。
（図114）

・「分」設定値が点滅中にSボタンで設定します。
・Aボタンを押すと「分」の設定値を保存して秒の設定に進みます。
・「秒」設定値が点滅中にSボタンで設定します。
・Aボタンを押すと”Set”表示が"OFF”表示点滅に変わり、カウントダウン・タイマーの設定値が保存された事を示します。　（図115）

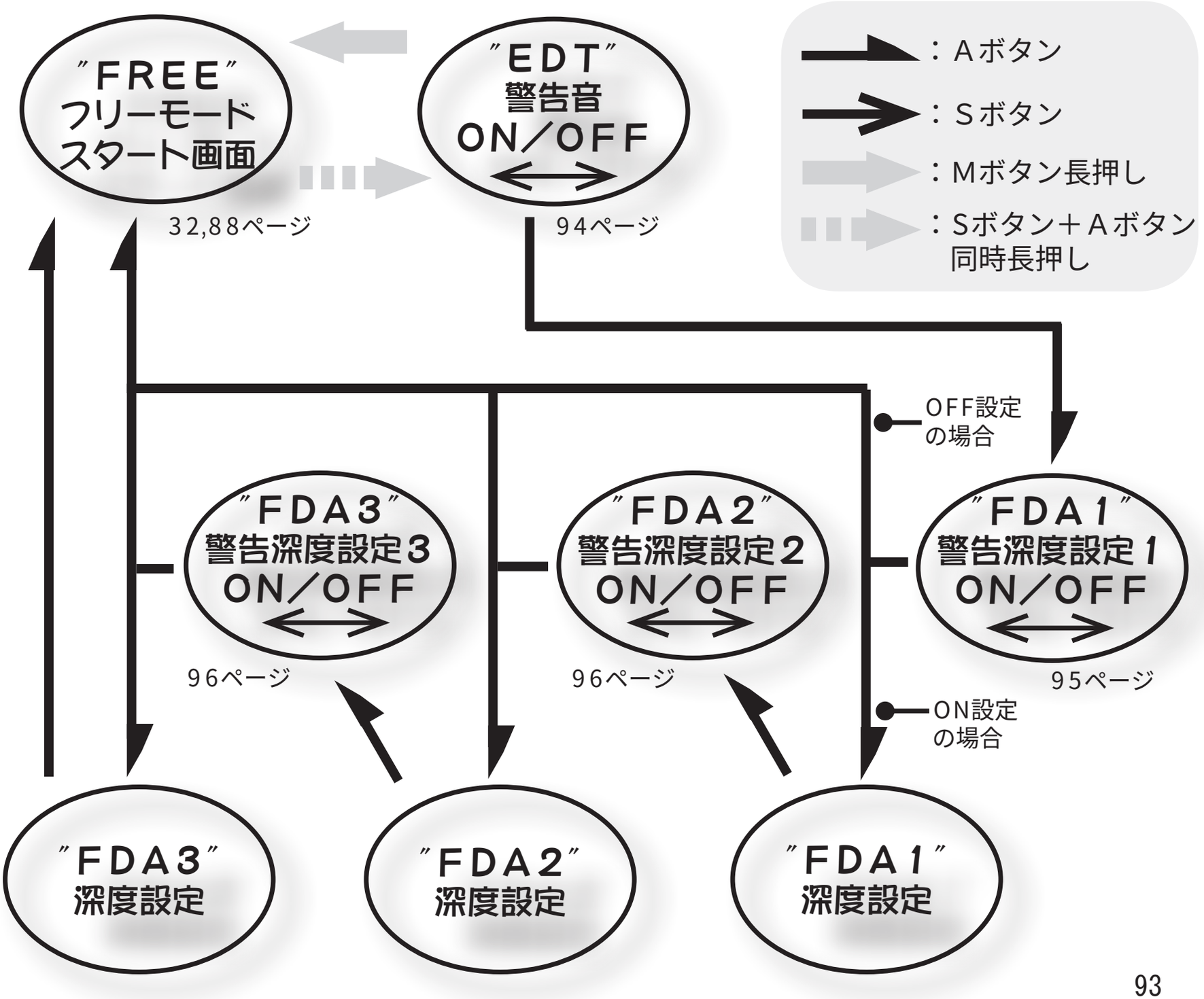
・Sボタンを押すと、ONに切り替わり、カウントダウン・タイマーをスタートします。



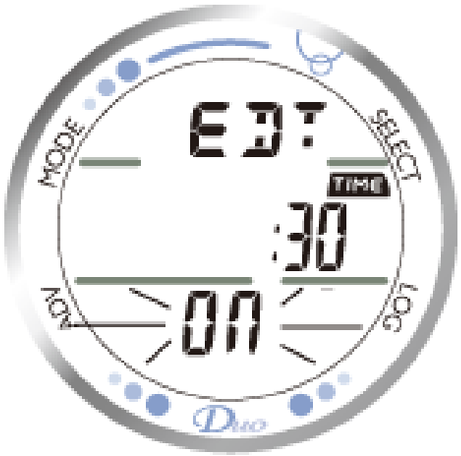
（図115）
時間設定完了

→Aボタンを押すか、Mボタンを長押しする、あるいは2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。
→タイマーがOFFでカウントダウン・タイマー・ステータス画面を表示中にAボタンとSボタンを同時に長押しすると、カウントダウン・タイマー設定画面に進みます。

フリーダイブ潜水経過時間・深度警告音設定



フリーダイブモード警告音



（図116）
フリーモード
潜水経過時間警告

■フリーダイブモード潜水経過時間(EDT)警告音
ノーマル・ゲージモードの潜水経過時間警告音とは別にフリーダイブモード独自の潜水経過時間警告音設定機能があります。
ONに設定された場合、設定された時間ごとに短い警告音が3回鳴り、”TIME”表示が一時的に表示されます。

フリーダイブモードスタート画面でAボタンとSボタンを同時に長押しするとフリー潜水経過時間警告音設定画面へ切り替わります。
（“EDT”表示）

〇フリー潜水経過時間警告音設定
フリー潜水経過時間警告音設定画面では
・設定時間
・ONまたはOFFの設定値
が表示されます。　（図116）

→Sボタンを押すと、ONとOFFを切り替えられます。
→Aボタンを押すと設定を保存してフリー深度警告音設定1画面に進みます。
→Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

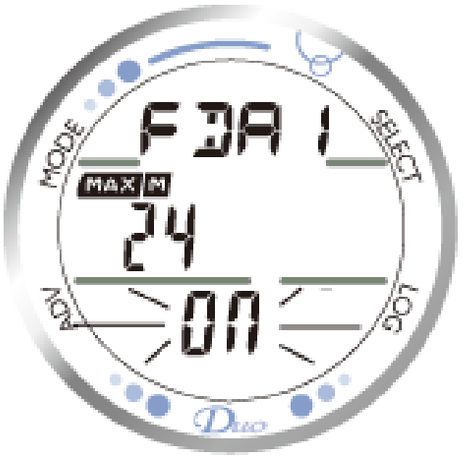
注意
フリーダイブモード潜水経過時間警告音は水面でのみON/OFFの設定が可能で、ダイビング中は変更できません。

フリーダイブモード警告音

■フリーダイブモード深度警告音(FDA)
ノーマル・ゲージモードの深度警告とは別にフリーダイブモード独自の深度警告設定機能があります。
深度警告は3段階の深度設定とON・OFFの設定が可能です。
・警告音1がOFFの場合、警告音2と3は無効になります。
・警告音2がOFFの場合、警告音3は無効になります。

ダイビング中に各深度に到達した場合、3回の短い警告音が3回鳴り、”DPTH”が3回表示されます。

○フリー深度警告音設定1　(FDA1)
フリー深度警告音設定1画面では
・設定深度
・ONまたはOFFの設定値
が表示されます。　(図117)



(図117)
フリーモード
深度警告音1

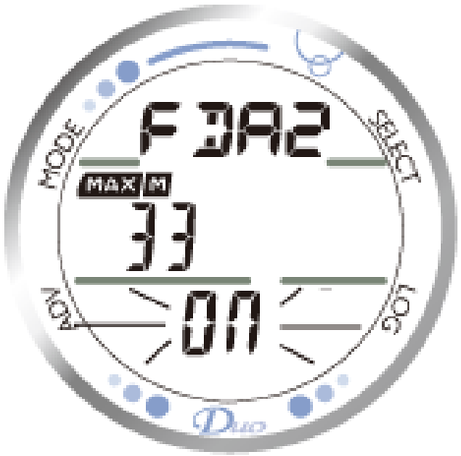
Sボタンを押すと、設定値のOFFとONを切り替えることができます。
Aボタンを押すと、設定値を決定します。

OFFを選択/決定した場合、FDA2および3の設定は無視されてフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

ONを選択/決定した場合、深度の値が点滅します。
・Sボタンを押すごとに1メートルずつ、設定値10～100メートルまで、数値が増加していきます。
・Sボタンを押し続けると、ボタンを離すまで進み続けます。

→Aボタンを押すと、設定を決定してFDA2設定画面に進みます。
→Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

フリーダイブモード警告音



（図118）
フリーモード
深度警告音2

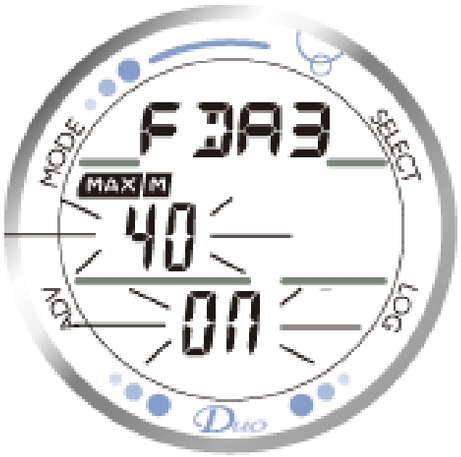
○フリー深度警告音設定2　(FDA2)
表示及び設定の手順はフリー深度警告音設定1と同様です。(図118)

OFFを選択/決定した場合、FDA3の設定は無視されてフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

ONを選択/決定した場合、深度の値が点滅します。
・Sボタンを押すごとに1メートルずつ、設定値11～100メートルまで、数値が増加していきます。

→Aボタンを押すと、設定深度を決定してFDA3設定画面に進みます。
→Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

フリー深度警告音設定2(FDA2)の設定深度の範囲は設定1の設定深度よりも深い深度になります。



（図119）
フリーモード
深度警告音3

○フリー深度警告音設定3　(FDA3)
表示及び設定の手順はフリー深度警告音設定1,2と同様です。(図119)

OFFを選択/決定した場合、フリーダイブモードスタート画面に戻ります。
ONを選択/決定した場合、深度の値が点滅します。
・Sボタンを押すごとに1メートルずつ、設定値12～100メートルまで、数値が増加していきます。

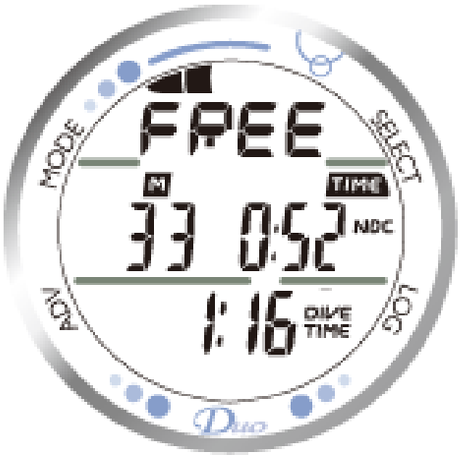
・Aボタンを押すと、設定深度を決定してフリーダイブモードスタート画面に戻ります。
・Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はフリーダイブモードスタート画面に戻ります。

フリー深度警告音設定3(FDA3)の設定深度の範囲は設定2の設定深度よりも深い深度になります。

フリーダイブモード

■フリーダイブ潜水モード
フリー潜水画面では
・現在深度
・無減圧潜水時間
・潜水経過時間
が表示されます。　(図120)

→Aボタンを押すと、カウントダウン・タイマー・ステータス画面に
　切り替わります。

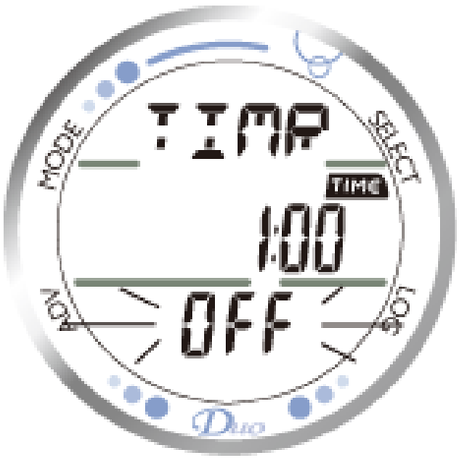


（図120）フリー潜水

○フリーダイブカウント・ダウン・タイマー
フリーダイブカウントダウン・タイマー・ステータス画面(図121)で
Sボタンを押すと、設定値のOFFとONが切り替わります。

時間が設定された場合は、OFFからONへ切り替えると同時に
カウントダウンがスタートします。
カウントダウンがスタートすると”:”が点滅します。　(図122)

→Mボタンを長押しするか2分間ボタン操作がない場合はフリー潜水
　画面に戻ります。

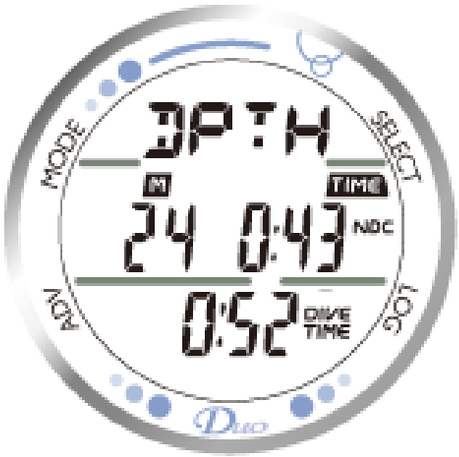


（図121）ステータス

（図122）ｶｳﾝﾄﾀﾞｳﾝ

（図123）タイマー警告

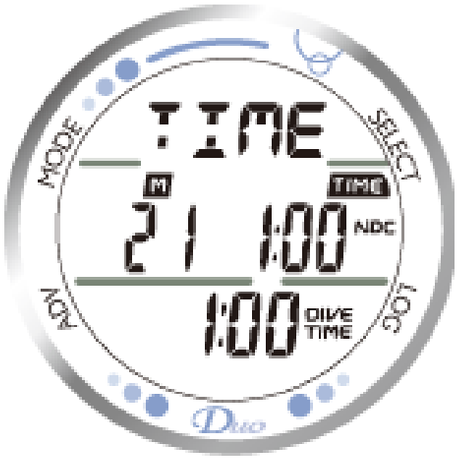
○フリー潜水カウント・ダウン・タイマー警告音(CDT)
フリー潜水カウントダウン・タイマーが0:00になったとき、3回の短い警告音が3回鳴り、「TIMR」が画面に3回一時的に表示(図123)された後、フリー潜水画面に戻ります。



（図124）深度警告

○フリー潜水深度警告音(FDA)
深度がフリー潜水深度警告設定値に到達すると、3回の短い警告音が3回鳴り、LED警告灯が点滅し、”DPTH”が画面に3回一時的に表示(図124)された後、フリー潜水画面に戻ります。

設定深度よりも浅い水深へ浮上した後、再度設定深度以深へ潜行すると、それぞれ(FDA1,2,3)の警告音が再度鳴ります。

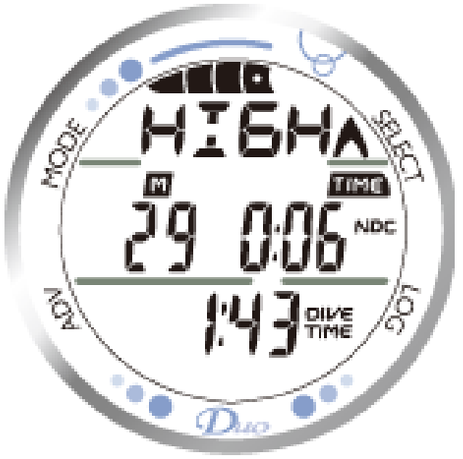


（図125）潜水時間警告

○フリー潜水経過時間警告音(EDT)
フリーダイビング開始前に潜水経過時間警告音をON設定にしておくと、設定経過時間ごとに短い警告音が3回鳴り、LEDが点滅し、”TIME”表示が画面に一時的に表示(図125)された後、フリー潜水画面に戻ります。

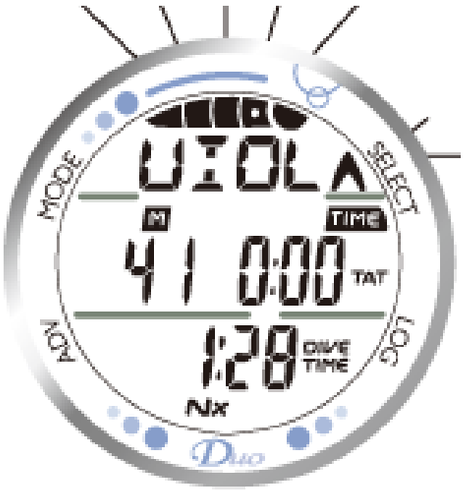
フリーダイブモード

○窒素バーグラフ警告音
フリーダイビング中は24時間以内に行なわれたノーマル及びフリーダイビングによる体内窒素蓄積量をバーグラフで表示します。
体内窒素量がバーグラフの4つの目盛で表示される警戒レベルまで増加すると”∧”矢印が点灯し、3回の短い警告音が3回鳴り、LEDが点滅して、”UP>HIGH>NI”表示が画面に表示されます(図126)。
警告音の後、バーグラフが3目盛まで後退するまでこの表示はスクロールし続け、後退した時点で表示が"FREE"に変わり、”∧”矢印が消灯します。



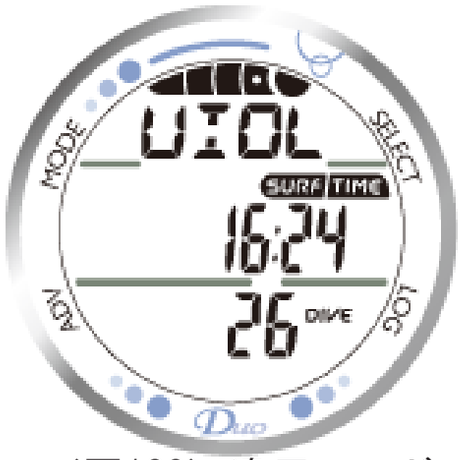
（図126）窒素警告

○フリーダイビング中の減圧潜水
減圧潜水状態に突入(体内窒素蓄積量が増加し、バーグラフの全ての目盛が点滅)すると、”∧”矢印が点滅し、3回の短い警告音が3回鳴り、LEDが点滅して、”UP>VIOL>NI”表示が画面に表示されます。(図127)
警告音の後、浮上するまで”UP>VIOL”表示がスクロールし続け、浮上後10分間は”VIOL”表示が表示されます。
水面に浮上した際に”∧”矢印は消えますが、バーグラフは24時間点滅し続け、水面休息で24時間経過するまで違反モード(図128)になります。時計モードへの切り替えは可能ですが、ノーマル及びゲージモードへの切り替えはできなくなります。



（図127）減圧潜水

●フリーダイビングについて●
フリーダイビングではレギュレーターが利用されないとはいえ、体内窒素は要素として残ります。体内窒素は空気のFO2値に基づいて計算されます。ノーマルダイビングとフリーダイビングを24時間以内に交互に行う場合があるため、窒素計算と表示される無減圧潜水時間の値は双方のモードで共有され、それにより窒素の吸収と排出の状況を把握することができます。
本製品で用いられている数学的モデルは無減圧/減圧マルチレベル反復潜水・スケジュールに基づいています。アルゴリズムは、競技タイプのフリーダイビングを考慮していません。



（図128）違反モード

memo

警告一覧

警告表示

表示	内容
DECO>STOP>水深M	減圧モードに突入
DOWN>TO>水深M	必要減圧停止深度以浅
DECO>STOP>18M	18メートルより深い深度での減圧停止が必要
UP>HIGH>PO2	無減圧モード中の高酸素分圧警告
HIGH PO2	減圧モード中の高酸素分圧警告
UP>HIGH>O2	バーグラフ警告(体内酸素蓄積量警告)
TOO>DEEP	深度警告
UP>VIOL	21メートルより深い深度での減圧停止が必要
SLOW>SLOW	浮上速度超過警告
LOW>DIVE>TIME	潜水可能時間警告
TIME>TOO>LONG	潜水経過時間警告
UP>HIGH>NI	バーグラフ警告(体内窒素蓄積量警告)
ERR	エラー状態

■エラー表示(ERR)について　（ダイビング中のリセット）

（図129）

（図130）

ダイビング中に何らかの原因でダイブコンピューターの電源が遮断され、再び復帰した場合、画面にはエラー状態であることを示す”ERR”と浮上マーク及び現在水深が表示されます。（図129）
万一この状態になった場合は、ダイビングを中断し、安全に浮上してください。
浮上後はダイブモードに切り替えようとした際に”ERR”が表示され、どのダイブモードにも切り替わりません。　（図130）
　“ERR”が表示された場合は、ご使用を避け、メンテナンスをお受けください。

警告音

ノーマル・ゲージモードで、危険な状況が発生すると、10秒間毎秒1回の警告音を発信します。
（危険な状況が改善される、又はSボタンを押すと止まります）

フリーモードでは独自の警告音(3回の短い警告音が1～3回)が発信されます。
フリーモードの警告音はSボタンを押して警告音を止めることも、事前にOFF設定にすることもできません。

LED警告灯は、警告音と同期化されています。警告音が鳴ると点滅します。
警告音はSボタンを押して止めるか状況が改善されるとOFFになります。
警告音設定がOFFの場合、警告音とLEDは作動しません。

■ノーマル・ゲージモードで警告音が10秒間鳴る場合
・設定された最大深度をこえたとき
・コンピューターにより算出された残存潜水時間をこえたとき
・設定された経過潜水時間をこえたとき
・酸素分圧による最大許容深度をこえたとき
・体内酸素量限界をこえたとき
・窒素バーグラフが設定された目盛をこえたとき
・浮上速度が、18メートルより深いところで18メートル/分をこえるか、
18メートルより浅いところで9メートル/分をこえる場合
・減圧潜水(DECO)突入時
・条件付違反モード(減圧停止必要停止深度より上に5分未満)
・計測範囲違反モード(減圧停止必要停止深度より上に5分以上)
・計測範囲違反モード(18メートルより深い減圧停止深度が必要)
・計測範囲違反モード(最大表示深度100メートルを超過)
・アラーム設定時刻になった場合(ダイブモード中は無効)
・時計モードのカウントダウン・タイマーが0:00になったとき

警告音

■1回の短い警告音が鳴る場合　(無効にできません)
・ダイビング終了5分後に計測範囲違反から警告違反に切り替わった時

■3回の短い警告音が鳴る場合　(無効にできません)
・ノーマル・ゲージモードで浮上速度が、
　18メートルより深いところで15.1～18メートル/分か、
　18メートルより浅いところで7.5～9メートル/分の場合
・フリーモード経過潜水時間警告音(ONに設定された場合、30秒ごとに3回)
・フリーモード深度警告音1/2/3(徐々に深く設定)-各3回が3セット
・フリーモード窒素バーグラフ警告音-3回が3セット
・フリーモード潜水中に無減圧潜水(DECO)突入時 -3回が3セット
・フリーモード潜水モードのカウントダウン・タイマーが0:00になった場合-各3回が3セット

■ノーマルモードで10秒間の継続した警告音のあと、5秒間の一定間隔の警告音が鳴る場合
(OFFにできません)
・必要な減圧シーリング停止深度より浅く5分以上いた場合(計測範囲違反とみなされます)
・21メートル以上の減圧停止深度が必要な場合
・条件付違反があったダイビングで水面浮上してから5分後

付録

安全上の注意

使用目的

ダイブコンピューターはレジャーダイビングにおける使用を前提とした潜水器材です。
レジャーダイビング時において「水深、時間を計測するとともに安全なダイビングを行うために参考となる情報を表示」します。

お使いいただく前に

ダイブコンピューターを安全にご使用いただくためには、正しい操作と定期的な保守・点検が不可欠です。この取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになってからダイビングを行ってください。

■レジャーダイビングにおいてご使用下さい。

警告

●本製品をレジャーダイビング以外の目的で使用しないで下さい。
●本製品を使用する際は、この取扱説明書に指示されている安全に関する注意事項をすべて守って下さい。

■Cカードを取得してからご使用ください。

警告

本製品を使用する場合は潜水指導団体の講習を受け、Cカードを取得しダイブコンピューターの正しい取扱方法やナイトロックス潜水及びスクーバダイビングで起こり得る危険に関しての身に付けた方のみご使用下さい。

■異常があったら使用しないで下さい。

警告

ダイビングコンピューターに異常があったら使用しないで下さい。

減圧モデルについて

本製品では、高い信頼性と安全性を確保するために、さまざまな調査研究の成果に基づく数学的減圧モデルにより、体内への窒素の吸収・排出計算を細心の配慮のもとに行っています。

本製品は、一般の健康で平均的な体力を持った人を基準に設計しています。しかしダイバーの生理面は各人ごとに違うばかりでなく、毎日変化するものです。本製品の表示データは、このような実際の個々の使用者の生理的な機能まではチェックできません。年齢、性別、体脂肪量、病症歴などさまざまな要因によっては、本製品の表示するデータよりもさらに安全性の高いダイビングを行わなければならないこともあります。過酷な環境条件、特に脱水状態にあるときは減圧症の危険性が高まります。このようなときにも、本製品の表示するデータよりもさらに安全性の高いダイビングを行わなければなりません。

警告

本製品は、一般の健康で平均的体力を持った人を基準に設計しています。従って個々のダイバーはそれぞれ自分にあった安全なダイビングの計画、遂行を責任持って行って下さい。

■本製品は減圧症などの疾患を必ず防止できるものではありません。

警告

表示より控えめなダイビングを行ってください。本製品は減圧症をはじめ、その他さまざまなダイビングを起因とする疾患を必ず防止できるものではありません。

■本製品はレジャーダイビング用のダイブコンピューターです。

警告

●減圧潜水はしないでください。本製品は無減圧潜水での使用を前提にしています。
　万一のため減圧潜水での情報も提供しますが危険なためおやめください。
●本製品は職業ダイバー用ではありません。

減圧モデルについて

■本製品は加圧空気及びナイトロックスガス使用でのダイビングを前提としています。

警告
本製品は空気及びナイトロックスガス以外でのダイビングでは、使用できません。

■十分な安全停止、減圧停止を行って下さい。

警告
無減圧潜水で余裕を持ったダイビングを行って下さい。15m以深に潜水した場合は、安全のために必ず3～6メートルでの停止(安全停止)を行うようにして下さい。また、減圧停止の表示が出た場合は指示された時間より長めに停止することをお勧めします。

■本製品は個人で単独に使用することを前提に設計されています。他人に貸す場合は表示画面が初期状態の時刻モード(体内窒素排出時間、体内窒素量がゼロ)になっており、かつ過去48時間以内に気圧ランクの変化、潜水を経験していない人に限ります。

警告
●反復潜水時や気圧ランクの変化発生時に、他人に絶対貸してはいけません。
●本製品のデータを使用者以外のダイバーのデータとして使用してはいけません。

飛行機搭乗について

飛行機搭乗について

警告

1日2本以上のスクーバダイビングを2日以上続けて行った場合や減圧停止が必要なダイビングを行った場合は最低24時間できれば48時間の休息の後、高所への移動や飛行機への搭乗をすることをお勧め致します。

高所へ移動すると気圧が下がります。また飛行機の客室内は飛行中、気圧調整をしてはいるものの高所への移動と同様、気圧が低い状態にあります。ダイビング後、十分な休息時間をとらずに高所へ移動したり飛行機に乗ったりすると気圧が下がるために減圧症にかかることがあります。
減圧症をできるかぎり予防する意味で、1日2本以上のダイビングを2日以上続けて行った場合や、減圧停止が必要なダイビングを行った場合は特に長めの休息をとって下さい。
目安として、最低24時間、できれば48時間の休息の後、高所への移動や飛行機への搭乗をすることをお勧め致します。

高所ダイビングについて

高所ダイビングについて

⚠ 警告

●高所ダイビングを行うとき、無減圧潜水時間は海抜0m地点よりも短くなります。
●高所においても絶対に減圧潜水は行わないで下さい。

本製品は高所ダイビングを行う際、スイッチ操作及び特別な設定なしで使用することができます。

本製品は時刻・サーフェスモードの間、15分間隔で高度を測定します。
ー浮上後24時間、時計モードとして作動している間測定します。
ー機器が乾燥状態(水分感知してない状態)の間のみ高度測定します。

本製品の数理モデルは米国海洋大気庁(NOAA)のガイドラインによる無減圧潜水時間に基づいています。
高所潜水（標高915～4,270m）の際、本製品は(高度305mごとに)自動的に調整し、正確な水深、無減圧潜水時間、体内酸素蓄積の減少時間を計算します。
本製品が水分を感知している状態ではこれらの調整は行われません。
標高915mより高い高度では水深計算は海水から淡水へ自動的に校正されます。
セーフティー設定がONになっている場合は、潜水可能時間が実際より915m高い高度の条件で計算されます。但し、標高3,355m以上での潜水可能時間は全て標高4,270mでの潜水として計算されます。

本製品は標高4,270mより高い高度ではダイブコンピューターとして作動しません。

高所ダイビングについて

■高度別無減圧潜水時間限界　(時：分)

高度 (m)	0 ～ 915	916 ～ 1,220	1,221 ～ 1,525	1,526 ～ 1,830	1,831 ～ 2,135	2,136 ～ 2,440	2,441 ～ 2,745	2,746 ～ 3,050	3,051 ～ 3,355	3,356 ～ 3,660	3,661 ～ 3,965	3,966 ～ 4,270
深度 (m)												
9	4:43	3:37	3:24	3:10	2:58	2:48	2:39	2:31	2:24	2:18	2:12	2:07
12	2:24	1:52	1:44	1:37	1:30	1:25	1:21	1:17	1:13	1:10	1:07	1:04
15	1:25	1:06	1:03	1:00	0:57	0:55	0:52	0:49	0:46	0:43	0:41	0:39
18	0:59	0:45	0:42	0:40	0:38	0:36	0:34	0:32	0:31	0:30	0:29	0:28
21	0:41	0:33	0:31	0:29	0:28	0:27	0:26	0:24	0:23	0:21	0:20	0:19
24	0:32	0:26	0:24	0:22	0:21	0:20	0:19	0:18	0:17	0:16	0:15	0:14
27	0:25	0:19	0:18	0:17	0:16	0:16	0:14	0:13	0:12	0:12	0:11	0:10
30	0:20	0:16	0:15	0:13	0:12	0:12	0:11	0:10	0:10	0:09	0:09	0:08
33	0:17	0:12	0:11	0:11	0:10	0:09	0:09	0:08	0:08	0:08	0:07	0:07
36	0:14	0:10	0:09	0:09	0:08	0:08	0:07	0:07	0:07	0:06	0:06	0:06
39	0:11	0:08	0:08	0:07	0:07	0:07	0:06	0:06	0:06	0:06	0:05	0:05
42	0:09	0:07	0:07	0:07	0:06	0:06	0:06	0:05	0:05	0:05	0:05	0:05
45	0:08	0:06	0:06	0:06	0:06	0:05	0:05	0:05	0:05	0:05	0:04	0:04
48	0:07	0:06	0:06	0:05	0:05	0:05	0:05	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04
51	0:06	0:05	0:05	0:05	0:05	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04
54	0:06	0:05	0:05	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:03	0:03	0:03
57	0:05	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:04	0:03	0:03	0:03	0:03	0:03

■酸素曝露限界　(NOAAダイビングマニュアルより)

酸素分圧	最長持続時間 一潜水あたり		最長総持続時間 24時間あたり	
(ATA)	(min)	(hr)	(min)	(hr)
0.60	720	12.0	720	12.0
0.70	570	9.5	570	9.5
0.80	450	7.5	450	7.5
0.90	360	6.0	360	6.0
1.00	300	5.0	300	5.0
1.10	240	4.0	270	4.5
1.20	210	3.5	240	4.0
1.30	180	3.0	210	3.5
1.40	150	2.5	180	3.0
1.50	120	2.0	180	3.0
1.60	45	0.75	150	2.0

付録

ご使用上の注意

■異常があったら使用しないで下さい。

⚠ 警告

●ダイビングコンピューターに異常があったら使用しないで下さい。
●異常が見られた場合は、お買い上げ店もしくは弊社商品販売店にご相談ください。
正常でないダイブコンピューターの使用は人身事故につながる恐れがあります。

■バックアップツールをご用意ください。

⚠ 警告

本製品を使う場合も、バックアップツールとして他の機器(水深計、ダイバーズウォッチ等)と併用してください。

■安全ルールを守りましょう
潜水指導団体の講習を受け、Cカードを取得し、ダイブコンピューターの正しい使用方法を身に付けた後、あるいは潜水指導団体の指導のもとでご使用ください。
点検等はバディにも行ってもらいましょう。
一般的なレジャーダイビングの安全範囲である水深30mより深い水深でのダイビングは避けてください。

■フリーダイビングでご使用時の注意
〇スクーバダイビング後24時間以内のフリーダイビングは急浮上が繰り返されるため、減圧症になる危険性が高まります。このような潜水は減圧潜水になりやすく、大ケガ（重症）や死に至る危険性があります。
〇競技種目に参加される方は、認可を受けたフリーダイビングインストラクターから適切な教育と訓練を必ず受講してください。

■アレルギーにご注意ください
素肌への着用などの際、皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。万一、かぶれた場合は着用をやめ、皮膚科の専門医にご相談ください。

ご使用上の注意

■高所への移動や飛行機搭乗にご注意ください

警告
ダイビング終了直後、大きく気圧ランクが変わるような高所への移動や飛行機への搭乗は絶対に避けてください。気圧が下がるため減圧症になる危険性が非常に高くなります。

■エアー切れにご注意ください。

警告
本製品はエアー残量などを表示・管理していません。エアーの管理を残圧計などで確実に行ってください。

■強い空圧を与えないでください。

注意
エアブローなどで強い空圧を吹き付けないでください。センサー故障の原因となります。

■薬品類に関してご注意ください。

注意
アルコール、ガソリン等の溶剤類、化粧品等のスプレー液やクリーナー液、接着剤及び塗料などが付着したり、アルカリ、芳香族炭化水素、ハロゲン化炭化水素等で変質します。
これらにより防水性能の低下、破損することがありますので十分注意してください。

■ログデータの保存に関してご注意ください。

注意
電池の消耗や静電気、衝撃等により、コンピューターにリセットがかかり、データが消えることがあります。
ログデータはこまめに控えをおとり下さい。
何らかの原因でログデータが消失した場合、データの復旧・修復はできません。
ログデータが消失しても当社は一切の責任を負いかねます。
あらかじめご了承ください。

ご使用上の注意

■高温・低温・多湿にご注意ください
保管の際は本書記載の注意事項を必ず守ってください。特に極度に気温の高い所または低い所での保管は避けてください。センサーの故障などの原因となり、誤表示などの異常を招きます。

■チャンバーテストはしないでください
チャンバーテストをしないでください。特に空気ガスの圧力チャンバーテストはしないでください。圧力センサー故障の原因となります。

■改造・分解はしないでください
改造・分解は、安全上問題となることがあります。改造はしないでください。改造後のトラブルに関しては責任を負いかねます。

■カバーをはずさないでください
カバーをはずさないでください。センサーの故障や水没の原因となり、誤表示など故障の原因となります。カバーをはずした場合、保証の対象外となります。ご注意ください。

■ショックを与えないでください
本製品は精密機器です。落としたり、強くぶつけたりすると故障の原因となります。

■ベルトの亀裂にご注意ください
潜水前にベルトに亀裂がないか点検してください。何らかの原因でベルトが切れ、破損や紛失を招くことが考えられます。

■電池交換時の注意
バッテリーマークが表示(点灯及び点滅)したら電池交換してください。
電池交換を行うとログデータは消去されますのでログブック等に控えておいてください。

付録

保管・点検

注意

●高温の場所での保管は避けてください。性能が低下する恐れがあります。水の中に入れるなどして温度を下げてください。また、極端な低温も避けてください。
　〇特に圧力センサー性能が温度の影響を受けやすく、高度ランク、水深、水温などの計測精度が落ちたり、故障したりします。
　〇高温に長く放置すると表示パネルが黒変します。温度が下がれば正常に戻りますが、表示パネルの寿命が短くなります。
●ダイビング後は濡れたものと一緒に放置しないで下さい。

■乾燥・保管
・洗浄を十分に行います。
・直射日光を避け、涼しく、乾燥した風通しの良い日陰で十分に乾燥させ、保管します。
・やむを得ず高温または低温になってしまった場合は、常温に近い温度の水の中に放置してダイブコンピューター本体を常温状態に戻してください。

アフターサービス

アフターサービス

■メーカー保証
・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りの上、保証書に記載された所定のお手続きをお願いいたします。
（お手続きがない場合、保証されないことがあります。）
・保証期間は1年間です。
・機能を維持するためにも毎年のメンテナンスをお受けになることをお勧めいたします。
尚、1年間の保証期間には、毎年のメンテナンス費用は含まれていません。

■メンテナンスに出す際の注意点
記録されている全てのログデータは、メンテナンスを受ける際に消去されますので、ログブック等に控えてください。
メンテナンスにお出しになる際は依頼内容、氏名、住所、電話番号、を明記し、保証書を同封の上、お買い上げ販売店を通じてBismメンテナンス係へお送り下さい。
詳しくはBismのホームページをご覧下さい。

■部品の保有期間について
弊社はダイブコンピューター補修用の性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、もしくは弊社商品取扱販売店にご相談ください。

電池交換手順

注意
ユーザー電池交換に起因する故障はメーカー保証対象外となります。

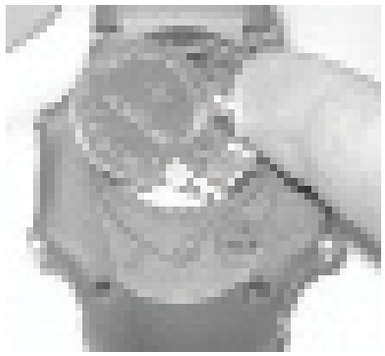
注意
電池交換の際には、以下の手続きを遵守して行って下さい。

注意
電池交換するときは、電池収納部に湿気やほこりが入らないように、極力注意してきれいな環境で作業を行って下さい。
（水没の原因となります）

【お知らせ】
電池交換すると、ログデータは消去されますのでログブック等に控えておいてください。

（図131）

内部への入湿を防ぐために、温湿度管理は非常に重要です。
（例：特に冷暖房がきいている部屋で電池を交換しないで下さい。
暑い外気のところから、冷房が効き過ぎた部屋に入った場合など、水滴が付く可能性があります。）
万一、内部になんらかの湿気が見られた場合は、適切なサービスを受けるまではダイビングで使用しないで下さい。


（図132）

■電池の取り外し
本体の裏側に電池の収納場所があります。
同封されている専用オープナーを使って、電池開閉蓋を時計回りに10度回して下さい。　（図131）
開閉蓋を開けて、電池を取り出して下さい。
接触端子を壊さないようにして、電池を電池収納場所から横に引き上げるようにして取り出して下さい。　（図132）
使用済み電池は、各地域の規則に従って処分して下さい。

電池交換手順

■点検
防水されている部分になんらかの損傷がないかどうか外見からよく確認して下さい。

> ⚠ 警告
> ボタンスイッチ、液晶表面、電池収納部周辺に亀裂や損傷がないかどうかを点検して下さい。
> 万一、破損や腐食している部分が見つかったら、点検修理にお出し下さい。

電池開閉蓋についている0リングを取り外し、蓋に劣化や損傷がないかチェックします。0リングを取り外すときは蓋に傷をつけないように十分注意して下さい。（水没の原因となります）
電池交換の際には必ず0リングを新品に交換して下さい。

> ⚠ 注意
> 電池開閉蓋と本体との接触部分に傷やゴミなどがないかどうか厳密に点検して下さい。

電池収納部分の内部に腐食が発生していないかどうかも厳密に確認して下さい。
万一、内部に腐食や湿気が見つかったら、点検修理にお出し下さい。
電池収納部分を清掃する場合は、酢50%と蒸留水50%の溶液できれいにふき取るようにして下さい。その後真水で溶液をふき取り、一晩そのまま乾かすか、あるいはドライヤー（冷風）で乾かして下さい。

> ⚠ 注意
> アルコールは絶対に使用しないで下さい。破損の原因となります。

■電池の取り付け
新品のCR2430のリチウム電池を、横からスライドさせるようにマイナスが下になるようにして電池収納場所に入れて下さい。
（図133）

（図133）

電池交換手順

⚠ 注意
電池のプラスとマイナスの向きにご注意ください。
（+面が外側、-面が内部側）

GEO取説P126
Fig.121
Battery
Hatch O-ring
を挿入

新しいOリングにシリコングリスを軽く塗って、開閉蓋の内側部分に取り付けて下さい。
溝に完全にはまっていることを確認して下さい。（図134）

（図134）

⚠ 注意
開閉蓋に取り付けるOリングは、必ずBism純正品をお使い下さい。
他のOリングを使用されると水没の原因となりますのでご注意下さい。

開閉蓋を電池収納部分にきっちりと合わせて置いて下さい。
均等に力を入れながら押しこみ、完全に密閉するように確認して下さい。
開閉蓋を元の位置にセットして、専用オープナーを使用して時計と反対方向に10度回して閉めて下さい。（図135）

（図135）

■ダイビング前点検
液晶画面がきれいかどうか、ガラスに傷がないか確認して下さい。
日付、時間、アラームを正しくセットしてください。
また、各設定を確認してください。(46ページ)
万一、画面に異常な表示や、濃淡が見られたり、電圧低下表示が出た場合は点検修理にお出し下さい。

付録

用語解説

ナイトロックス潜水・ 空気より酸素が高く、窒素が低い濃度で精製されている窒素と酸素の混合ガス(ナイトロックス)を用いて行う潜水です。

無減圧潜水・・・・・ レジャーダイバーが行うべき潜水です。減圧停止を絶対必要としないダイビングです。本製品はこの無減圧潜水を前提としています。

減圧潜水・・・・・・ レジャーダイバーが行ってはいけない潜水です。減圧停止を絶対必要とするダイビングです。本製品では万一のため減圧潜水での情報も表示しますが、危険なためおやめください。

無減圧潜水可能時間・ 潜水時の残りの潜水可能時間です。この時間を超えると減圧停止が必要となります。

体内窒素の最大許容値 無減圧潜水状態を保てる最大の体内窒素量です。体内窒素量のグラフが全部点灯することで最大許容値を超えたことを表します。

体内窒素の平衡状態・ 体内の窒素量が変化しない状態です。日常の状態です。
(正確には窒素の溶け込みと排出が常に同量で行われている状態です。)

体内窒素量・・・・・ 体内に溶け込んだ窒素量です。体内窒素量を溶け込む窒素の最大許容値に対する割合として体内窒素グラフで表示します。グラフが全部点灯すると最大許容値を超えたことを意味します。

体内酸素量・・・・・ 体内に溶け込んだ酸素量です。体内酸素量を溶け込む酸素の最大許容値に対する割合として体内酸素グラフで表示します。グラフが全部点灯すると最大許容値を超えたことを意味します。

安全停止・・・・・・ 安全を考慮し、無減圧潜水可能時間を超えていない場合でも体内窒素の排出を促すために水深3～6mに停止することです。

体内窒素排出時間・・ 潜水後体内に過剰に溶け込んだ窒素が排出されて平衡状態になるまでかかる時間です。

反復潜水・・・・・・ 前回のダイビングの残留窒素排出時間が経過し体内窒素が平衡状態になる前に、再度行う潜水です。

ダイビング・・・・・ 本書では、特に記載のない限りSCUBAダイビングをさします。

付録

仕様一覧

使用可能な機能

■時計機能
■ダイブコンピューター機能
■デジタル深度計
■フリーダイビング機能

無減圧演算モデル

■基礎理論　Haldaneアルゴリズムに従う
　　12組織コンパートメント
■データベース　　Dr. Roger/Powell
　　(Diving Science and Technology)
■パフォーマンス
　-SpencerによるM値　　5,10,20,40,80,120,
　　160,200,240,320,400,480
　-Reciprocal subsurface elimination計算
　-60分より早いｺﾝﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄに対し、
　　水面計算は60分間として補償管理
　-ｺﾝﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄﾃﾞｰﾀを潜水後24時間保持
■減圧停止水深　3,6,9,12,15,18m
■高所潜水アルゴリズム及び酸素蓄積計算
　NOAAの表による

時計モード

■国内時間
■海外時間
■カウントダウンタイマー
■クロノグラフ
■デイリーアラーム

ダイブコンピューター機能

■ノーマル、ゲージ、フリーモード
■潜水前計画
■飛行機搭乗待機時間
■脱飽和カウントダウン
■ダイブログ
■ヒストリー
■酸素データ(Nitrox)
■酸素比率設定、アラーム等

設定モード

	初期設定
■酸素比率設定	
-比率(21～50%)	Air
-デフォルト設定	On
■アラーム設定	
-警告音(ON/OFF)	On
-深度警告	100m
-潜水経過時間	3hr
-バーグラフ	5(Deco)
-残存潜水時間	20min
-酸素分圧	1.6ATA
■その他機能設定	
-接水起動	On
-表示単位	m/℃
-安全停止	3min 5m
-セーフティ設定	Off
-バックライト	5sec
-サンプリング	15sec

■シリアルナンバー

仕様一覧

表示

■ノーマル無減圧潜水画面表示
・メイン画面：バーグラフ、経過潜水時間、残存潜水時間、現在水深
・補助画面１：酸素バーグラフ、最大水深、現在酸素分圧、酸素比率設定値
・補助画面２：曜日、温度、現在時刻
・安全停止画面：バーグラフ、停止深度、停止時間、残存潜水時間、現在水深
■ノーマル減圧潜水画面表示
・メイン画面：バーグラフ、停止深度、停止時間、合計浮上時間、現在水深
・補助画面１：バーグラフ、停止深度、潜水経過時間、合計浮上時間、現在水深
・補助画面２：酸素バーグラフ、最大水深、現在酸素分圧、酸素比率設定値
・補助画面３：曜日、温度、現在時刻
■ノーマル違反モード画面表示　条件付、計測範囲、緊急、違反ゲージ
■ノーマル高酸素分圧画面表示　(1.20～1.60ATA)
■ノーマル高体内酸素蓄積量画面表示　(24時間または1ダイブにおいて300 OTU)
■ゲージ潜水画面表示
・メイン画面："GAUG"表示、経過潜水時間、現在水深
・補助画面１："GAUG"表示、経過潜水時間、最大水深
・補助画面２：曜日、温度、現在時刻
■フリー潜水画面表示
・メイン画面："FREE"表示、潜水経過時間、残存潜水時間、現在水深
・カウントダウンタイマーステータス画面："TIMR"表示、タイマー設定、カウントダウン時間
・補助画面：曜日、温度、現在時刻

仕様一覧

■数値表示項目	範囲	表示単位
・ダイブナンバー	0～24	1
・現在水深	0～100m	0.1m
・最大水深	100m	0.1m
・酸素比率設定値	Air,21～50%	1%
・酸素分圧値	0.00～5.00ATA	0.01ATA
・残存潜水時間	0:00～9:59 hr:min	1min
・合計浮上時間	0:00～9:59 hr:min	1min
・安全停止	5:00～0.00 min:sec	1sec
・減圧停止	0:00～9:59 hr:min	1min
・潜水経過時間	0:00～9:59 hr:min	1min
・フリー潜水時間	0:00～59.59 min:sec	1sec
・水面休息時間	0:00～23:59 hr:min	1min
・フリー水面休息時間	0:00～59.59 min:sec	1sec
	1:00～23:59 hr:min	1min
・飛行機搭乗待機時間	23:50～0:00 hr:min (浮上10分後から開始)	1min
・脱飽和時間	最大23:50～0:00 hr:min (浮上10分後から開始)	1min
・温度	-9～60℃	1℃
・時計モード時刻表示	0:00:00～23:59:59 hr:min:sec	1sec
・ダイブモード時刻表示	0:00～23:59 hr:min	1min
・カウントダウンタイマー	23:59～0:00 hr:min	1min
・フリーカウントダウンタイマー	59.59～0:00 min:sec	1sec
・クロノグラフ	0:00:00.00～9:59:59.99 hr:min:sec.1/100sec	1/100sec
・計測範囲外(---)	100m以深	
・違反カウントダウンタイマー	23:50～0:00 hr:min (違反後)	

仕様一覧

バーグラフ

■体内窒素バーグラフ	目盛	■体内酸素バーグラフ	目盛
・無減圧潜水	1～4	・通常領域	1～4
・減圧潜水	5(全て)	・危険領域	5(全て)

機能性

■重量　75g

■機能　　精度

・深度　　±1%(Full Scale)

・タイマー　　日差1秒

■ダイブナンバー

・ノーマル・ゲージモード：最大#24、フリーモード：最大＃99

・前回ダイビングから24時間経過後、番号リセット

■ログモード(ノーマル・ゲージモード)

・最新24本分のログを記憶し、表示可能

・25本目以降は最も古いデータが削除

■電源

・電池　　CR2430　ボタン型リチウム電池

・電池寿命　　約3年(時計のみの場合)
但し出荷時のスリープモードのままの場合は約7年
使用状況や保管状態によって電池寿命は大きく変わることがあります。

・電池交換目安　年間 50ダイブで約2年
年間300ダイブで約1年
(1ダイブは1時間以内として)

・電池交換　　ユーザー交換可能

■残電圧表示

・警告　　：バッテリーマークが点灯(2.75V以下)電池交換推奨

・アラーム：バッテリーマークが点滅(2.50V以下)電池交換必要

仕様一覧

■高度センサー
・標高0～4,270mまで計測　(標高915mから305mごとに補正)
・時計モード時は30秒ごと、ダイブモード時は15秒ごとに計測
・水分感知時は計測不可
■セーフティ設定
・高度が実際より915m高い条件で無減圧潜水可能時間を計算
■ダイブコンピューターモード起動について
・手動…ボタン押して起動　接水起動設定OFFの場合
・自動…潜水で起動　接水起動設定ONの場合(推奨)
・水分感知画面表示　“WET”
・接水起動設定OFFの場合、水深1.2m以深での手動起動不可能
・4,270m以上の標高で使用不可能(時計機能除く)
・サーフェスモード切替後、2時間以内にダイビングが行われない場合、時計モードへ移行
・浮上10分後、時刻モードへ移行
■作動温度条件
・陸上…-6～60℃
・水中…-2～35℃
・極低温下では液晶の反応が遅くなることがありますが、精度には影響しません。
冷凍庫のような環境で保管、運搬される場合は、ご使用前に本機を人肌であたためてください。
■保管条件
・温度8～60℃の乾燥した環境

裏表紙